

Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーガイド

お使いのコンピュータの マニュアル

[お使いのコンピュータに関する情報の検索](#)
[仕様](#)
[システム基板のコンポーネント](#)
[コンピュータのクリーニング](#)

コンピュータについて

[コンピュータの正面](#)
[コンピュータの側面](#)
[コンピュータの背面](#)
[背面パネルコネクタ](#)
[VGA モニターの接続](#)
[2 台のモニターの接続](#)
[コンピュータの内部](#)
[ケーブルカバー \(オプション\)](#)
[電源アダプタの接続](#)
[バッジ](#)

アドバンス機能

[ハイバースレップテイング](#)
[ジャンパ設定](#)
[LegacySelect テクノロジコントロール](#)
[管理機能](#)
[パスワードによる保護](#)
[電力の管理](#)
[セキュリティ機能](#)
[セットアップユーティリティ](#)

部品の取り付けと取り外し

[はじめに](#)
[コンピュータカバーの取り外し](#)
[バッテリー](#)
[シャーシントルージョンスイッチ](#)
[シャーシスピーカー](#)
[ハードドライブ](#)
[メモリ](#)
[モジュールベイ](#)
[プロセッサ](#)
[コンピュータカバーの取り付け](#)

トラブルシューティングツールと ユーティリティ

[Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)
[電源アダプタライク](#)
[システムライト](#)
[診断ライト](#)
[ビーブロード](#)
[エラーメッセージ](#)
[ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決](#)

問題の解決

[バッテリーの問題](#)
[電源の問題](#)
[ドライブの問題](#)
[プリンタの問題](#)
[キーボードの問題](#)
[デフォルト設定の復元](#)
[コンピュータおよびソフトウェアの問題](#)
[シリアルまたはパラレルデバイスの問題](#)
[メモリの問題](#)
[サウンドとスピーカーの問題](#)
[マウスの問題](#)
[ビデオとモニターの問題](#)
[ネットワークの問題](#)




ドライバとオペレーティングシステムの再イン ストール

[ドライバ](#)
[Microsoft® Windows® XP システムの復元の使い方](#)
[Microsoft Windows XP の再インストール](#)

追加情報

[Microsoft® Windows® XP の特徴](#)
[困ったときは](#)
[用語集](#)
[品質の保証について](#)

メモ、注意、および警告

-  **メモ:** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。
-  **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示します。

略語

略語の一覧は、「[用語集](#)」を参照してください。

Dell™ n シリーズコンピュータをご購入いただいた場合、このマニュアルの Microsoft® Windows® オペレーティングシステムについての説明は適用されません。

このマニュアルの内容は予告なく変更されることがあります。
© 2004 すべての著作権は Dell Inc. にあります。

Dell Inc. からの書面による許可なしには、いかなる方法においてもこのマニュアルの複写、転載を禁じます。

このマニュアルに使用されている商標: Dell, DELL のロゴ, OptiPlex, Inspiron, Dimension, Latitude, Dell Precision, DellNet, Dell Travellite, PowerApp, PowerEdge, PowerConnect, PowerVault, Axim, および Dell OpenManage は、Dell Inc. の商標です。Intel, Pentium, および Celeron は、Intel Corporation の登録商標です。Microsoft, Windows NT, MS-DOS, および Windows は、Microsoft Corporation の登録商標です。Bluetooth は、Bluetooth SIG, Inc. の商標で、Dell Inc. が使用許可を所有します。ENERGY STAR は、U.S. Environmental Protection Agency の登録商標です。Dell Inc. は ENERGY STAR と提携しており、本製品は ENERGY STAR のエネルギー効率に関するガイドラインに適合しています。

このマニュアルでは、上記以外の商標や会社名が使用されている場合があります。これらの商標や会社名は、一切 Dell Inc. に所属するものではありません。

モデル DCTR

2004 年 4 月 P/N F3287 Rev. A00

コンピュータについて

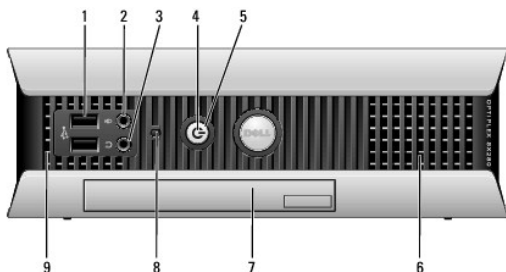
Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド

- [コンピュータの正面](#)
- [コンピュータの側面](#)
- [コンピュータの背面](#)
- [背面パネルコネクタ](#)
- [VGA モニターの接続](#)
- [2 台のモニターの接続](#)
- [コンピュータの内部](#)
- [ケーブルカバー \(オプション\)](#)
- [電源アダプタの接続](#)
- [バッジ](#)

- ➡ **注意:** 通気性を確保するため、冷却孔を塞がないでください。
- ➡ **注意:** コンピュータをセットアップする際は、コンピュータの正面と背面のまわりに 6 cm 以上の換気スペースを確保してください。
- ➡ **注意:** モニターをコンピュータの上に置かないでください。モニタースタンドを使用してください。
- ➡ **注意:** コンピュータをセットアップする際は、ケーブルが引っ張られたり、もつれたり、踏まれないようにすべてのケーブルを作業場所の後ろ側に置いてください。
- 📌 **メモ:** お使いのコンピュータを机の下や壁に設置する場合、オプションの壁用設置ブラケットを使用してください。このブラケットのご注文は、[デルにお問い合わせください](#)。

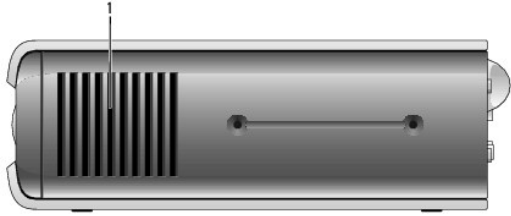


コンピュータの正面



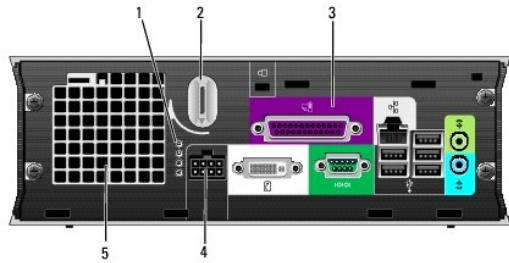
1	USB コネクタ (2)	マウス、キーボード、メモリーキー、プリンタ、ジョイスティック、およびコンピュータスピーカーなどの USB デバイスをどちらかの USB コネクタに接続します。
2	マイクコネクタ	マイクをこのコネクタに接続します。
3	ヘッドフォンコネクタ	ヘッドフォンをこのコネクタに接続します。
4	電源ライト	電源ライトは、点滅したり点灯することで異なる状態を示します。 <ul style="list-style-type: none"> ！ 消灯 — コンピュータは電源が切れた状態 (S4、S5、または機械的にオフ) ！ 緑色の点灯 — コンピュータは通常の動作状態 ！ 緑色の点滅 — コンピュータは省電力状態 (S1 または S3) ！ 黄色の点滅または点灯 — 「電源の問題」を参照してください。 <p>省電力状態から復帰するには、電源ボタンを押すか、Windows デバイスマネージャで復帰デバイスとして設定されている場合、キーボードかマウスを使います。休止状態および省電力状態からの復帰の詳細については、「電力の管理」を参照してください。</p> <p>コンピュータのトラブルシューティングに役立つライトコードの説明は、「診断ライト」を参照してください。</p>
5	電源ボタン	このボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。 <p>注意: データの損失を防ぐため、電源ボタンを使ってコンピュータの電源を切らないでください。電源ボタンを押す代わりに、Microsoft® Windows® のシャットダウンを実行してください。</p>
6	通気孔	コンピュータ内の換気をおこないます。通気性を確保するため、これらの冷却孔を塞がないでください。
7	モジュールベイ	D モジュール CD/DVD ドライブ、セカンドハードドライブ、またはフロッピードライブをモジュールベイに取り付けます。
8	ハードドライブライト	ハードドライブライトは、コンピュータがハードドライブからデータを読み書きする際に点灯します。このライトは、CD プレーヤーなどのデバイスが動作中も点灯します。
9	通気孔	コンピュータ内の換気をおこないます。通気性を確保するため、これらの冷却孔を塞がないでください。

コンピュータの側面



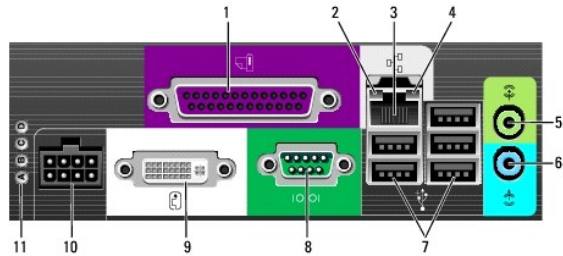
1 通気孔 コンピュータの側面にある通気孔でコンピュータ内の換気をおこないます。通気性を確保するため、これらの冷却孔を塞がないでください。

コンピュータの背面



1 診断ライト	コンピュータのトラブルシューティングに役立つライトコードの説明は、「 診断ライト 」を参照してください。
2 コンピュータカバーリリースノブ	このノブを時計回りに回して、カバーを取り外します。
3 背面パネルコネクタ	コンピュータ用のコネクタです。
4 電源コネクタ	電源アダプタ用のコネクタです。
5 通気孔	コンピュータ内の換気をおこないます。通気性を確保するため、これらの冷却孔を塞がないでください。

背面パネルコネクタ

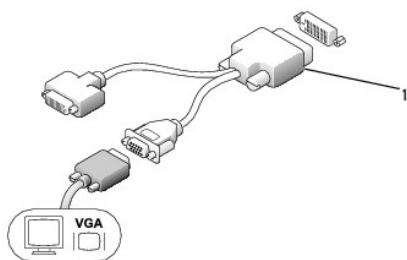


1 パラレルコネクタ	プリンタなどのパラレルデバイスをパラレルコネクタに接続します。USB プリンタをお使いの場合、USB コネクタに差し込みます。
2 リンク健全ライト	<ul style="list-style-type: none"> ! 緑色 — 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ! 橙色 — 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ! 黄色 — 1000 Mbps (1 Gbps) ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ! オフ — コンピュータがネットワークへの物理的な接続を検出していないか、Network Controller がセットアップユーティリティでオフになっています。
3 ネットワークアダプタ	<p>UTP ケーブルを UTP 集線デバイスまたはハブにある RJ45 ジャックの側面あるいは RJ45 ポートに接続し、UTP ケーブルのもう一方の端をケーブルが所定の位置にカチッと収まるまでネットワークアダプタコネクタに押し込みます。</p> <p>お客様のネットワーク用には、カテゴリ 5 のケーブルとコネクタのご使用をお勧めします。</p>
4 ネットワーク動作ライト	コンピュータがネットワークデータを送受信している際に、橙色のライトが点滅します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。
5 ライン出力コネクタ	緑色のライン出力コネクタを使って、内蔵アンプ付きのスピーカーを接続します。
6 ライン入力コネクタ	青色のライン入力コネクタを使って、カセットプレーヤー、CD プレーヤー、または VCR などの録音 / 再生デバイスを接続します。
7 USB コネクタ (5)	マウス、キーボード、プリンタ、ジョイスティック、コンピュータスピーカーなどの USB デバイスをいずれかの USB コネクタに接続します。

8	シリアルコネクタ	ハンドヘルドデバイスなどのシリアルデバイスをシリアルコネクタに接続します。
9	ビデオコネクタ	DVI 互換モニターをお持ちの場合、モニターからのケーブルを背面パネルの白色の DVI ディスプレイコネクタに接続します。 VGA モニターをお持ちの場合、「 VGA モニターの接続 」を参照してください。
10	電源コネクタ	電源アダプタ用のコネクタです。
11	診断ライト	コンピュータのトラブルシューティングに役立つライトコードの説明は、「 診断ライト 」を参照してください。

VGA モニターの接続

VGA 互換モニターをお持ちの場合、アダプタケーブルを使ってモニターからのケーブルを背面パネルの白色の DVI ディスプレイコネクタに接続します。

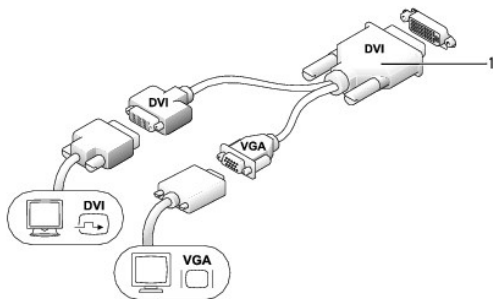


1 アダプタケーブル

2 台のモニターの接続

アダプタケーブルを使って、VGA モニターと DVI モニターの両方を背面パネルの白色の DVI ディスプレイコネクタに接続します。

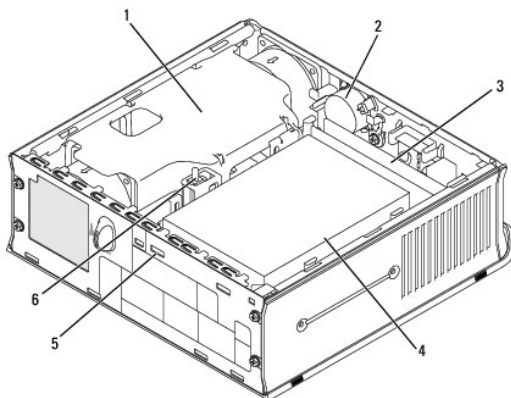
2 台のモニターを接続すると、ドライバが接続を検出してマルチモニター機能を有効にします。



1 アダプタケーブル

コンピュータの内部

- ⚠ **警告:** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。
- ⚠ **警告:** 感電を防ぐため、カバーを取り外す前に、必ずコンピュータの電源プラグを電源アダプタから抜いてください。
- ⚠ **警告:** コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を逃がすことができます。

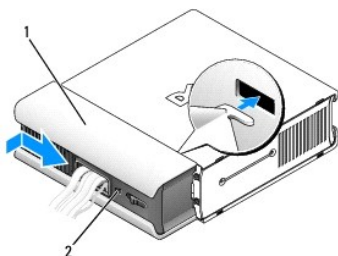


1	マイクロプロセッサヒートシンクファンのカバー	4	ハードドライブ
2	スピーカー（オプション）	5	セキュリティケーブルスロット
3	メモリモジュール（2）	6	シャーシントルージョンスイッチ

ケーブルカバー（オプション）

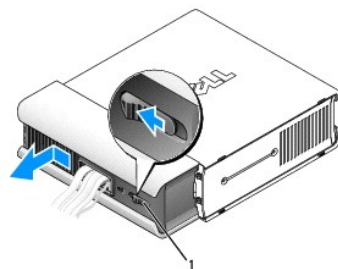
ケーブルカバーの取り付け

1. すべての外付けデバイスケーブルが、ケーブルカバーの穴に通じてあるか確認します。
2. コンピュータ背面のコネクタにすべてのデバイスケーブルを接続します。
3. ケーブルカバーの底部を持ち、コンピュータの背面パネルの4つのスロットと4つのタブを揃えます。
4. タブをスロットに挿入し、ケーブルカバーが確実に所定の位置に収まるまで、底部を診断ライトの方にスライドさせます（図を参照）。
5. セキュリティケーブルスロットに盗難防止デバイスを取り付けます（オプション）。



1	ケーブルカバー
2	セキュリティケーブルスロット

ケーブルカバーの取り外し



1 リリースボタン

1. セキュリティケーブルスロットに盗難防止デバイスを取り付けている場合、デバイスを取り外します。
2. リリースボタンを押してケーブルカバーを握り、カバーが止まるまで左側にスライドします。次に、ケーブルカバーを持ち上げて外します。

電源アダプタの接続

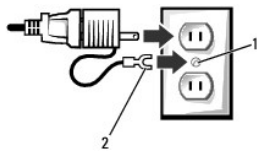
警告: 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

1. コンピュータ背面のコネクタに電源アダプタを接続します。接続を確実にするために、ラッチが完全にはまっているか確認します。(カチッと音が聞こえるか感じます。)
2. AC 電源ケーブルの片方を電源アダプタに接続します。

警告: お使いの電源アダプタケーブルに緑色のアース線がある場合、絶対に緑色のアース線と電源の導線を接触させないでください。感電、火災、またはコンピュータが損傷する恐れがあります。



3. お使いの AC 電源ケーブルにコンセント接続用の緑色のアース線がある場合、金属製のアースコネクタをコンセントのアース端子に接続します(下図を参照)。
 - a. アース端子のネジを緩めます。
 - b. 金属製のアースコネクタをアース端子の後ろ側へ差し込んで、アース端子のネジを締めます。



1	アース端子
2	金属製のアースコネクタ

4. AC 電源ケーブルをコンセントに接続します。

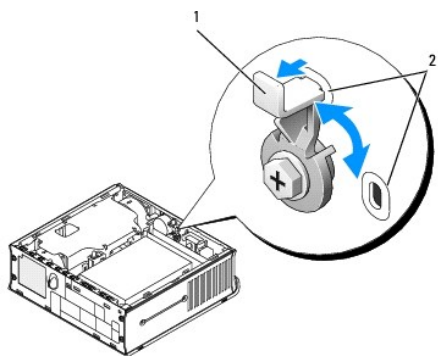


バッジ

警告: 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

お使いのコンピュータの前面にあるバッジは回すことができます。バッジを回すには、次の手順を実行します。

1. [コンピュータカバーを取り外します。](#)
2. レバーを引いて、スロットからノッチを解除します。
3. ノッチがスロットに確実にハマっているか確認しながら、バッジを希望の位置に回します。



1	レバー
2	スロット

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

アドバンス機能

Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド

- [ハイパースレディング](#)
- [ジャンパ設定](#)
- [LegacySelect テクノロジコントロール](#)
- [管理機能](#)
- [パスワードによる保護](#)
- [電力の管理](#)
- [セキュリティ機能](#)
- [セットアップユーティリティ](#)

ハイパースレディング

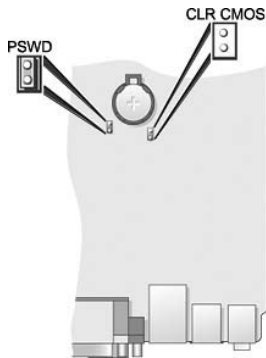
ハイパースレディングは、Intel® のテクノロジーで、1 つの物理プロセッサを 2 つの論理プロセッサとして機能させることによってパフォーマンスを全体的に向上させて、複数の特定のタスクを同時に処理することを可能にします。Windows XP オペレーティングシステムは、ハイパースレディングテクノロジーを利用するために最適化されているので、Microsoft® Windows® XP SP1 以降のオペレーティングシステムを使用することをお勧めします。多くのプログラムは、ハイパースレディングの恩恵を受けることとなりますが、ハイパースレディング用に最適化されていないプログラムもあります。それらのプログラムは、ソフトウェア製造元によるアップデートが必要な場合があります。アップデートやハイパースレディングでソフトウェアを使用する方法については、ソフトウェア製造元にお問い合わせください。

お使いのコンピュータがハイパースレディングテクノロジーを使用しているか確認するには、次の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**マイコンピュータ** を右クリックして、**プロパティ** をクリックします。
2. **ハードウェア** をクリックして、**デバイスマネージャ** をクリックします。
3. **デバイスマネージャ** ウィンドウで、プロセッサタイプの横の (+) サインをクリックします。ハイパースレディングが有効な場合、プロセッサは 2 つ表示されています。

セットアップユーティリティを使って、ハイパースレディングを有効または無効にすることができます。

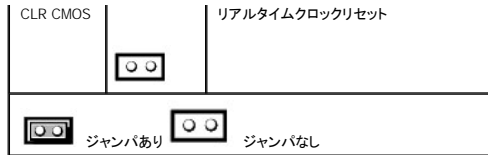
ジャンパ設定



- **注意:** ジャンパの設定を変更する前に、お使いのコンピュータの電源がオフでコンセントから外されているか確認してください。電源が入ったまま変更しようとすると、コンピュータを損傷したり予期できない結果を招く恐れがあります。
- **注意:** コンピュータ内部に触れる前に、コンピュータ背面の金属部など塗装されていない金属面に触れて、身体の静電気を逃がしてください。作業中も、定期的に塗装されていない金属面に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を逃がしてください。

ジャンパ設定を変更するには、ピンから抜いたプラグを、指定のピンに注意深く押し込みます。

ジャンパ	設定	説明
PSWD	 (デフォルト)	パスワード機能が有効になっています。
		パスワード機能が無効になっています。



パスワードを忘れたら

警告: 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

注意: この手順をおこなうと、システムパスワードと管理者パスワードの両方が消去されます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. [ハードドライブを取り外します。](#)
3. システム基板上の 2 ピンパスワードジャンパ (PSWD) を取り外します。
4. ハードドライブを取り付けます。
5. コンピュータカバーを取り付けます。
6. コンピュータとモニターをコンセントに接続して、電源を入れます。
7. コンピュータに Microsoft® Windows® のデスクトップが表示されたら、コンピュータをシャットダウンします。
8. モニターの電源を切って、コンセントから外します。
9. コンピュータの電源ケーブルをコンセントから外し、電源ボタンを押して、システム基板の静電気を逃がします。
10. コンピュータカバーを取り外します。
11. ハードドライブを取り外します。
12. PSWD ジャンパを取り付けます。
13. ハードドライブを取り付けます。
14. コンピュータカバーを取り付けます。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

15. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

メモ: これで、パスワード機能は有効になります。セットアップユーティリティを起動すると、システムパスワードオプションと管理者パスワードオプションの両方が Not Enabled と表示されません (パスワード機能は有効ですが、パスワードが設定されていません)。

16. 新しいシステムパスワード、または管理者パスワードを設定します。

CMOS 設定のリセット

警告: 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. [ハードドライブを取り外します。](#)
3. 現在の CMOS 設定をリセットするには、次の手順を実行します。
 - a. システム基板上のパスワード (PSWD) ジャンパと CLR CMOS ジャンパの位置を確認します。
 - b. パスワードジャンパをピンから取り外します。
 - c. パスワードジャンパを CLR CMOS ピンに被せて、5 秒間待ちます。
 - d. CLR CMOS ピンからジャンパを取り外して、パスワードピンに取り付けなおします。

4. ハードドライブを取り付けます。
5. コンピュータカバーを取り付けます。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

6. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

LegacySelect テクノロジコントロール

LegacySelect テクノロジコントロールは、共通プラットフォーム、ハードドライブイメージ、およびヘルプデスク手続きを基本としたレガシーフル、レガシー限定、またはレガシーフリーソリューションを提供します。管理者は、セットアップユーティリティ、Dell OpenManage™ IT Assistant、または Dell™ カスタムファクトリー統合を介して管理できます。

管理者は LegacySelect を使用して、シリアルコネクタ、USB コネクタ、またはパラレルコネクタを含むコネクタやメディアデバイスを電子的に有効または無効にすることができます。コネクタおよびメディアデバイスを無効にして、リソースを利用可能にします。変更を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。

管理機能

ASF (Alert Standard Format)

ASF は、「プリオペレーティングシステム」または「オペレーティングシステム不在」警告技術を指定する DMTF 管理標準です。オペレーティングシステムがスリープ状態にあるとき、またはコンピュータの電源が切れているときに、セキュリティの問題および障害が発生している可能性があるという警告を発するよう設定されています。ASF は、オペレーティングシステム不在の際の従来の警告方法に代わるものとして設計されています。

お使いのコンピュータは、以下の ASF バージョン 1.03 警告およびリモート機能をサポートします。

警告	説明
Chassis: Chassis Intrusion - Physical Security Violation/Chassis Intrusion - Physical Security Violation Event Cleared	コンピュータシャーシが開けられたか、または、シャーシイントルージョン警告が消去されました。
CPU: Emergency Shutdown Event	プロセッサ温度が高すぎて電源装置がシャットダウンしました。
Cooling Device: Generic Critical Fan Failure/Generic Critical Fan Failure Cleared	ファン速度 (rpm) が限界値を超えています。またはファン速度 (rpm) の問題が解決しました。
Temperature: Generic Critical Temperature Problem/Generic Critical Temperature Problem Cleared	コンピュータ温度が限界値を超えています。またはコンピュータ温度の問題が解決しました。
Battery Low	システムバッテリーが 2.2V 以下になりました。

デルの ASF 導入の詳細については、デルサポートウェブサイト support.jp.dell.com で入手できる『ASF ユーザーズガイド』および『ASF 管理者ガイド』を参照してください。

Dell OpenManage IT Assistant

IT Assistant は、企業のネットワーク上のコンピュータやその他のデバイスを設定、管理、監視します。IT Assistant は、業界標準の管理ソフトウェアを装備したコンピュータの資産、設定、イベント（警告）、セキュリティを管理します。また、SNMP、DMI、および CIM の業界標準に準拠する計装をサポートします。

DMI と CIM を基本にした Dell OpenManage Client Instrumentation (クライアント用ソフトウェア) は、お使いのコンピュータで使用できます。IT Assistant の情報は、Dell サポートウェブサイト support.jp.dell.com で入手できる『Dell OpenManage IT Assistant ユーザーズガイド』を参照してください。

Dell OpenManage Client Instrumentation (クライアント用ソフトウェア)

Dell OpenManage Client Instrumentation (クライアント用ソフトウェア) は、IT Assistant などのリモート管理プログラムが、以下を実行するのを可能にします。

- 1 お使いのコンピュータについての情報へのアクセス (搭載されているプロセッサの数や実行されているオペレーティングシステムの種類など)
- 1 コンピュータのステータスの監視 (温度プローブからの熱警告やストレージデバイスからのハードドライブ障害警告を受信することなど)
- 1 お使いのコンピュータのステータスの変更 (BIOS のアップデート、またはリモートでのシャットダウンなど)

管理システムは、IT Assistant を使ってネットワーク上で Dell OpenManage Client Instrumentation (クライアント用ソフトウェア) がセットアップされているコンピュータです。Dell OpenManage Client Instrumentation (クライアント用ソフトウェア) については、デルサポートウェブサイト support.jp.dell.com で入手できる『Dell OpenManage Client Instrumentation (クライアント用ソフトウェア) ユーザーズガイド』を参照してください。

パスワードによる保護

- **注意:** パスワードはコンピュータ内のデータに対してセキュリティを提供しますが、絶対に安全であるというわけではありません。より強固なセキュリティが必要なデータについては、データ暗号化プログラムなどの保護機能をご自身でご用意ください。

システムパスワード

- **注意:** システムパスワードを設定せずに操作中のコンピュータから離れたり、コンピュータをロックせずに放置した場合には、第三者がジャンパ設定を変更し、パスワードを解除することができます。その結果、誰でもハードドライブ内のデータにアクセスできるようになります。

オプション設定

以下の 2 つのオプションのいずれかが表示されている場合、システムパスワードの変更や新しいパスワードの入力はできません。

- 1 **Set** — システムパスワードが設定されています。
- 1 **Disabled** — システム基板のジャンパ設定によって、システムパスワードが無効になっています。

以下のオプションが表示された場合にのみ、システムパスワードを設定できます。

- 1 **Not Set** — システムパスワードが設定されていない状態で、システム基板のパスワードジャンパが有効設定 (デフォルト) になっています。

システムパスワードの設定

システムパスワードの入力を途中で中止したい場合は、<Tab> または <Shift><Tab> を押して別のフィールドに移動するか、手順 5 を終了する前に <Esc> を押します。

- 1 [セットアップユーティリティを起動して](#)、**Password Status** が **Unlocked** に設定されているか確認します。
- 2 **System Password** をハイライト表示して、左右矢印キーを押します。

オプション名が **Enter Password** に変わり、その後ろに 32 文字分の空のフィールドが現れます。

- 3 新しいシステムパスワードを入力します。

32 文字まで入力できます。入力した文字を訂正する場合、<Backspace> または左矢印キーを押します。パスワードは、大文字と小文字を区別しません。

無効なキーの組み合わせもあります。そのような組み合わせで入力すると、スピーカーからピープ音が鳴ります。

それぞれの文字キー (または空白としてのスペースバー) を押すごとに「*」が表示されます。

- 4 <Enter> を押します。

新しいシステムパスワードが 32 文字未満の場合、フィールド全部に「*」が挿入されます。次に、オプション名が **Verify Password** に変わり、その後ろに 32 文字分の別の空のフィールドが現れます。

- 5 パスワードを確認するために、再度パスワードを入力して <Enter> を押します。

パスワード設定は **Set** に変わります。

- 6 セットアップユーティリティを終了します。

コンピュータを再起動すると、パスワード保護機能は有効になります。

システムパスワードの入力

コンピュータを起動または再起動すると、以下のプロンプトの 1 つが画面に表示されます。

Password Status が Unlocked に設定されている場合

```
Type in the password and
- press <ENTER> to leave password security enabled.
- press <CTRL><ENTER> to disable password security.
Enter password:
(パスワードを入力して、<Enter> を押すと、パスワードセキュリティは有効なままです。<Ctrl><Enter> を押すと、パスワードセキュリティは無効になります。パスワードを入力してください。)
```

Password Status が Locked に設定されている場合

```
Type the password and press <Enter>.
(パスワードを入力して、<Enter> を押してください。)
```

管理者パスワードが設定されている場合、コンピュータは管理者パスワードをシステムパスワードの代用として受け付けます。


入力したシステムパスワードが間違っていると、次のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password. ** (誤ったパスワード。)
```

再び誤ったパスワードまたは不完全なパスワードを入力すると、同じメッセージが表示されます。システムパスワードを 3 回間違えると、それ以降は以下のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password. **
Number of unsuccessful password attempts: 3
System halted! Must power down.
(誤ったパスワード。間違ったパスワード入力の回数: 3 システムが停止しました！電源を落としてください。)
```

コンピュータの電源を入れなおした後も、再び誤ったシステムパスワード、または不完全なシステムパスワードを入力するたびに、上記のメッセージが表示されます。

 **メモ:** System Password と Admin Password を併用して Password Status を使用すると、無許可の変更に対してコンピュータの保護を強化できます。

システムパスワードの取り消しと変更

1. [セットアップユーティリティを起動して](#)、Password Status が Unlocked に設定されているか確認します。
2. コンピュータを再起動します。
3. プロンプトが表示されたら、システムパスワードを入力します。
4. <Ctrl><Enter> を押して、既存のシステムパスワードを無効にします。
5. System Password オプションに Not Set と表示されているか確認します。

Not Set と表示されている場合、システムパスワードは削除されています。Not Set と表示されていない場合、<Alt> を押してコンピュータを再起動し、手順 3 ~ 手順 5 を繰り返します。

[「システムパスワードの設定」](#)の手順に従って、新しいパスワードを設定します。

6. セットアップユーティリティを終了します。

管理者パスワード

オプション設定

以下の 2 つのオプションのいずれかが表示されている場合、管理者パスワードの変更や新しいパスワードの入力はできません。


- 1 Set — 管理者パスワードが設定されています。
- 1 Disabled — システム基板のジャンパ設定によって、管理者パスワードが無効になっています。

以下のオプションが表示された場合にのみ、管理者パスワードを設定できます。

- 1 Not Set — 管理者パスワードが設定されていない状態で、システム基板のパスワードジャンパが有効設定（デフォルト）になっています。

管理者パスワードの設定

管理者パスワードとシステムパスワードは同じでもかまいません。

 **メモ:** これらのパスワードが異なる場合でも、管理者パスワードをシステムパスワードの代わりに入力することができます。ただし、システムパスワードは、管理者パスワードの代わりに使用することはできません。

- 1 [セットアップユーティリティを起動して](#)、Admin Password が Not Set に設定されているか確認します。
- 2 Admin Password をハイライト表示して、左右矢印キーを押します。

パスワードの入力と確認のプロンプトが表示されます。パスワードに使用できない文字の場合、ピーブ音が鳴ります。

- 3 パスワードを入力して確認します。

パスワードの確認が終わると、Admin Password の設定は、Set に変わります。これ以降は、セットアップユーティリティを起動する際に、管理者パスワードの入力を求められます。


- 4 セットアップユーティリティを終了します。

Admin Password の変更は、ただちに有効になります（コンピュータを再起動する必要ありません）。

管理者パスワードが有効な場合のコンピュータの操作

セットアップユーティリティを起動すると、Admin Password オプションがハイライト表示され、パスワードの入力を求められます。

正しいパスワードを入力しないと、セットアップオプションを変更することはできませんが、セットアップユーティリティ画面は表示されます。

 **メモ:** Admin Password と一緒に Password Status を使用すると、無許可の変更に対してシステムパスワードを保護できます。

管理者パスワードの削除と変更

既存の管理者パスワードを変更するには、そのパスワードを知っている必要があります。

- 1 [セットアップユーティリティを起動します](#)。
- 2 プロンプトで管理者パスワードを入力します。
- 3 Admin Password をハイライト表示させ、左右矢印キーを押して、既存の管理者パスワードを削除します。

設定は Not Set に変わります。

「[システムパスワードの設定](#)」の手順を実行して、新しい管理者パスワードを設定します。

- 4 セットアップユーティリティを終了します。

忘れたパスワードの取り消しと新しいパスワードの設定


システムパスワードまたは管理者パスワードをリセットするには、「[パスワードを忘れたら](#)」を参照してください。

電力の管理

お使いのコンピュータは、作業しない場合に少ない電力で動作するよう設定できます。コンピュータにインストールされたオペレーティングシステムおよびセットアップユーティリティの特定のオプション設定を使って、電力使用を制御します。節電されている期間を「スリープ状態」と呼びます。


- 1 **スタンバイ** — このスリープ状態では、ほとんどのコンポーネント（冷却ファンを含む）への電力は低減されているか、切られています。ただし、システムメモリはアクティブです。

この状態は、Windows NT 4.0 ではサポートされていません。

 **メモ:** スタンバイ状態になるには、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネントがこの機能をサポートし、また適切なドライバがロードされている必要があります。詳細については、各コンポーネントの製造元のマニュアルを参照してください。

- 1 **休止状態** — このスリープ状態は、システムメモリのすべてのデータをハードドライブに書き込み、次に、システム電源を切ることによって、電力消費を最小にします。この状態からウェイクアップするとコンピュータが再起動し、メモリの内容が回復されます。その後、コンピュータは休止状態に入る前の動作状態に戻ります。


この状態は、Windows NT 4.0 ではサポートされていません。

 **メモ:** 休止状態になるには、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネントがこの機能をサポートし、また適切なドライバがロードされている必要があります。詳細については、各コンポーネントの製造元のマニュアルを参照してください。

- 1 **シャットダウン** — このスリープ状態では、補助用のわずかな量を除いてコンピュータに電力は供給されません。コンピュータがコンセントに接続されている限り、自動的にまたはリモートで起動することができます。たとえば、[セットアップユーティリティ](#)の Auto Power On オプションを使うと、コンピュータを特定の時間に自動的に起動することができます。また、ネットワーク管理者は電源管理イベント（Remote Wake Up など）を使って、コンピュータをリモートで起動することができます。


次の表に、スリープ状態とそれぞれの状態から復帰させるために使用できる方法を一覧表示します。

スリープの状態	ウェイクアップの方法 (Windows XP)
スタンバイ	<ul style="list-style-type: none">1 電源ボタンを押す1 Auto Power On1 USB デバイスの動作 (USB マウスまたはキーボード動作を除く)1 電源管理イベント
休止状態	<ul style="list-style-type: none">1 電源ボタンを押す1 Auto Power On1 電源管理イベント
シャットダウン	<ul style="list-style-type: none">1 電源ボタンを押す1 Auto Power On1 電源管理イベント

 **メモ:** 電源管理の詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

セキュリティ機能

シャーンシイントルージョンディテクタ

 **メモ:** 管理者パスワードが有効な場合、管理者パスワードがわからないと Chassis Intrusion の設定をリセットできません。

この機能は、シャーンシが開けられたことを検出してユーザーに警告します。Chassis Intrusion の設定を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 [セットアップユーティリティを起動します。](#)
- 2 下矢印キーを押して、Security オプションへ移動します。
- 3 <Enter> を押して、Security メニューを展開します。
- 4 下矢印キーを押して、Chassis Intrusion 設定へ移動します。
- 5 <Enter> を押して、オプションフレームを選択します。

6. 左右の矢印キーを押して、オプション設定を選びます。
7. <Enter> を押して、Security メニューに戻ります。
8. <Esc> を押して、セットアップユーティリティの終了画面にアクセスします。
9. 左右の矢印キーを押して、Save/Exit オプションを選びます。
10. <Enter> を押して、変更を保存して終了します。

オプション設定

- 1 On — コンピュータカバーが開けられると、設定が Detected に変わり、次のコンピュータ起動時の起動ルーチン中に、次の警告メッセージが表示されます。

Alert! Cover was previously removed. (警告! カバーが取り外されました。)

Detected の設定をリセットするには、[セットアップユーティリティを起動します](#)。Chassis Intrusion オプションで、左右矢印キーを押して Reset を選択してから、On、On-Silent、または Disabled を選びます。

- 1 On-Silent (デフォルト) — コンピュータカバーが開けられると、設定が Detected に変わります。次のコンピュータ起動時の起動順序中に警告メッセージは表示されません。
- 1 Disabled — イントルージョン監視はおこなわれず、メッセージも表示されません。

パドロックリングとセキュリティケーブルスロット


以下の方法の 1 つを使って、コンピュータのセキュリティをおこないます。

- 1 パドロックリングはパドロックのみ、またはパドロックとループ型セキュリティケーブルを一緒に使用します。

パドロックだけでコンピュータが開けられることを防ぐことができます。

固定されたものにセキュリティケーブルを通し、パドロックを取り付けることで、無許可のコンピュータの移動を防ぐことができます。

- 1 コンピュータ背面のセキュリティケーブルスロットに、市販の盗難防止デバイスを取り付けます。

 **メモ:** 盗難防止デバイスを購入する前に、お使いのコンピュータのセキュリティケーブルスロットに対応するか確認してください。

通常、盗難防止デバイスには、金属ケーブルに取り付けられているロック装置とキーが付いています。デバイスに付属のマニュアルに、取り付け方法が記載されています。

セットアップユーティリティ

概要

セットアップユーティリティは以下の場合に使用します。

- 1 お使いのコンピュータにハードウェアを追加、変更、または取り外した後のシステム構成情報の変更
- 1 システムパスワードなどのユーザー選択可能なオプションの設定または変更
- 1 現在のメモリの容量や CPU スピードの表示

後で参照できるように、セットアップユーティリティ画面の情報を記録しておいてください。

セットアップユーティリティの起動

- 1 コンピュータの電源を入れます (または再起動します)。
- 2 DELL™ のロゴが表示されたら、すぐに <F2> を押します。


ここで時間をおきすぎてオペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft® Windows® のデスクトップが表示されるまで待ちます。次にコンピュータをシャットダウンして、再度試み

ます。

セットアップユーティリティ画面は、お使いのコンピュータの現在のまたは変更可能な設定情報を表示します。画面上の情報は 3 つの領域（オプション一覧、アクティブなオプションのフィールド、キー操作）に分かれます。

<p>Options List — このフィールドはセットアップユーティリティ画面の左側に表示されます。このフィールドは、取り付けられたハードウェア、省電力機能、およびセキュリティ機能を含む、コンピュータの構成を定義するオプションを表示するスクロール可能な一覧です。</p> <p>上下矢印キーを使って、一覧を上下にスクロールします。オプションがハイライト表示されている際、Option Field はそのオプションの詳細とオプションの現在の設定および利用可能な設定を表示します。</p> <p><Enter> を押して、各メインの Option Field を展開または収縮します。</p>	<p>Option Field — 各オプションの情報を表示します。このフィールドで、現在の設定を表示させたり設定を変更することができます。</p> <p>左右矢印キーを使って、オプションをハイライト表示します。<Enter> を押して、選択したオプションをアクティブにします。<Esc> を押して、変更を取り消します。</p>
<p>Key Functions — このフィールドは Option Field の下に表示され、アクティブなセットアップユーティリティフィールドでのキーとその機能を一覧表示します。</p>	

セットアップオプション

 **メモ:** お使いのコンピュータおよび取り付けられているデバイスによって、この項に一覧表示された項目とは異なる場合があります。

<p>Info</p>	
<p>System Info</p>	<p>コンピュータ名、BIOS のバージョン、サービスタグ、および Asset Tag ナンバーを一覧表示します。</p>
<p>CPU Info</p>	<p>プロセッサの種類と、コンピュータのプロセッサがハイバースレディングまたは 64 ビットプロセッシングに対応しているかを識別して、CPU バス速度、クロックスピード、および L2 キャッシュを表示します。</p>
<p>Memory Info</p>	<p>取り付けられているメモリの容量、コンピュータのメモリの速度、チャネルモード（デュアルまたはシングル）、およびメモリテクノロジーを表示します。</p>
<p>Date/Time</p>	<p>現在の日付と時間設定を表示します。</p>
<p>Boot Sequence</p>	<p>コンピュータは、この一覧で指定したデバイスの順番で起動を試みます。</p>
<p>Drives</p>	
<p>Diskette Drive</p>	<p>このオプションでフロッピードライブを有効または無効にします。</p> <p>メモ: USB が On に設定されているか確認してください。モジュールベイの USB フロッピードライブを使用するには、Module Bay が On または FDD Only に設定されているかも確認してください。</p>
<p>Drive 0</p>	<p>システム基板の SATA1 コネクタに接続されているプライマリシリアルハードドライブを識別します。</p>
<p>Module Bay</p>	<p>このオプションでモジュールベイを有効または無効にします。モジュールベイ内のフロッピードライブのみ、または IDE ドライブのみを有効にするオプションも提供します。設定は、Off、FDD only、IDE only、または On です。</p>
<p>Drive</p>	<p>シリアル ATA コントローラの動作モードを設定します。Normal は、シリアル ATA コントローラをシリアル ATA ネイティブモードでのみ動作するように設定します。Compatible は、シリアル ATA コントローラをシリアル / パラレル ATA コンビネーションモードで動作するように設定します。</p>

Controller	
Error Reporting	この設定は、システム起動時にハードドライブエラーを報告するかどうかを決定します。
Onboard Devices	
Audio Controller	オンボードのオーディオコントローラを有効または無効にします。
NIC Controller	NIC を On (デフォルト)、Off、または On w/ PXE に設定します。On w/ PXE 設定がアクティブな際に(次回以降の起動プロセスで利用可能)、コンピュータはユーザーに <Ctrl><Alt> を押すように求めます。このキーの組み合わせを押すと、ネットワークサーバーから起動方法を選択できるメニューが表示されます。起動ルーチンがネットワークサーバーから使用できないと、システムは起動順序リスト内の次のデバイスからの起動を試みます。
LPT Port Mode	このオプションは、内蔵パラレルポートの動作モードを設定します。設定は、Off、AT、PS/2 (デフォルト)、EPP、および ECP です。 <ul style="list-style-type: none"> 1 AT — ポートは、IBM AT 互換用に設定されます。 1 PS/2 — ポートは、IBM PS/2 互換用に設定されます。 1 EPP — 拡張パラレルポートプロトコル 1 ECP — 拡張機能ポートプロトコル
LPT Port Address	このオプションで内蔵パラレルポートが使用するアドレスを設定します。設定は、378h (デフォルト)、278h、および 3BCh です。
Serial Port #1	Auto (デフォルト) は、コネクタを自動的に特定の指定先 (COM1 または COM3) に設定します。
USB	On (デフォルト) に設定して、USB デバイスが認識され、オペレーティングシステムでサポートされるようにします。
Front USB Ports	このオプションで、コンピュータ正面の USB コネクタを有効または無効にします。
Performance	
Hyper-threading	お使いのコンピュータのプロセッサがハイバースレディングに対応している場合、このオプションが Options List に表示されます。
IDE Performance	<ul style="list-style-type: none"> 1 Quiet (デフォルト) — ハードドライブは最も静かな設定で動作します。 1 Performance — ハードドライブは最大速度で動作します。 1 Bypass — お使いのコンピュータは、現在のアコースティックモードの設定をテストまたは変更しません。 1 Suggested — ハードドライブは、ハードドライブの製造元が推奨する速度レベルで動作します。 <p>メモ: Performance モードへ切り替えると、ドライブはより大きなノイズを発生する場合がありますが、動作に影響はありません。アコースティック設定を変更しても、ハードドライブイメージは変わりません。</p>
Security	このセクションは、利用可能なシステムのセキュリティオプションを表示します。詳細については、「 セキュリティ機能 」を参照してください。
Admin Password	このオプションは、システムパスワードがシステムへのアクセスを制限すると同時にコンピュータのセットアップユーティリティへのアクセスを制限します。設定は、Enabled および Disabled です。 <p>オプションが Disabled に設定されている場合、パスワードを入力してこのオプションを有効にします。</p> <p>オプションが Enabled に設定されている場合、セットアップユーティリティのすべての画面の左上角に赤い「ロックアイコン」が表示されます。</p> <p>パスワードを入力して管理者パスワードオプションのロックを解除すると、アイコンは表示されません。</p> <p>管理者パスワードを無効にするには、プロンプトでパスワードを入力して、<Ctrl>、<Enter> と押します。</p>
System Password	現在のシステムのパスワードセキュリティ機能の状態を表示して、新しいシステムパスワードの割り当てと確認をおこないます。設定は、Enabled および Disabled です。 <p>オプションが Disabled に設定されている場合、パスワードを入力してこのオプションを有効にします。</p> <p>オプションが Enabled に設定されている場合、正しいパスワードが入力されるまでコンピュータは起動しません。</p> <p>システムパスワードを無効にするには、プロンプトでパスワードを入力して、<Ctrl>、<Enter> と押します。</p>
Drive 0 Password	このパスワードを設定して、権限のないユーザーがハードドライブにアクセスするのを防ぎます。
ModBay	このパスワードを設定して、権限のないユーザーがモジュールベイに取り付けられたデバイスにアクセスするのを防ぎます。

Password	
Password Status	<p>設定は、Locked および Unlocked です。オプションが Locked に設定されている場合、システムパスワードを無効にするか変更する際に有効な管理者パスワードが必要です。</p> <p>オプションが Unlocked に設定されている際、システムパスワードは管理者パスワードの入力なしで変更することができます。</p> <p>Locked が選ばれている場合、管理者パスワードフィールドを介してロックを解除するまで、ユーザーはシステムパスワードを変更することができません。</p>
Chassis Intrusion	<p>有効な場合、このオプションはコンピュータの次回起動時に、コンピュータカバーが開けられたことをユーザーに警告します。設定は、On、On-Silent (デフォルト)、および Off です。</p>
Intrusion Status	<p>シャシーントルーションイベントが起きた場合にのみ、このオプションはセットアップユーティリティに表示されます。設定は、Clear および Detected (デフォルト) です。Clear を選んで、シャシーントルーションのステータスを消去します。</p>
Power Management	
AC Recovery	<p>コンピュータに AC 電源が回復した場合にどうするかを設定します。</p>
Auto Power On	<p>時間と曜日を設定し、コンピュータに自動的に電源を入れることができます。選べるのは、毎日または月曜から金曜の毎日です。</p> <p>時間は 24 時間形式 (時間:分) で表示されます。左右矢印キーを押して、数値を増減するか、日付と時間のフィールドの両方に数値を入力して、起動する時間を変更します。</p> <p>デフォルト設定は、Disabled です。</p> <p>この機能は、電源タップやサージプロテクタでコンピュータをシャットダウンした場合は動作しません。</p>
Auto Power Time	<p>コンピュータを自動的に起動する特定の時間を設定します。この設定を Auto Power On 設定と併用します。</p>
Low Power Mode	<p>Low Power Mode を選んでいると、Remote Wakeup イベントは Hibernate または Off からコンピュータを復帰しません。</p>
Remote Wake-Up	<p>このオプションは、Network Interface Controller または Remote Wakeup 機能を持つモデムがウェイクアップ信号を受け取った際に、システムは起動します。</p> <p>On がデフォルト設定です。On w/ Boot to NIC は、起動順序を試みる前に、システムはネットワークからの起動を試みます。</p> <p>メモ: このオプションは、Low Power Mode が無効 (OFF) の場合にのみ表示されます。通常、システムはサスペンドモード、休止状態モード、または電源が切れた状態からリモートで起動できます。Power Management メニューで Low Power Mode が有効な場合、システムは Suspend からのみリモートで起動できます。</p>
Suspend Mode	<p>オプションは、S1 (コンピュータが省電力モードで動作中のサスペンド状態) および S3 (システムメモリがアクティブで、ほとんどのコンポーネントに電源が低減されているか切られているスタンバイ状態) です。</p>
Maintenance	
CMOS Defaults	<p>この設定は、コンピュータの工場出荷時のデフォルト設定を復元します。</p>
Event Log	<p>システムイベントログを表示します。</p>
BIOS Update	<p>BIOS アップデートファイルの場所を選びます。オプションは、Hard Drive または Diskette です。</p>
Video	
Video Memory Size	<p>このオプションは、オンボードのビデオコントローラ用に確保されるメモリの容量を設定します。設定は、1MB および 8MB (デフォルト) です。</p>
POST Behavior	
Fastboot	<p>On (デフォルト) に設定されている場合、お使いのコンピュータは起動時に、特定の設定とテストを省略するのでより早く起動します。</p>
Numlock Key	<p>このオプションは、キーボードの一番右のバンクにあるキーに関連します。On (デフォルト) に設定されていると、このオプションは各キーの上部に表示されている数値機能がアクティブになります。Off に設定されていると、このオプションは各キーの下部に描かれているカーソルコントロール機能を有効にします。</p>
OS Install	<p>この設定は、OS Install モードを On または Off (デフォルト) にします。</p>
	<p>この設定は、コンピュータ起動時に押したキーを表示するかどうかを指定します。デフォルト設定は、Setup & Boot Menu です。</p>


POST Hotkeys	
Keyboard Errors	このオプションは、コンピュータ起動時にキーボードエラーの表示を有効または無効にします。

Boot Sequence (起動順序)

この機能を使って、デバイスの起動順序を変更します。


オプション設定

- 1 Onboard or USB Floppy Drive — コンピュータはフロッピードライブからの起動を試みます。ドライブ内のフロッピーディスクが起動用でない場合、またはフロッピーディスクがドライブにない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。
- 1 Onboard SATA Hard Drive — コンピュータはプライマリハードドライブからの起動を試みます。オペレーティングシステムがドライブにない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。
- 1 Onboard IDE Hard Drive — コンピュータはモジュールベイに取り付けられたハードドライブからの起動を試みます。
- 1 External Add-in Hard Disk — コンピュータは外付けハードドライブからの起動を試みます。
- 1 Onboard or USB CD-ROM Device — コンピュータは CD/DVD ドライブからの起動を試みます。CD/DVD が取り付けられていない場合、またはドライブにオペレーティングシステムがない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。
- 1 USB Device — USB ポートにメモリデバイスを挿入し、コンピュータを再起動します。画面の右上角に F12 = Boot Menu と表示されたら、<F12> を押します。BIOS がデバイスを認識し、USB フラッシュオプションを起動メニューに追加します。

 **メモ:** USB デバイスから起動するには、そのデバイスが起動可能でなければなりません。お使いのデバイスが起動可能か確認するには、デバイスのマニュアルを参照してください。

現在の起動用の起動順序の変更

この機能を使って、たとえば、『Drivers and Utilities CD』にある Dell Diagnostics (診断) プログラムを実行するように CD ドライブからコンピュータを起動し、Dell Diagnostics (診断) プログラムが完了したらハードドライブから起動するように設定できます。この機能を使って、フロッピードライブ、メモリキー、または CD-RW ドライブなどの USB デバイスからコンピュータを再起動することができます。

 **メモ:** USB フロッピードライブから起動して、フロッピードライブがモジュールベイに取り付けられている場合、[セットアップユーティリティ](#)でディスクドライブを OFF に設定する必要があります。


1. USB デバイスから起動する場合、USB デバイスを USB コネクタに接続します。
2. コンピュータの電源を入れます (または再起動します)。
3. 画面の右上角に F2 = Setup, F12 = Boot Menu と表示されたら、<F12> を押します。

ここで時間をおきすぎてオペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft Windows のデスクトップが表示されるまで待ちます。次にコンピュータをシャットダウンして、再度試みます。

すべての利用可能な起動デバイスを一覧表示した Boot Device Menu が表示されます。各デバイスには、横に番号があります。


4. メニューの一番下で、現在の起動のみに使用されるデバイスの番号を入力します。

たとえば、USB メモリキーから起動する場合、USB Device をハイライト表示して、<Enter> を押します。

 **メモ:** USB デバイスから起動するには、そのデバイスが起動可能でなければなりません。お使いのデバイスが起動可能か確認するには、デバイスのマニュアルを参照してください。

将来の起動用の起動順序の変更

1. [セットアップユーティリティを起動します。](#)
2. 矢印キーを使って Boot Sequence メニューオプションをハイライト表示し、<Enter> を押して、ポップアップメニューにアクセスします。

 **メモ:** 後で元に戻すこともできるよう、現在の起動順序を書き留めておきます。

3. デバイスのリスト内を移動するには、上下矢印キーを押します。
4. デバイスを有効または無効にするには、スペースバーを押します (有効にしたデバイスにはチェックマークが付いています)。

5. 選択したデバイスをリストの上または下に移動するには、Shift プラス (+) (上矢印) または Shift マイナス (-) (下矢印) を押します。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

バッテリー

Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド

警告: 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

警告: コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を逃がすことができます。

コイン型バッテリーは、コンピュータの設定、日付、時間の情報を保持します。バッテリーの寿命は数年間です。

起動ルーチン中に日付や時刻が間違っていて、次のメッセージが表示される場合、バッテリーを交換する必要があります。

Time-of-day not set - please run SETUP program
(日時が設定されていません。セットアップユーティリティを実行してください。)

または

Invalid configuration information -
please run SETUP program
(無効な設定情報 — セットアップユーティリティを実行してください。)

または

Strike the F1 key to continue,
F2 to run the setup utility
(続けるには F1 キーを、セットアップユーティリティを起動するには F2 キーを押してください。)

バッテリーの交換が必要かどうか確認するには、セットアップユーティリティで日付と時刻を再入力し、プログラムを終了してその情報を保存します。コンピュータの電源を切り、コンセントから外して 2、3 時間置きます。次に、コンピュータをコンセントに接続しなおし、電源を入れて、セットアップユーティリティを起動します。セットアップユーティリティに表示される日付と時刻が間違っている場合、バッテリーを交換します。

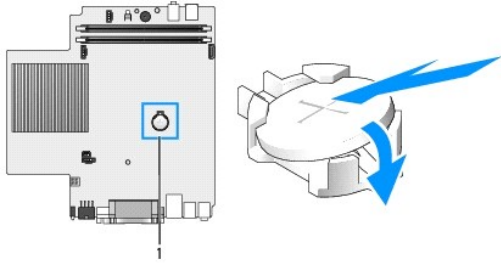
バッテリーがなくてもコンピュータは動作しますが、電源をオフにしたり、コンセントから電源プラグを抜いた場合、コンピュータ設定情報は消去されます。その場合、セットアップユーティリティを起動して、設定オプションを再設定する必要があります。

警告: 新しいバッテリーは、間違えて取り付けると破裂する恐れがあります。バッテリーを交換する場合、同じバッテリー、または製造元が推奨する同等のバッテリーのみ使用してください。使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。

1. [セットアップユーティリティ](#)にある設定情報のコピーを取っていない場合、コピーを取ります。
2. 「はじめに」の手順を実行します。
3. [ハードドライブを取り外します。](#)
4. BATTERY とラベルの付いたバッテリーソケットを探します ([「システム基板のコンポーネント」](#)を参照)。

注意: 先端の鋭くない道具を使用してバッテリーをソケットから取り出す場合、道具がシステム基板に触れないよう注意してください。必ず、バッテリーとソケットの間に道具を確実に挿入してから、バッテリーを外してください。これらの手順を踏まないと、バッテリーソケットが外れたり、システム基板の回路を切断するなど、システム基板に損傷を与える恐れがあります。

5. バッテリーを取り外すには、バッテリーをつかみ、少しだけねじってコネクタから持ち上げます。
6. 新しいバッテリーを、「+」側をソケットの開いていない方に向けて挿入し、所定の場所にカチッとめ込みます。



1 バッテリーコネクタの位置

7. ハードドライブを取り付けます。
8. コンピュータカバーを取り付けます。
9. ケーブルカバーを取り付けます（使用している場合）。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

10. コンピュータをアダプタケーブルに接続し、デバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを取り付けなおすと、次のコンピュータ起動時にシャーシントルージョンディテクタ（有効な場合）は、次のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed. (警告!カバーが取り外されました。)

11. Chassis Intrusion オプションを On または On-Silent に変更して、[シャーシントルージョンディテクタをリセットします](#)。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

12. [セットアップユーティリティを起動して](#)、手順 1 で記録した設定に戻します。
13. 古いバッテリーは適切に廃棄します。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

シャーシイントルージョンスイッチ

Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド

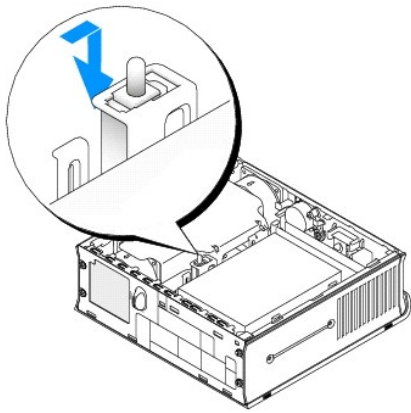
- [シャーシイントルージョンスイッチの交換](#)
- [シャーシイントルージョンディテクタのリセット](#)

警告: 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

警告: 感電を防ぐため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

シャーシイントルージョンスイッチの交換

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. シャーシイントルージョンスイッチケーブルをシステム基板から外します。
3. シャーシイントルージョンスイッチをスロットからスライドさせ、スイッチとスイッチに取り付けられているケーブルをコンピュータから取り外します。



4. 交換用のシャーシイントルージョンスイッチをスロットに挿入して、完全に収まるまでスイッチをスライドさせます。
 5. ケーブルをシステム基板のコネクタに接続します。
 6. コンピュータカバーを取り付けます。
 7. ケーブルカバーを取り付けます（使用している場合）。
- ➡ **注意:** ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。
8. コンピュータをアダプターケーブルに接続し、デバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを取り付けなすと、次のコンピュータ起動時にシャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は、次のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed. (警告! カバーが取り外されました。)

9. Chassis Intrusion オプションを On または On-Silent に変更して、[シャーシイントルージョンディテクタをリセットします](#)。

メモ: 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

シャーシイントルージョンディテクタのリセット

1. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
2. DELL™ のロゴが表示されたら、すぐに <F2> を押します。

ここで時間をおきすぎてオペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft Windows® のデスクトップが表示されるまで待ちます。次に、コンピュータをシャットダウンして、再度試みます。

3. 下矢印キーを押して、セットアップユーティリティの **Security** オプションへ移動します。
4. <Enter> を押して **Security** メニューを展開します。
5. 下矢印キーを押して、**Chassis Intrusion** 設定へ移動します。
6. <Enter> を押して、オプションフレームを選択します。
7. 左右の矢印キーを押して、オプション設定を選びます。
8. <Enter> を押して、**Security** メニューに戻ります
9. <Esc> を押して、セットアップユーティリティの終了画面にアクセスします。
10. 左右の矢印キーを押して、**Save/Exit** オプションを選びます。
11. <Enter> を押して、変更を保存して終了します。


[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)


コンピュータのクリーニング

Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド


- [コンピュータ、キーボード、およびモニター](#)
- [マウス](#)
- [フロッピードライブ](#)
- [CD および DVD](#)

 **警告:** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

コンピュータ、キーボード、およびモニター

 **警告:** コンピュータをクリーニングする前に、コンピュータをコンセントから外してください。コンピュータのクリーニングには、水で濡らせた柔らかい布をお使いください。液体クリーナーやエアゾールクリーナーは使用しないでください。可燃性物質を含んでいる場合があります。

- 1 掃除機のブラシを使って、コンピュータのスロット部分や穴の開いている部分、およびキーとキーボードの間などのゴミを丁寧に取り除きます。

 **注意:** モニター画面を石鹸またはアルコール溶液で拭かないでください。反射防止コーティングが損傷する恐れがあります。

- 1 モニター画面をクリーニングするには、水で軽く湿らした柔らかくて清潔な布を使います。可能であれば、画面クリーニング専用ティッシュまたはモニターの静電気防止コーティング用の溶液をお使いください。
- 1 キーボード、コンピュータ、およびモニターのプラスチック部分は、水と中性液体洗剤を 3 対 1 で混ぜ合わせた溶液で湿らした柔らかくて清潔なクリーニング布を使って拭きます。


クリーニング布を浸さないでください。またコンピュータやキーボードの内部に水が入らないようにしてください。

マウス

画面のカーソルが飛んだり、異常な動きをする場合、マウスをクリーニングします。光学式でないマウスをクリーニングするには、次の手順を実行します。


- 1 マウスの底の保持リングを反時計回りに回し、次にボールを取り外します。
 - 2 清潔で、糸くずのでない布でボールを拭きます。
 - 3 ボールケースに慎重に風を送って、ほこりや糸くずを取り除きます。
 - 4 ボールケースの中にあるローラーが汚れている場合、消毒用アルコール（イソプロピルアルコール）を軽く湿した綿棒を使って、ローラーの汚れを拭き取ります。
 - 5 ローラーが溝からずれてしまった場合、中央になおします。綿棒の綿毛がローラーに残っていないか確認します。
 - 6 ボールと固定リングをマウスに取り付けて、固定リングを時計回りに回して元の位置にはめ込みます。
-

フロッピードライブ

 **注意:** 綿棒でドライブヘッドを拭かないでください。誤ってヘッドがずれてしまい、ドライブが動作しなくなる場合があります。


市販のクリーニングキットを使ってフロッピードライブをきれいにします。市販のキットには前処理されたフロッピーディスクが入っていて、通常の動作中に付着した汚れを取り除きます。

CD および DVD

 **注意:** CD/DVD ドライブのレンズの手入れには、必ず圧縮空気を使用してください。使い方については、圧縮空気に付属しているマニュアルに従ってください。ドライブのレンズには絶対に触れないでください。

CD や DVD がスキップしたり、音質や画質の低下がみられる場合、ディスクを掃除します。

1. ディスクの外側の縁を持ちます。中央の穴の縁に触れることもできます。

 **注意:** 円を描くようにディスクを拭くと、ディスク表面に傷をつける恐れがあります。

2. 糸くずのでない柔らかな布で、ディスクの裏面（ラベルのない面）を中央から縁に向けて放射状にそっと拭きます。

頑固な汚れには、水、または石鹼を薄めた水を使用します。ディスクの汚れを落としたり、ほこりや指紋、ひっかき傷などからディスクを保護する市販のディスククリーナーもあります。CD 用のクリーニング製品は、DVD にも使用できます。

[目次ページに戻る](#)

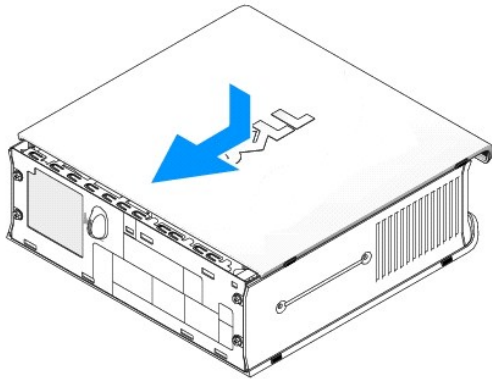
[目次ページに戻る](#)

コンピュータカバーの取り付け

Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド

警告: 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

1. コンピュータの内部に工具や余った部品が残っていないか確認します。
2. カバーを取り付けます。
 - a. 金属製のコンピュータフレームにカバーを下ろして合わせます。
 - b. カチッと所定の位置に収まるまで、カバーをスライドします。



注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

3. コンピュータを電源アダプタに接続し、デバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを取り付けなおすと、次のコンピュータ起動時にシャーシイントルージョンディテクタ（有効な場合）は、次のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed. (警告! カバーが取り外されました。)

4. Chassis Intrusion を On または On-Silent に変更して、[シャーシイントルージョンディテクタをリセットします](#)。

メモ: 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

コンピュータカバーの取り外し

Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド

警告: 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

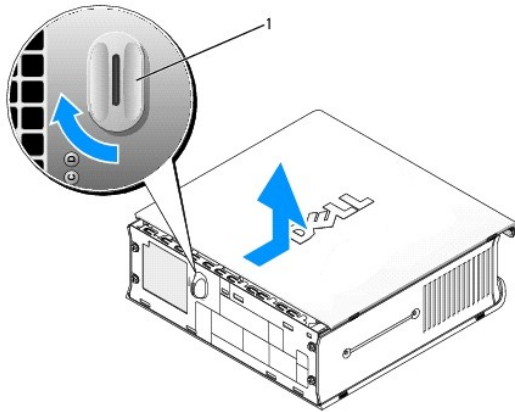
警告: コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を逃がすことができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。

注意: コンピュータ内部に触れる前に、塗装されていない金属面に触れて身体の静電気を逃がしてください。作業中も、定期的に塗装されていない金属面に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を逃がしてください。

2. コンピュータカバーを取り外します。

- カバーリリースノブを下図のように時計回りに回します。
- コンピュータカバーを 1 cm、またはカバーが止まるまでスライドして、カバーを持ち上げます。



1 | リリースノブ


[目次ページに戻る](#)

[Back to Contents Page](#)

FCC Notices (U.S. Only)

Dell™ OptiPlex™ SX280 User's Guide

- [Class A](#)
 - [Class B](#)
 - [FCC Identification Information](#)
-

Most Dell computer systems are classified by the Federal Communications Commission (FCC) as Class B digital devices. To determine which classification applies to your computer system, examine all FCC registration labels located on the bottom, side, or back panel of your computer, on card-mounting brackets, and on the cards themselves. If any one of the labels carries a Class A rating, your entire system is considered to be a Class A digital device. If *all* labels carry an FCC Class B rating as distinguished by either an FCC ID number or the FCC logo, () your system is considered to be a Class B digital device.

Once you have determined your system's FCC classification, read the appropriate FCC notice. Note that FCC regulations provide that changes or modifications not expressly approved by Dell could void your authority to operate this equipment.

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- 1 This device may not cause harmful interference.
 - 1 This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.
-

Class A

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the manufacturer's instruction manual, may cause harmful interference with radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case you will be required to correct the interference at your own expense.

Class B

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference with radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, you are encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- 1 Reorient or relocate the receiving antenna.
 - 1 Increase the separation between the equipment and the receiver.
 - 1 Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
 - 1 Consult the dealer or an experienced radio/television technician for help.
-

FCC Identification Information

The following information is provided on the device or devices covered in this document in compliance with FCC regulations:

Model number: DCTR

Company name: Dell Inc.
One Dell Way
Round Rock, Texas 78682 USA
512-338-4400

[Back to Contents Page](#)

お使いのコンピュータに関する情報の検索

Dell® OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド

何をお探しですか？	こちらをご覧ください
<ul style="list-style-type: none">1 コンピュータのDiagnostics (診断) プログラム1 コンピュータのドライバ1 コンピュータのマニュアル1 デバイスのマニュアル1 DSS (デスクトップシステムソフトウェア)	<p>『Drivers and Utilities CD』 (『ResourceCD』とも呼ばれます)</p> <p>マニュアルおよびドライバは、出荷時にコンピュータにプリインストールされています。この CD を使用して、ドライバを再インストールしたり、Dell Diagnostics (診断) プログラムを実行したり、マニュアルにアクセスすることができます。</p>  <p>CD に収録されている Readme ファイルは、マニュアルの作成後にシステムに追加された変更や、技術者や専門知識をお持ちのユーザーを対象とするテクニカルリファレンスなどが記載されています。</p> <p>メモ: 最新のドライバとマニュアルのアップデートは、support.jp.dell.com にもあります。</p>
<ul style="list-style-type: none">1 コンピュータのセットアップ方法1 トラブルシューティングの情報1 Dell Diagnostics (診断) プログラムの実行方法1 エラーコードと診断ライトの意味の判断1 ツールとユーティリティ	<p>Dell® 『クイックリファレンスガイド』</p>  <p>メモ: このマニュアルは、support.jp.dell.com から PDF でご利用いただけます。</p>
<ul style="list-style-type: none">1 オペレーティングシステムのアップデートとパッチ	<p>DSS (デスクトップシステムソフトウェア)</p> <p>DSS は、『Drivers and Utilities CD』とデルサポートウェブサイトをご利用いただけます。</p>
<ul style="list-style-type: none">1 サービスタグおよびエクスプレスサービスコード1 Microsoft Windows ライセンスラベル	<p>サービスタグおよび Microsoft Windows ライセンス</p> <p>ラベルはお使いのコンピュータに貼られています。</p>  <p>support.jp.dell.com を利用したり、またはテクニカルサポートにお問い合わせになる際に、サービスタグを使ってお使いのコンピュータを識別します。</p> <p>テクニカルサポートにお問い合わせになる際は、エクスプレスサービスコードを入力していただく、担当者につながります。エクスプレスサービスコードが利用できない地域もあります。</p>
<ul style="list-style-type: none">1 保証情報1 使用上の注意1 技術情報1 快適な使い方1 エンドユーザー使用許諾契約書	<p>Dell® 『製品情報ガイド』</p> <p>メモ: このマニュアルは、support.jp.dell.com から PDF でご利用いただけます。</p>
<ul style="list-style-type: none">1 コンピュータ用のドライバ1 テクニカルサービスおよびサポートに寄せられる質問への回答1 コンピュータのマニュアル	<p>デルサポートウェブサイト — support.jp.dell.com</p> <p>メモ: ご利用の地域を選んで、該当するサポートサイトにアクセスしてください。</p> <p>デルサポートウェブサイトには、次のようなオンラインツールを提供しています。</p> <ul style="list-style-type: none">1 技術情報 — トラブル解決ナビ、Q&A、Diagnostics (診断) プログラム、インストールガイド、OS アップグレード情報、システムマニュアル1 ダウンロード — ファイルライブラリ (ドライバ、ソフトウェアのアップデート)1 テクニカルサポートへのお問い合わせ — E メールサポート、電話テクニカルサポート、引き取り修理状況確認1 各種サービスのご案内 — サービスプラン、登録内容変更申し込み、FAX 情報サービス1 その他
<ul style="list-style-type: none">1 Windows XP の使い方1 コンピュータのマニュアル1 デバイスのマニュアル (モデムなど)	<p>ヘルプとサポートセンター</p> <ol style="list-style-type: none">1. スタート ボタンをクリックして、ヘルプとサポート をクリックします。2. 問題に関連する用語やフレーズを 検索 ボックスに入力して、矢印アイコンをクリックします。3. 表示されているトピックをクリックします。4. 画面の指示に従います。
<ul style="list-style-type: none">1 オペレーティングシステムの再インストール	<p>『オペレーティングシステム CD』</p>

オペレーティングシステムは、お使いのコンピュータにプリインストールされています。オペレーティングシステムを再インストールするには、『オペレーティングシステム CD』を使用します。手順については、『[ドライバとオペレーティングシステムの再インストール](#)』を参照してください。

オペレーティングシステムを再インストールした後、『[Drivers and Utilities CD](#)』を使用して、コンピュータに付属しているデバイス用のドライバを再インストールします。



お使いのオペレーティングシステムの [Product Key \(プロダクトキー\)](#) ラベルは、コンピュータに貼られています。

メモ: お使いの CD の色は、ご購入されたオペレーティングシステムによって異なります。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

困ったときは

Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド

- [テクニカルサポート](#)
- [ご注文に関する問題](#)
- [製品情報](#)
- [保証期間中の修理と返品について](#)
- [お問い合わせになる前に](#)
- [デルへのお問い合わせ](#)

テクニカルサポート

技術的な問題で手助けが必要な場合、いつでもデルにお問い合わせください。

⚠ 警告: コンピュータカバーを取り外す必要がある場合、まず、すべてのコンセントからコンピュータの電源ケーブルとモデムケーブルを取り外します。

1. 「[問題の解決](#)」の手順を完了します。
2. [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)を実行します。
3. [Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#)を印刷して、それに記入します。
4. インストールとトラブルシューティングの手順に関しては、デルサポート (support.jp.dell.com) をご覧ください。
5. これまでの手順で問題が解決されない場合、デルにお問い合わせください。

メモ: テクニカルサポート担当者が必要な作業をスムーズにお伝えできるよう、テクニカルサポートへはコンピュータの近くから電話してください。

メモ: デルのエクスプレスサービスコードシステムがご利用できない地域もあります。

デルのオートテレフォンシステムの指示に従って、エクスプレスサービスコードを入力すると、電話は該当するサポート担当者に転送されます。エクスプレスサービスコード (8 桁から 11 桁までの全桁数字のみの番号) は、コンピュータの前面、背面、または側面に貼られているシールに、サービスタグナンバー (5 桁もしくは 7 桁までの英数字混合の番号) と共に記載されています。(コンピュータの正面パネル内に貼られている機種もあります。)

テクニカルサポートサービスの利用方法については、「[テクニカルサポートサービス](#)」を参照してください。

オンラインサービス

デルサポートへは、support.jp.dell.com でアクセスすることができます。サポートサイトへようこそ ページからサポートツール、情報等をお選びください。

インターネット上でのデルへのアクセスは、次のアドレスをご利用ください。

- 1 World Wide Web

www.dell.com/

www.dell.com/ap/ (アジア / 太平洋諸国)

www.dell.com/jp/ (日本)

www.euro.dell.com (ヨーロッパ)

www.dell.com/la/ (ラテンアメリカ諸国)

www.dell.ca (カナダ)

24 時間納期案内電話サービス

注文したデル製品の状況を確認することができます。電話番号については、「[デルへのお問い合わせ](#)」を参照してください。オンラインでも納期状況をご確認いただけます。

テクニカルサポートサービス

デル製品に関するお問い合わせは、デルテクニカルサポートをご利用ください。

テクニカルサポートに電話をおかけになると、サポートスタッフがお問い合わせ内容の確認のために、お使いのシステムの詳細をお聞きすることがあります。サポートスタッフはその情報を元に、正確な回答を迅速に提供します。

デルテクニカルサポートサービスにお問い合わせになるには、「[テクニカルサポート](#)」を参照し、「[デルへのお問い合わせ](#)」に記載の番号に連絡してください。

ご注文に関する問題

欠損品、誤った部品、間違った請求書などの注文に関する問題があれば、デルカスタマーケアにご連絡ください。お電話の際は、納品書または出荷伝票をご用意ください。電話番号は、「[デルへのお問い合わせ](#)」を参照してください。

製品情報

Dell のその他の製品に関する情報や、ご注文に関しては、デルのウェブサイト [www.dell.com/jp/](#) をご覧ください。デルセールスの電話番号は、「[デルへのお問い合わせ](#)」を参照してください。

保証期間中の修理と返品について

コンピュータに付属している冊子を参照してください。

お問い合わせになる前に

必ず、下記の [Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#) に記入してください。デルへお問い合わせになるときは、できればコンピュータの電源を入れて、コンピュータの近くから電話をおかけください。キーボードからコマンドを入力したり、操作時に詳細情報を説明したり、コンピュータシステム自体でのみ可能な他のトラブルシューティング手順を試してみるようにお願いする場合があります。システムのマニュアルがあることを確認してください。

テクニカルサポートをご利用の際は、製品本体のラベルに記載されているエクスプレスサービスコードまたはサービスタグナンバーが必要になります。お電話をおかけいただくと、エクスプレスサービスコードを自動音声でお伺いします。エクスプレスサービスコードをもとにお客様の情報を確認し、デル担当者に電話をおつなぎ致します。

エクスプレスサービスコードは、サービスタグナンバーを全桁数字に変換したデル製品の固有の管理番号です。製品本体のラベルに 8 桁から 11 桁までの数字のみの番号で記載されています。エクスプレスサービスコードが本体にない製品をお持ちのお客様のために、デルウェブサポートページで * 変換ツールをご用意しております。

* 変換ツール...サービスタグナンバーをエクスプレスサービスコードに変換するツール

サービスタグナンバーは、英数字混合の 5 桁もしくは 7 桁のデル製品の固有の管理番号です。サービスタグナンバーでもテクニカルサポートをご利用いただけますが、デルウェブサポートページで変換したエクスプレスサービスコードをご用意の上、お電話いただくことをお勧めします。

警告: コンピュータ内部の作業をする前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従ってください。

Diagnostics (診断) チェックリスト
名前:
日付:
住所:
電話番号:
サービスタグ (コンピュータ背面のバーコード):

エキスプレスサービスコード:
返品番号 (デルサポート担当者から提供された場合):
オペレーティングシステムとバージョン:
周辺機器:
拡張カード:
ネットワークに接続されていますか? はい いいえ
ネットワーク、バージョン、ネットワークアダプタ:
プログラムとバージョン:
システムのスタートアップファイルの内容を確認するときは、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。コンピュータをプリンタに接続している場合、各ファイルを印刷します。接続していない場合、各ファイルの内容を記録してからデルにお問い合わせください。
エラーメッセージ、ビーブコード、または Diagnostic (診断) コード:
問題点の説明と実行したトラブルシューティング手順:

デルへのお問い合わせ

インターネット上でのデルへのアクセスは、以下のアドレスをご利用ください。

- 1 www.dell.com/jp
- 1 support.jp.dell.com (テクニカルサポート)

メモ: フリーコールは日本国内からのみご利用いただけます。

デルへお問い合わせになる場合、以下の表の E メールアドレス、電話番号、およびコードをご利用ください。

国 (都市) 国際電話アクセスコード 国番号 市外局番:	部署名またはサービス内容 ウェブサイトおよび E メールアドレス	市外局番、 市内番号、 またはフリーコール
日本 (川崎)	ウェブサイト: support.jp.dell.com	
国際電話アクセスコード: 001	テクニカルサポート (Dell Precision™、OptiPlex™、および Latitude™)	フリーコール: 0120-198-433
国番号: 81	テクニカルサポート (海外から) (Dell Precision、OptiPlex、および Latitude)	81-44-556-3894
市外局番: 44	FAX 情報サービス	044-556-3490
	24 時間納期案内電話サービス	044-556-3801
	カスタマーケア	044-556-4240
	ビジネスセールス本部 (従業員数 400 人未満)	044-556-1465
	法人営業本部 (従業員数 400 人以上)	044-556-3433
	エンタープライズ営業本部 (従業員数 3500 人以上)	044-556-3430
	官公庁 / 研究・教育機関 / 医療機関セールス	044-556-1469
	デルグローバルジャパン	044-556-3469
	個人のお客様	044-556-1760
	代表	044-556-4300

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

用語集

Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド

[A](#) [B](#) [C](#) [D](#) [E](#) [F](#) [G](#) [H](#) [I](#) [K](#) [L](#) [M](#) [N](#) [P](#) [R](#) [S](#) [I](#) [U](#) [V](#) [W](#) [X](#) [Z](#) [ア](#) [カ](#) [サ](#) [タ](#) [ナ](#) [ハ](#) [マ](#) [ヤ](#) [ラ](#)

この用語集に収録されている用語は、情報の目的のみで提供されています。お使いのコンピュータに搭載されている機能についての記載がない場合もあります。

A

AC — alternating current (交流) — コンピュータの AC アダプタ電源ケーブルをコンセントに差し込むと供給される電気の様式です。

ACPI — advanced configuration and power interface — Microsoft® Windows® オペレーティングシステムがコンピュータをスタンバイモードや休止状態モードにして、コンピュータに接続されているそれぞれのデバイスに供給される電力量を節約できる電源管理規格です。

AGP — accelerated graphics port — システムメモリをビデオ関連の処理に使用できるようにする専用のグラフィックスポートです。AGP を使うとビデオ回路とコンピュータメモリ間のインタフェースが高速化され、True-Color のスムーズなビデオイメージを伝送できます。

APR — advanced port replicator (アドバンスポートリプリケータ) — ノートブックコンピュータでモニター、キーボード、マウス、およびその他のデバイスを便利よく使えるようにするドッキングデバイスです。

ASF — alert standards format — ハードウェアとソフトウェアの警告を管理コンソールに報告する方式を定義する標準です。ASF は、どのプラットフォームやオペレーティングシステムにも対応できるよう設計されています。

B

BIOS — basic input/output system (基本入出力システム) — コンピュータのハードウェアとオペレーティングシステム間のインタフェース機能を持つプログラム (またはユーティリティ) です。設定がコンピュータにどのような影響を与えるのか理解できていない場合、このプログラムの設定を変更しないでください。セットアップユーティリティとも呼ばれます。

Bluetooth™ テクノロジ — 短距離内 (9 メートル) にある有効に設定されている複数のネットワークデバイスが、お互いを自動的に認識できるようにするワイヤレステクノロジー標準です。

bps — ビット / 秒 — データの転送速度を計測する単位です。

BTU — British thermal unit (英国熱量単位) — 熱量の単位です。

C

C — セルシウス (摂氏) — 温度の単位で、水の氷点を 0 度、沸点を 100 度としています。

CD — compact disc (コンパクトディスク) — 光学形式のストレージメディアです。通常、音楽やソフトウェアプログラムに使用されます。

CD ドライブ — CD から光学技術を使用してデータを読み取るドライブです。

CD プレーヤー — 音楽 CD を再生するソフトウェアです。CD プレーヤーのウィンドウに表示されるボタンを使用して CD を再生することができます。

CD-R — CD recordable — 書き込み可能な CD です。データは CD-R に 1 回のみ記録されます。一度記録されたデータは削除したり上書きできません。

CD-RW — CD rewritable — 書き換え可能な CD です。データを CD-RW ディスクに書き込んだ後、削除したり上書きできます (再書き込み)。

CD-RW ドライブ — CD のデータを読み取ったり、CD-RW (書き換え可能な CD) ディスクや CD-R (書き込み可能な CD) ディスクにデータを書き込むことができるドライブです。CD-RW ディスクには、繰り返し書き込むことが可能ですが、CD-R ディスクには一度しか書き込むことができません。

CD-RW/DVD ドライブ — コンボドライブとも呼ばれます。CD および DVD のデータを読み取ったり、CD-RW (書き換え可能な CD) ディスクや CD-R (書き込み可能な CD) ディスクにデータを書き込むことができるドライブです。CD-RW ディスクには、繰り返し書き込むことが可能ですが、CD-R ディスクには一度しか書き込むことができません。

COA — Certificate of Authenticity (実物証明書) — お使いのコンピュータのラベルに記載されている Windows の英数字のコードです。オペレーティングシステムのセットアップや再インストールをおこなうのに COA が必要な場合があります。Product Key (プロダクトキー)、または Product ID (プロダクト ID) とも呼ばれます。

CRIMM — continuity rambus in-line memory module (連続式 RIMM) — メモリチップの搭載されていない特殊なモジュールで、使用されていない RIMM スロットに装着するために使用されます。

D

DDR SDRAM — double-data-rate SDRAM (ダブルデータ速度 SDRAM) — データのバーストサイクルを二倍にする SDRAM のタイプです。システム性能が向上します。

DIN コネクタ — 丸い、6 ピンのコネクタで、DIN (ドイツ工業規格) に準拠しています。通常は PS/2 キーボードやマウスケーブルのコネクタに使用されます。

DMA — direct memory access (ダイレクトメモリアクセス) — DMA チャネルを使うと、RAM とデバイス間でのデータ転送がプロセッサを介さずにおこなえるようになります。

DMTF — Distributed Management Task Force — 分散型デスクトップ、ネットワーク、企業、およびインターネット環境における管理基準を開発するハードウェアおよびソフトウェア会社の団体です。

DRAM — dynamic random-access memory (ダイナミックランダムアクセスメモリ) — コンデンサを含む集積回路内に情報を保存するメモリです。

DSL — Digital Subscriber Line (デジタル加入者回線) — アナログ電話回線を介して、安定した高速インターネット接続を提供するテクノロジーです。

DVD — digital versatile disc — 通常は、映画を録画するために使用されるディスクです。CD の場合は片面のみを使用しますが、DVD は両面を使用します。DVD ドライブはほとんどの CD を読み取ることができます。

DVD ドライブ — DVD および CD から、光学技術を使用してデータを読み取るドライブです。

DVD プレーヤー — DVD 映画を鑑賞するときに使用するソフトウェアです。DVD プレーヤーのウィンドウに表示されるボタンを使用して映画を鑑賞することができます。

DVD+RW — DVD rewritable — 書き換え可能な DVD です。データを DVD+RW ディスクに書き込んだ後、削除したり上書きできます (再書き込み)。(DVD+RW テクノロジは DVD-RW テクノロジとは異なります。)

DVD+RW ドライブ — DVD とほとんどの CD メディアを読み取ることができるドライブです。DVD+RW (書き換え可能な DVD) ディスクに書き込むこともできます。

DVI — digital video interface (デジタルビデオインタフェース) — コンピュータとデジタルビデオディスプレイ間のデジタル転送用の標準です。DVI アダプタはコンピュータの内蔵グラフィックを介して動作します。

E

ECC — error checking and correction (エラーチェックおよび訂正) — メモリにデータを書き込んだり、メモリからデータを読み取る際に、データの正確さを検査する特別な回路を搭載しているメモリです。

ECP — extended capabilities port — 改良された双方向のデータ送信を提供するパラレルコネクタのデザインです。EPP に似ていて、ECP はデータ転送にダイレクトメモリアccessを使用して性能を向上させます。

EIDE — enhanced integrated device electronics — ハードドライブと CD ドライブ用の IDE インタフェースの改良バージョンです。

EMI — electromagnetic interference (電磁波障害) — 電磁放射線が原因で起こる電気障害です。

ENERGY STAR — Environmental Protection Agency (米国環境保護局) が規定する、全体的な電力の消費量を減らす要件です。

EPP — enhanced parallel port (拡張パラレルポート) — 双方向のデータ転送を提供するパラレルコネクタのデザインです。

ESD — electrostatic discharge (静電気放出) — 静電気の急速な放電のことです。ESD は、コンピュータや通信機器に使われている集積回路に損傷を与えることがあります。

F

Fahrenheit — ファーレンハイト (華氏) — 温度の単位で、水の氷点を 32 度、沸点を 212 度としています。

FCC — Federal Communications Commission (米国連邦通信委員会) — コンピュータやその他の電子機器が放出する放射線の量を規制する通信関連の条例を執行するアメリカの機関です。

FSB — front side bus (フロントサイドバス) — プロセッサと RAM 間のデータバスと物理的なインタフェースです。

FTP — file transfer protocol (ファイル転送プロトコル) — インターネットに接続されているコンピュータ間でのファイルの交換に利用される標準のインターネットプロトコルです。

G

G — グラビティ — 重力の計測単位です。

GB — ギガバイト — データの単位です。1 GB は 1,024 MB (1,073,741,824 バイト) です。ハードドライブの記憶領域容量を示す場合に、1,000,000,000 バイトに切り捨てられることもあります。

GHz — ギガヘルツ — 1 GHz は、1,000,000,000 Hz または 1,000 MHz です。通常、コンピュータのプロセッサ、バス、インタフェースの処理速度は GHz 単位で計測されます。

GUI — graphical user interface (グラフィックユーザーインタフェース) — メニュー、ウィンドウ、およびアイコンでユーザーとやり取りする対話型ソフトウェアです。Windows オペレーティングシステムで動作するほとんどのアプリケーションプログラムは GUI です。

H

HTML — hypertext markup language — インターネットブラウザ上で表示できるよう、インターネットのウェブページに挿入されるコードセットです。

HTTP — hypertext transfer protocol — インターネットに接続されているコンピュータ間でのファイル交換用プロトコルです。

Hz — ヘルツ — 周波数の単位です。1 秒間 1 サイクルで周波数 1 Hz です。コンピュータや電子機器では、キロヘルツ (kHz)、メガヘルツ (MHz)、ギガヘルツ (GHz)、またはテラヘルツ (THz) 単位で計測される場合もあります。

I

IC — Industry Canada — 米国の FCC と同様、電子装置からの放射を規制するカナダの規制団体です。

IC — integrated circuit (集積回路) — コンピュータ、オーディオ、およびビデオ装置用に製造された、何百万もの極小電子コンポーネントが搭載されている半導体ウェーハ、またはチップです。

IDE — integrated device electronics — ハードドライブまたは CD ドライブにコントローラが内蔵されている大容量ストレージデバイス用のインタフェースです。

IEEE 1394 — Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc. — コンピュータにデジタルカメラや DVD プレーヤーなどの、IEEE 1394 互換デバイスを接続するのに使用される高性能シリアルバスです。

I/O — input/output (入出力) — コンピュータにデータを入力したり、コンピュータからデータを出したりする動作、またはデバイスです。キーボードやプリンタは I/O デバイスです。

I/O アドレス — 特定のデバイス (シリアルコネクタ、パラレルコネクタ、または拡張スロットなど) に関連する RAM のアドレスで、プロセッサがデバイスと通信できるようにします。

IrDA — Infrared Data Association — 赤外線通信の国際規格を標準化する団体です。

IRQ — interrupt request (割り込み要求) — デバイスがプロセッサと通信できるように、特定のデバイスに割り当てられた電子的経路です。すべてのデバイス接続に IRQ を割り当てる必要があります。2 つのデバイスに同じ IRQ を割り当てることはできませんが、両方のデバイスを同時に動作させることはできません。

ISP — Internet service provider (インターネットサービスプロバイダ) — ホストサーバーへのアクセスを可能にし、インターネットへの直接接続、Eメールの送受信、およびウェブサイトへのアクセスなどのサービスを提供する会社です。通常、ISP はソフトウェアのパッケージ、ユーザー名、およびアクセス用の電話番号を有料 (月払い) で提供します。

K

Kb — キロビット — データの単位です。1 Kb は 1,024 ビットです。メモリ集積回路の容量の単位です。

KB — キロバイト — データの単位です。1 KB は 1,024 バイトです。または、1,000 バイトとすることもあります。

kHz — キロヘルツ — 周波数の単位です。1 kHz は 1,000 Hz です。

L

LAN — local area network (ローカルエリアネットワーク) — 狭い範囲にわたるコンピュータネットワークです。LAN は通常、1 棟の建物内や隣接する 2、3 棟の建物内に限定されます。LAN は電話線や電波を使って他の離れた LAN と接続し、WAN (ワイドエリアネットワーク) を構成できます。

LCD — liquid crystal display (液晶ディスプレイ) — ノートブックコンピュータのディスプレイやフラットパネルのディスプレイに用いられる技術です。

LED — light-emitting diode (発光ダイオード) — コンピュータのステータスを示す光を発する電子コンポーネントです。

LPT — line print terminal — プリンタや他のパラレルデバイスへのパラレル接続の指定です。

M

Mb — メガビット — メモリチップ容量の単位です。1 Mb は 1,024 Kb です。

Mbps — メガビット / 秒 — 1,000,000 ビット / 秒です。通常、ネットワークやモデムなどのデータ転送速度の計測単位に使用します。

MB — メガバイト — データの単位です。1 MB は 1,048,576 バイトです。1 MB は 1,024 KB です。ハードドライブの記憶領域容量を示す場合に、1,000,000 バイトに切り捨てられることもあります。

MB/sec — メガバイト / 秒 — 1,000,000 バイト / 秒です。通常、データの転送速度の計測単位に使用します。

MHz —メガヘルツ — 周波数の単位です。1,000,000 サイクル / 秒です。コンピュータのプロセッサ、バス、インタフェースの処理速度は MHz 単位で計測されます。

ms — ミリ秒 — 1000 分の 1 秒に相当する時間の単位です。ストレージデバイスなどのアクセス速度の計測に使用します。

N

NIC — ネットワークアダプタを参照してください。

ns — ナノ秒 — 10 億分の 1 秒に相当する時間の単位です。

NVRAM — nonvolatile random access memory (不揮発性ランダムアクセスメモリ) — コンピュータの電源が切られたり、外部電源が停止した場合にデータを保存するメモリの一種です。NVRAM は、日付、時刻、およびユーザーが設定可能なその他のセットアップオプションなどのコンピュータ設定情報を保持するのに利用されます。

P

PC カード — PCMCIA 規格に準拠している取り外し可能な I/O カードです。PC カードの一般的なものに、モデムやネットワークアダプタがあります。

PCI — peripheral component interconnect — PCI は、32 ビットおよび 64 ビットのデータバスをサポートするローカルバスで、プロセッサとデバイス（ビデオ、各種ドライブ、ネットワークなど）間に高速データバスを提供します。

PCMCIA — Personal Computer Memory Card International Association — PC カードの規格を協議している国際的組織です。

PIN — personal identification number (個人識別番号) — コンピュータネットワークやその他の安全が保護されているシステムへの不正なアクセスを防ぐために使用される一連の数字や文字です。

PIO — programmed input/output (プログラム入出力) — データバスの一部にプロセッサを経由した 2 つのデバイス間のデータ転送方法です。

POST — power-on self-test (電源投入時の自己テスト) — BIOS が自動的にロードする診断プログラムです。メモリ、ハードドライブ、およびビデオなどのコンピュータの主要コンポーネントに基本的なテストを実行します。POST で問題が検出されなかった場合、コンピュータは起動を続行します。

PS/2 — personal system/2 — PS/2 互換のキーボード、マウス、またはキーパッドを接続するコネクタです。

PXE — pre-boot execution environment — WfM (Wired for Management) 標準で、オペレーティングシステムのないネットワークコンピュータを設定して、リモートで起動できるようにします。

R

RAID — redundant array of independent disks — データの冗長性を提供する方法です。よく使用される RAID レベルは、RAID 0、RAID 1、RAID 5、RAID 10、および RAID 50 です。

RAM — random-access memory (ランダムアクセスメモリ) — プログラムの命令やデータを保存するコンピュータの主要な一時記憶領域です。RAM に保存されている情報は、コンピュータをシャットダウンすると失われます。

readme ファイル — ソフトウェアのパッケージまたはハードウェア製品に添付されているテキストファイルです。通常、readme ファイルには、インストール手順、新しく付け加えられた機能の説明、マニュアルに記載されていない修正などが記載されています。

RFI — radio frequency interference (無線電波障害) 10 kHz から 100,000 MHz までの範囲の通常の無線周波数で発生する障害です。無線周波は電磁周波数帯域の低域に属し、赤外線や光などの高周波よりも障害を起こしやすい傾向があります。

ROM — read-only memory (読み取り専用メモリ) — コンピュータが削除したり書き込みできないデータやプログラムを保存するメモリです。RAM とは異なり、ROM はコンピュータの電源が切れても内容を保持します。コンピュータの動作に不可欠のプログラムで ROM に常駐しているものがいくつかあります。

RPM — revolutions per minute — 1 分間に発生する回転の数です。ハードドライブ速度の計測に使用します。

RTC — real time clock (リアルタイムクロック) — システム基板上にあるバッテリーで動く時計で、コンピュータの電源を切った後も、日付と時刻を保持します。

RTCST — real-time clock reset (リアルタイムクロックリセット) — いくつかのコンピュータに搭載されているシステム基板上のジャンパで、トラブルシューティングに利用できます。

S

SDRAM — synchronous dynamic random-access memory (同期ダイナミックランダムアクセスメモリ) — DRAM のタイプで、プロセッサの最適クロック速度と同期化されています。

S/PDIF — Sony/Philips Digital Interface — ファイルの質が低下する可能性があるアナログ形式に変換せずに、1 つのファイルから別のファイルにオーディオを転送できるオーディオ転送用ファイルフォーマットです。

SVGA — super-video graphics array — ビデオカードとコントローラ用のビデオ標準規格です。通常、SVGA の解像度は 800 × 600 および 1024 × 768 です。プログラムが表示する色数と解像度は、モニター、ビデオコントローラとドライバ、およびコンピュータに取り付けられているビデオメモリの容量によって異なります。

SXGA — super-extended graphics array — 1280 × 1024 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

SXGA+ — super-extended graphics array plus — 1400 × 1050 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

S ビデオ TV 出力 — テレビまたはデジタルオーディオデバイスをコンピュータに接続するために使われるコネクタです。

T

TAPI — telephony application programming interface — 音声、データ、ファックス、ビデオなどの各種テレフォニーデバイスが Windows のプログラムで使用できるようになります。

U

UPS — uninterruptible power supply (無停電電源装置) — 電気的な障害が起きた場合や、電圧レベルが低下した場合に使用されるバックアップ電源です。UPS を設置すると、電源が切れた場合でも限られた時間、コンピュータは稼働します。通常、UPS システムは、過電流を抑え電圧を調節します。小型の UPS システムで数分間バッテリー電力を供給しますので、コンピュータをシャットダウンすることが可能です。

USB — universal serial bus (ユニバーサルシリアルバス) — USB 互換キーボード、マウス、ジョイスティック、スキャナー、スピーカー、プリンタ、ブロードバンドデバイス (DSL およびケーブルモデム)、撮像装置、またはストレージデバイスなどの低速デバイス用ハードウェアインタフェースです。コンピュータの 4 ピンソケットがコンピュータに接続されたマルチポートハブに直接デバイスを接続します。USB デバイスは、コンピュータの電源が入っていても接続したり取り外すことができます。また、デージーチェーン型に接続することもできます。

UTP — unshielded twisted pair (シールドなしツイストペア) —ほとんどの電話回線利用のネットワークやその他の一部のネットワークで利用されているケーブルの種類です。電磁波障害から保護するためにワイヤのペアに金属製の被覆をほどこす代わりに、シールドなしのワイヤのペアがねじられています。

UXGA — ultra extended graphics array — 1600 × 1200 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

V

V — ボルト — 電位または起電力の計測単位です。1 ボルトは、1 アンペアの電流を通ずる抵抗 1 オームの導線の両端の電位の差です。

W

W — ワット — 電力の計測単位です。1 ワットは 1 ボルトで流れる 1 アンペアの電流を指します。

Whr — ワット時 — おおよそのバッテリー容量を示すのに通常利用される計測単位です。たとえば、66 Whr のバッテリーは 66 W の電力を 1 時間、33 W を 2 時間供給できます。

X

XGA — extended graphics array — 1024 × 768 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

Z

ZIF — zero insertion force — コンピュータチップ、またはソケットのどちらにもまったく力を加えないで、チップを取り付けまたは取り外しできる、ソケットやコネクタの一種です。

Zip — 一般的なデータの圧縮フォーマットです。Zip フォーマットで圧縮されているファイルを Zip ファイルといい、通常、ファイル名の拡張子が .zip となります。特別な Zip ファイルに自己解凍型ファイルがあり、ファイル名の拡張子は .exe となります。自己解凍型ファイルは、ファイルをダブルクリックするだけで自動的に解凍できます。

Zip ドライブ — Iomega Corporation によって開発された大容量のフロッピードライブで、Zip ディスクと呼ばれる 3.5 インチのリムーバブルディスクを使用します。Zip ディスクは標準のフロッピーディスクよりもやや大きく約二倍の厚みがあり、100 MB のデータを保持できます。

ア

アンチウイルスソフトウェア — お使いのコンピュータからウイルスを見つけ出して隔離し、検疫して、除去するように設計されたプログラムです。

ウイルス — 嫌がらせ、またはコンピュータのデータを破壊する目的で作られたプログラムです。ウイルスプログラムは、ウイルス感染したディスク、インターネットからダウンロードしたソフトウェア、または E メール の添付ファイルを経由して、コンピュータからまた別のコンピュータへ感染します。ウイルス感染したプログラムを起動すると、プログラムに潜伏したウイルスも起動します。

一般的なウイルスに、フロッピーディスクのブートセクターに潜伏するブートウイルスがあります。フロッピーディスクを挿入したままコンピュータをシャットダウンすると、次の起動時に、コンピュータはオペレーティングシステムを探すため、フロッピーディスクのブートセクターにアクセスします。このアクセスでコンピュータがウイルスに感染します。一度コンピュータがウイルスに感染すると、ブートウイルスは除去されるまで、読み書きされるすべてのフロッピーディスクにウイルスをコピーします。

エクスペレスサービスコード — Dell™ コンピュータのラベルに記載されている数字のコードです。デルにお問い合わせの際は、エクスペレスサービスコードを使用してください。エクスペレスサービスコードが利用できない国もあります。

オプティカルドライブ — CD、DVD、または DVD+RW から、光学技術を使用してデータを読み書きするドライブです。オプティカルドライブには、CD ドライブ、DVD ドライブ、CD-RW ドライブ、および CD-RW/DVD コンボドライブが含まれます。

カ

カーソル — キーボード、タッチパッド、またはマウスが次にどこで動作するかを示すディスプレイや画面上の目印です。通常は点滅する棒線、アンダーライン、または小さな矢印で表示されます。

解像度 — プリンタに印刷される、またはモニターに表示される画像がどのくらい鮮明かという度合いです。解像度が高いほど、画像は鮮明になります。

書き込み保護 — ファイルやメディアに、データの内容を変更不可に設定することです。書き込み保護を設定し、データを変更または破壊されることのないようにデータを保護します。3.5 インチのフロッピーディスクに書き込み保護を設定するときは、書き込み保護設定タブをスライドさせて書き込み不可の位置にします。

拡張カード — コンピュータのシステム基板上の拡張スロットに装着する電子回路基板で、コンピュータの性能を向上させます。ビデオカード、モデムカード、サウンドカードなどがあります。

拡張型 PC カード — 拡張型 PC カードは、取り付けられた時に PC カードスロットからカードの端がはみ出しています。

拡張スロット — 拡張カードを挿入してシステムバスに接続する、システム基板上のコネクタです（コンピュータによって異なる場合があります）。

拡張ディスプレイモード — お使いのディスプレイの拡張として、2 台目のモニターを使うようにするディスプレイの設定です。[デュアルディスプレイモード](#)とも呼ばれます。

壁紙 — Windows のデスクトップの背景となる模様や絵柄です。壁紙を変更するには Windows コントロールパネルから変更します。また、気に入った絵柄を読み込んで壁紙を作成することもできます。

キーの組み合わせ — 同時に複数のキーを押してコンピュータを操作します。

起動 CD — コンピュータを起動するのに使用する CD です。ハードドライブが損傷した場合や、コンピュータがウイルスに感染した場合など、起動 CD または起動ディスクが必要になりますので、常備しておきます。『Drivers and Utilities CD』または『ResourceCD』は起動 CD です。

起動順序 — コンピュータが起動を試みるデバイスの順序を指定します。

起動ディスク — コンピュータを起動するのに使用するディスクです。ハードドライブが損傷した場合や、コンピュータがウイルスに感染した場合など、起動 CD または起動ディスクが必要になりますので、常備しておきます。

キャッシュ — 特殊な高速ストレージ機構で、メインメモリの予約領域、または独立した高速ストレージデバイスです。キャッシュは、プロセッサのオペレーションスピードを向上させます。

L1 キャッシュプロセッサ内に搭載されているプライマリキャッシュ

L2 キャッシュプロセッサの外部にあるか、またはプロセッサアーキテクチャに統合されているセカンドキャッシュ

休止状態モード — メモリ内のすべてをハードドライブ上の予約領域に保存してからコンピュータの電源を切る、省電力モードです。コンピュータを再起動すると、ハードドライブに保存されているメモリ情報が自動的に復元されます。

グラフィックモード — x 水平ピクセル数 \times y 垂直ピクセル数 \times z 色数で表されるビデオモードです。グラフィックモードは、どんな形やフォントも表現できます。

クロックスピード — システムのバスに接続されているコンピュータコンポーネントがどのくらいの速さで動作するかを示す、MHz で示される速度です。

国際通行許可書 — 物品を外国に一時的に持ち込むことを許可する国際通関文書です。商用パスポートとも呼ばれます。

コントローラ — プロセッサとメモリ間、またはプロセッサとデバイス間のデータ転送を制御するチップです。

コントロールパネル — 画面設定などのオペレーティングシステムやハードウェアの設定を変更するための Windows のユーティリティです。

サ

サージプロテクタ — コンセントを介してコンピュータに影響を与える電圧変動（雷などの原因で）から、コンピュータを保護します。サージプロテクタは、落雷や通常の AC ライン電圧レベルが 20 % 以上低下する電圧変動による停電からはコンピュータを保護することはできません。

ネットワーク接続はサージプロテクタでは保護されません。雷雨時は、必ずネットワークケーブルをネットワークコネクタから外してください。

サービスタグ — コンピュータに貼ってあるバーコードラベルのことです。デルサポート support.jp.dell.com にアクセスしたり、デルのカスタマーサービスやテクニカルサポートに電話でお問い合わせになる場合に必要な識別番号が書いてあります。

システム基板 — コンピュータに搭載されている主要回路基板です。マザーボードとも呼ばれます。

システムトレイ — **通知領域** を参照してください。

シャットダウン — ウィンドウを閉じてプログラムを終了し、オペレーティングシステムを終了して、コンピュータの電源を切るプロセスです。シャットダウンが完了する前にコンピュータの電源を切ると、データを損失する恐れがあります。

ショートカット — 頻繁に使用するプログラム、ファイル、フォルダ、およびドライブに素早くアクセスできるようにするアイコンです。ショートカットを Windows のデスクトップ上に作成し、ショートカットアイコンをダブルクリックすると、それに対応するフォルダやファイルを検索せずに開くことができます。ショートカットアイコンは、ファイルが置かれている場所を変更するわけではないので、ショートカットを削除しても、元のファイルには何の影響もありません。また、ショートカットのアイコン名を変更することもできます。

シリアルコネクタ — I/O ポートは、ハンドヘルドデジタルデバイスやデジタルカメラなどのデバイスをコンピュータに接続するためによく使用されます。

スキャンディスク — ファイル、フォルダ、およびハードディスクの表面にエラーがないかどうかをチェックする Microsoft のユーティリティです。コンピュータの反応が止まって、コンピュータを再起動したときにスキャンディスクが実行されることがあります。

スタンバイモード — コンピュータの不必要な動作をシャットダウンして節電する、省電力モードです。

スマートカード — プロセッサとメモリチップに内蔵されているカードです。スマートカードは、スマートカード搭載のコンピュータでのユーザー認証に利用できます。

赤外線センサー — ケーブルを接続しなくても、コンピュータと赤外線互換デバイス間のデータ転送ができるポートです。

セットアッププログラム — ハードウェアやソフトウェアをインストールしたり設定するのに使うプログラムです。setup.exe または install.exe プログラムが Windows 用ソフトウェアに付属しています。セットアッププログラムはセットアップユーティリティとは異なります。

セットアップユーティリティ — コンピュータのハードウェアとオペレーティングシステム間のインタフェース機能を持つユーティリティです。セットアップユーティリティは BIOS で日時やシステムパスワードなどのようなユーザーが選択可能なオプションの設定ができます。設定がコンピュータにどのような影響を与えるのかわからない場合、このプログラムの設定を変更しないでください。

ソフトウェア — コンピュータファイルやプログラムなど、電子的に保存できるものすべてを指します。

タ

通知領域 — Windows のタスクバーにあり、プログラムや、時計、音量調節、プリンタの状態といったコンピュータの機能に素早くアクセスするためのアイコンを含んでいます。**システムトレイ**とも呼ばれます。

ディスクストライピング — 複数のディスクドライブにまたがってデータを分散させる技術です。ディスクストライピングは、ディスクストレージからデータを取り出す動作を高速化します。通常、ディスクストライピングを利用しているコンピュータではユーザーがデータユニットサイズまたはストライプ幅を選ぶことができます。

テキストエディター — たとえば、Windows のメモ帳など、テキストファイルを作成、および編集するためのアプリケーションプログラムです。テキストエディターには通常、ワードラップやフォーマット（アンダーラインのオプションやフォントの変換など）の機能はありません。

デバイス — コンピュータ内部に取り付けられているか、またはコンピュータに接続されているディスクドライブ、プリンタ、キーボードなどのハードウェアです。

デバイスドライバ — **ドライバ** を参照してください。

デュアルディスプレイモード — お使いのディスプレイの拡張として、2 台目のモニターを使えるようにするディスプレイの設定です。**拡張ディスプレイモード**とも呼ばれます。

ドッキングデバイス — APR を参照してください。

ドメイン — ネットワーク上のコンピュータ、プログラム、およびデバイスのグループで、特定のユーザーグループによって使用される共通のルールと手順のある単位として管理されます。ユーザーは、ドメインにログオンしてリソースへのアクセスを取得します。

ドライバ — プリンタなどのデバイスが、オペレーティングシステムに制御されるようにするためのソフトウェアです。多くのデバイスは、コンピュータに正しいドライバがインストールされていないと正常に動作しません。

トラベルモジュール — ノートブックコンピュータの重量を減らすために、モジュールベイの中に設置できるよう設計されているプラスチック製のデバイスです。

ナ

内蔵 — 通常は、コンピュータのシステム基板上に物理的に搭載されているコンポーネントを指します。**ビルトイン**とも呼ばれます。

ネットワークアダプタ — ネットワーク機能を提供するチップです。コンピュータのシステム基板にネットワークアダプタが内蔵されていたり、アダプタが内蔵されている PC カードもあります。ネットワークアダプタは、**NIC** (ネットワークインタフェースコントローラ) とも呼ばれます。

ハ

パーティション — ハードドライブ上の物理ストレージ領域です。1 つ以上の論理ストレージ領域 (論理ドライブ) に割り当てられます。各パーティションは複数の論理ドライブを持つことができます。

ハードドライブ — ハードディスクのデータを読み書きするドライブです。ハードドライブとハードディスクは、同じ意味としてどちらかが使われています。

バイト — コンピュータで使われる基本的なデータ単位です。通常、1 バイトは 8 ビットです。

バス — コンピュータのコンポーネント間で情報を通信する経路です。

バス速度 — バスがどのくらいの速さで情報を転送できるかを示す、MHz で示される速度です。

バックアップ — フロッピーディスクドライブ、CD ドライブ、またはハードドライブなどにプログラムやデータファイルをコピーすることです。不測の事態に備えて、定期的にハードドライブのバックアップを取ることをお勧めします。

バッテリー — ノートブックコンピュータが AC アダプタおよびコンセントに接続されていない場合に、コンピュータを動作させるために使われる内蔵の電源です。

バッテリー駆動時間 — ノートブックコンピュータのバッテリーがコンピュータに電源を供給する間、充電量を維持できる時間 (分または時間数) です。

バッテリーの寿命 — ノートブックコンピュータのバッテリーが、消耗と再充電を繰り返すことのできる期間 (年数) です。

パラレルコネクタ — I/O ポートは、パラレルプリンタをコンピュータに接続する場合などに使用されます。**LPT ポート**とも呼ばれます。

ヒートシンク — 放熱の役目をするプロセッサに付属する金属板です。

ピクセル — ディスプレイ画面のシングルポイントです。ピクセルが縦と横に並び、イメージを作ります。ビデオ解像度 (800 × 600 など) は、上下左右に並ぶピクセルの数で表します。

ビット — コンピュータが認識するデータの最小単位です。

ビデオ解像度 — **解像度** を参照してください。

ビデオコントローラ — お使いのコンピュータに (モニターの組み合わせにおいて) ビデオ機能を提供するビデオカード、または (内蔵ビデオコントローラ搭載のコンピュータの) システム基板の回路です。

ビデオメモリ — ビデオ機能専用のメモリチップで構成されるメモリです。通常、ビデオメモリはシステムメモリよりも高速です。取り付けられているビデオメモリの容量は、主にプログラムが表示できる色数に影響を与えます。

ビデオモード — テキストやグラフィックをモニターに表示する際のモードです。グラフィックをベースにしたソフトウェア (Windows オペレーティングシステムなど) は、x 水平ピクセル数 × y 垂直ピクセル数 × z 色数で表されるビデオモードで表示されます。文字をベースにしたソフトウェア (テキストエディターなど) は、x 列 × y 行の文字数で表されるビデオモードで表示されます。

フォーマット — ファイルを保存するためにドライブやディスクを準備することです。ドライブまたはディスクをフォーマットするとデータはすべて消失します。

フォルダ — ディスクやドライブ上のファイルを整理したりグループ化する入れ物です。フォルダ中のファイルは、名前や日付やサイズなどの順番で表示できます。

プラグアンドプレイ — デバイスを自動的に設定するコンピュータの機能です。BIOS、オペレーティングシステム、およびすべてのデバイスがプラグアンドプレイ対応の場合、プラグアンドプレイを使うと、自動的なインストール、設定、および既存のハードウェアとの互換性を提供します。

プログラム — 表計算ソフト、ワープロソフト、データベースソフト、ゲームソフトなどデータ処理をするソフトウェアです。これらのプログラムは、オペレーティングシステムの実行を必要とします。

プロセッサ — コンピュータ内部で中心的に演算をおこなうチップです。プロセッサは CPU (中央演算処理装置) とも呼ばれます。

フロッピードライブ — フロッピーディスクにデータを読み書きできるディスクドライブです。

ヘルプファイル — 製品の説明や各種手順を記したファイルです。ヘルプファイルの中には、Microsoft Word ヘルプのように特定のプログラムに適用されるものがあります。他にも単独で参照できるヘルプファイルもあります。通常、ヘルプファイルの拡張子は、.hip または .chm です。

マ

マウス — 画面上のカーソルを移動させるポインティングデバイスです。通常は、マウスを硬くて平らな面で動かし、画面上のカーソルやポイントを移動します。

メモリ — コンピュータ内部にある、一時的にデータを保存する領域です。メモリにあるデータは一時的に保存されているだけですので、作業中は時々ファイルを保存するようお勧めします。また、コンピュータをシャットダウンする時もファイルを保存してください。コンピュータのメモリには、RAM、ROM およびビデオメモリなど何種類があります。通常、メモリというと RAM メモリを指します。

メモリアドレス — データを一時的に RAM に保存する特定の場所です。

メモリマッピング — スタートアップ時に、コンピュータが物理的な場所にメモリアドレスを割り当てる処理です。デバイスとソフトウェアが、プロセッサがアクセスできる情報を識別できるようになります。

メモリモジュール — システム基板上に接続されている、メモリチップを搭載した小型回路基板です。

モジュールベイ — オプティカルドライブ、セカンドバッテリー、または Dell TravelLite™ モジュールなどのデバイスをサポートするベイです。

モデム — アナログ電話回線を介して他のコンピュータと通信するためのデバイスです。モデムには、外付けモデム、PC カード、および内蔵モデムの 3 種類があります。通常、モデムはインターネットへの接続や E メールを送受信に使用されます。

モニター — 高解像度のテレビのようなデバイスで、コンピュータの出力を表示します。

ヤ

読み取り専用 — 表示することはできますが、編集したり削除することができないデータやファイルです。次のような場合にファイルを読み取り専用に変更できます。

- ! フロッピーディスク、CD、または DVD を書き込み保護に設定している場合
 - ! ファイルがネットワーク上のディレクトリにあり、システム管理者がアクセス権限に特定の個人だけを許可している場合
-

ラ





リフレッシュレート — Hz で示される、画面の水平走査線が再描画される周波数（**垂直周波数**とも呼ばれます）です。人の目には、リフレッシュレートが高いほど、ビデオのちらつきが少なくなります。

ローカルバス — デバイスにプロセッサへの高速スループットを提供するデータバスです。

[目次ページに戻る](#)

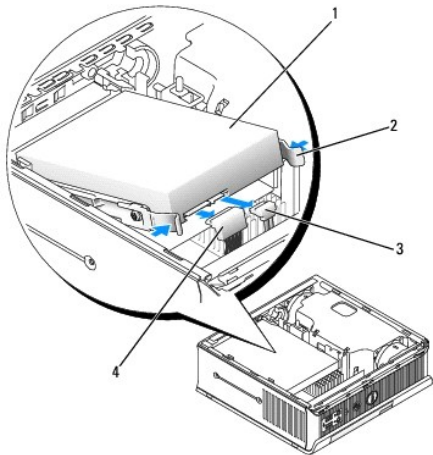
ハードドライブ

Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド

-  **警告:** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。
-  **警告:** 感電防止のため、ハードドライブを取り外す前に、必ずコンピュータの電源プラグを電源装置から抜いてください。
-  **注意:** コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を逃がすことができます。
-  **注意:** ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

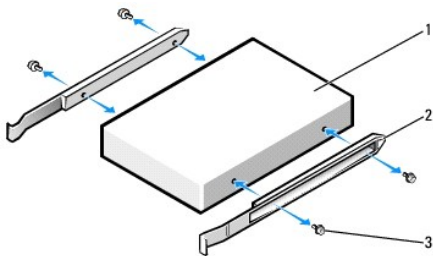
ハードドライブの取り付け

1. ドライブを交換するのではなく新しいドライブを取り付ける場合、新しいドライブにカバーの内側にある**ドライブレールを取り付けて、手順 8**に進みます。
2. 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。
3. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータ用に設定されているか確認します。
4. 「はじめに」の手順を実行します。
5. ドライブレールをつかんで、2つのレールを互いの方向に押します。ドライブをわずかに前方にスライドさせ、ハードドライブを持ち上げてブラケットから取り外します（下図を参照）。



1	ハードドライブ	3	電源ケーブルコネクタ
2	ドライブレール (2)	4	データケーブルコネクタ

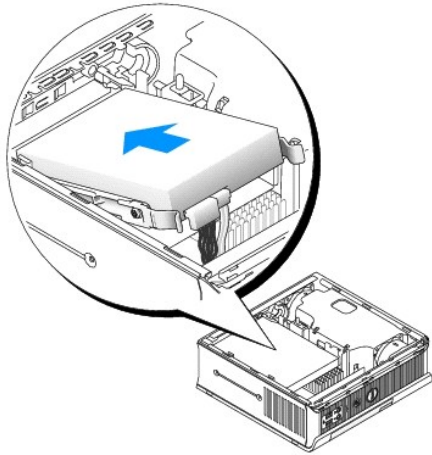
6. データケーブルと電源ケーブルをドライブコネクタから抜きます。
7. ドライブレールを古いハードドライブから取り外して、交換用のハードドライブに取り付けます。



1	ドライブ
2	ドライブレール (2)
3	ネジ (4)

● **注意:** シリアル ATA のデータコネクタと電源コネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、一方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。ケーブルをドライブに接続する際は、ケーブルをドライブに接続する前に、コネクタの向きが正しいことを確認してください。

- コネクタの向きが正しいことを確認しながら、データケーブルと電源ケーブルをハードドライブコネクタに接続します。
- ハードドライブをブラケットにスライドさせます。



- カバーを取り付けます。
- ケーブルカバーを取り付けます (使用している場合)。

● **注意:** ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

- コンピュータを電源アダプタに接続し、デバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

- コンピュータを再起動します。
- カバーを取り付けなおすと、次のコンピュータ起動時にシャシーントルーゼーションディテクタ (有効な場合) は、次のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed. (警告! カバーが取り外されました。)

- Chassis Intrusion を On または On-Silent に変更して、[シャシーントルーゼーションディテクタをリセットします](#)。

● **メモ:** 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャシーントルーゼーションディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

- 次の手順に進む前に、ドライブにパーティションを作成し、論理フォーマットを実行します。

手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

- [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#) を実行して、ハードドライブをテストします。
- ハードドライブにオペレーティングシステムをインストールします。

手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

[目次ページに戻る](#)

メモリ

Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド

- [メモリの取り付けガイドライン](#)
- [メモリの取り付け](#)
- [メモリの取り外し](#)

メモリの取り付けガイドライン

お使いのコンピュータでサポートされているメモリの種類については、仕様の「[メモリ](#)」を参照してください。

- **注意:** 新しいメモリモジュールを取り付ける前に、お使いのコンピュータ用の最新の BIOS をデルサポートウェブサイト support.jp.dell.com からダウンロードしてください。

DDR2 メモリの概要

最適な動作のために、DDR2 メモリモジュールは必ず同じメモリサイズ、同じ速度、および同じテクノロジーのものを 2 枚 1 組のペアで取り付ける必要があります。DDR2 メモリモジュールをペアで取り付けていない場合、コンピュータは動作し続けますが、性能が少し落ちます。

推奨されるメモリ構成は、以下のとおりです。

- 1 CHA_DIMM コネクタに取り付けられたメモリモジュール

または

- 1 CHA_DIMM と CHB_DIMM コネクタに取り付けられた同等のメモリモジュールのペア

- **注意:** ECC メモリモジュールを装着しないでください。

- 1 別のコネクタにメモリモジュールを装着する前に、プロセッサに最も近いコネクタの CHA_DIMM に単一のメモリモジュールを装着していることを確認してください。

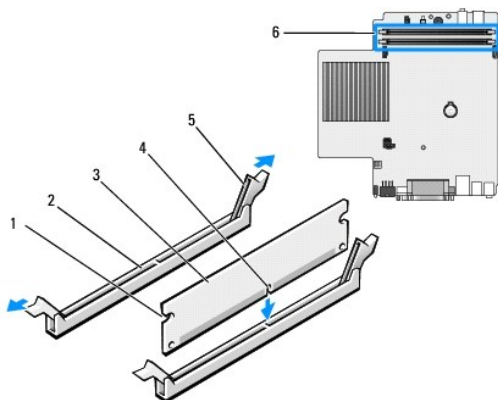
- **メモ:** デルからご購入されたメモリは、お使いのコンピュータの保証の対象になっています。

メモリの取り付け

- ▲ **警告:** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

- ▲ **警告:** コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体から静電気を逃がすことができます。

- 1 「はじめに」の手順を実行します。
- 2 メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを押し開きます。



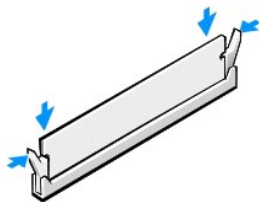
1	切り欠き (2)	4	切り込み
2	コネクタ	5	固定クリップ (2)
3	メモリモジュール	6	システム基板のメモリコネクタ

3. モジュールの底面の切り込みを、コネクタ内のクロスバーに合わせます。

注意: メモリモジュールへの損傷を防ぐため、モジュールの両端に均等に力をかけてコネクタにまっすぐ差し込むようにしてください。

4. カチッと所定の位置に収まるまで、モジュールをコネクタに差し込みます。

モジュールが適切に挿入されると、固定クリップはモジュール両端の切り欠きにカチッと収まります。



5. コンピュータカバーを取り付けます。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

6. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを開けて閉じると、次のコンピュータ起動時に、シャシーントルーゾーションディテクタ（有効な場合）は以下のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed. (警告! カバーが取り外されました。)

7. Chassis Intrusion を On または On-Silent に変更して、[シャシーントルーゾーションディテクタをリセットします](#)。

メモ: 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャシーントルーゾーションディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

8. 新しいメモリ容量が既存の設定情報と一致しないことをコンピュータが検出して、次のメッセージが表示します。


The amount of system memory has changed.
Strike the F1 key to continue, F2 to run the setup utility
(システムメモリの容量が変更されています。続けるには F1 キーを、セットアップユーティリティを起動するには F2 を押してください。)


9. <F2> を押してセットアップユーティリティを起動し、System Memory の値を確認します。

コンピュータは新しく取り付けられたメモリの容量、速度、およびモード（シングルまたはデュアル）を認識して、System Memory の値を変更します。正しい値か確認します。値が正しければ、[手順 11](#) へ進みます。

10. メモリの合計が正しくない場合、コンピュータとデバイスの電源を切ってコンセントから外します。コンピュータカバーを開き、取り付けられたメモリモジュールがソケットに正しく装着されているか確認します。次に、手順 [5](#)、[6](#)、および [7](#) を繰り返します。
11. System Memory の総メモリ容量が正しい場合、<Esc> を押してセットアップユーティリティを終了します。
12. [Dell Diagnostics（診断）プログラム](#) を実行して、メモリモジュールが正しく動作しているか確認します。

メモリの取り外し

 **警告:** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

 **警告:** コンピュータの内蔵コンポーネントの静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を逃がすことができます。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを押し開きます。
3. モジュールをつかんで引き上げます。

モジュールが取り外しにくい場合、モジュールを前後に軽く動かして緩め、コネクタから取り外します。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

モジュールベイ

Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド

- [コンピュータの電源が切れている場合のデバイスの取り付け](#)
- [Microsoft® Windows® を実行している場合のデバイスの取り付け](#)
- [モジュールベイへのデバイスの固定](#)

警告: 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

フロッピードライブ、CD/DVDドライブ、またはセカンドハードドライブなどの Dell™ ポータブルデバイスをモジュールベイに取り付けることができます。

お使いのデルコンピュータは、モジュールベイに CD/DVD ドライブまたはエアベイ（フィラーブラック）が取り付けられた状態で出荷されています。2 つの方法でデバイスをモジュールベイに固定することができます。

- 1 ロックスイッチ（カバーを取り外してアクセスします）
- 1 [デバイスネジ](#)（別に梱包されています）

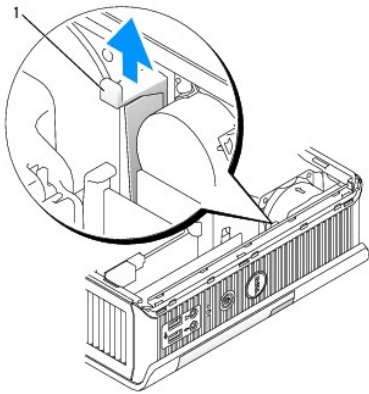
お使いのコンピュータでのデバイスの固定については、『[モジュールベイへのデバイスの固定](#)』を参照してください。

注意: デバイスへの損傷を防ぐため、デバイスをコンピュータに取り付けていない場合、デバイスは安全で乾燥した場所に保管してください。上から力を加えたり、または重いものを載せたりしないでください。

コンピュータの電源が切れている場合のデバイスの取り付け

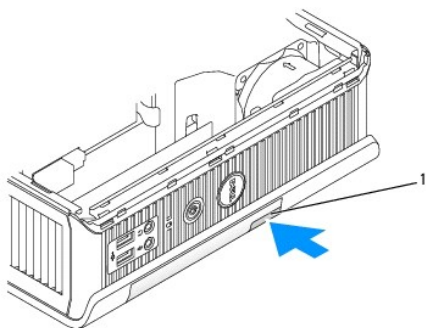
デバイスをモジュールベイに取り付けるには、次の手順を実行します。

- 1 デバイスの代わりにエアベイがモジュールベイに取り付けられている場合、エアベイをつかんでモジュールベイから引き出して、[手順 5](#)に進みます。エアベイがロックされている場合、[デバイスネジ](#)を外します。
- 2 モジュールベイにロックされているデバイスがある場合、[カバーを取り外し](#)、ロックスイッチを持ち上げて、モジュールロックスイッチをロック解除位置にします。デバイスネジが使われている場合、ネジを外します。



1 モジュールロックスイッチ

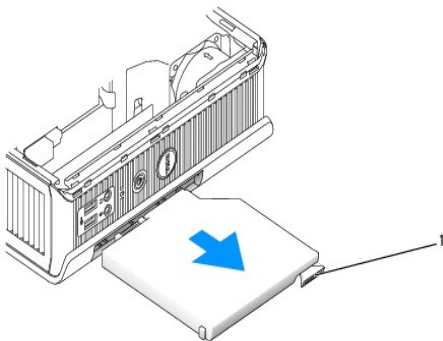
- 3 デバイスリリースラッチを押します。すると、リリースラッチがポンと飛び出します。



1 デバイスリリースラッチ

➡ **注意:** コンピュータの上に重いものを載せないでください。重いものを載せると、モジュールデバイスを簡単に取り外せなくなる場合があります。

4. リリースラッチをつかんでデバイスを引き、デバイスをモジュールベイから取り外します。



1 リリースラッチ

5. 新しいデバイスをモジュールベイにスライドします。
6. モジュールロックスイッチをロック位置に動かして、新しいデバイスをロックすることもできます。
7. デバイスをモジュールベイにロックするためにカバーを取り外した場合、カバーを取り付けます。

Microsoft® Windows® を実行している場合のデバイスの取り付け

1. デバイスがモジュールベイに取り付けられている場合、タスクバーの **ハードウェアの安全な取り外し** アイコンをダブルクリックします。
2. 取り外すデバイスをクリックします。

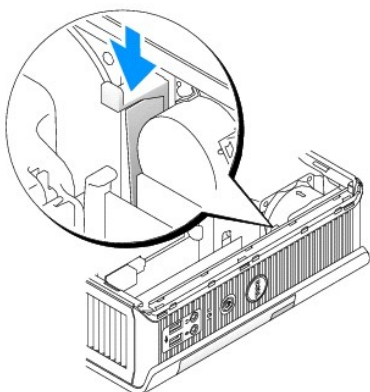
📌 **メモ:** コンピュータが起動していてデバイスがモジュールベイにロックされている場合、デバイスを取り外すことはできません。ロックされているデバイスを取り外すには、コンピュータをシャットダウンして「[コンピュータの電源が切れている場合のデバイスの取り付け](#)」の手順を実行します。

➡ **注意:** コンピュータの上に重いものを載せないでください。重いものを載せるとモジュールデバイスを簡単に取り外せなくなる場合があります。

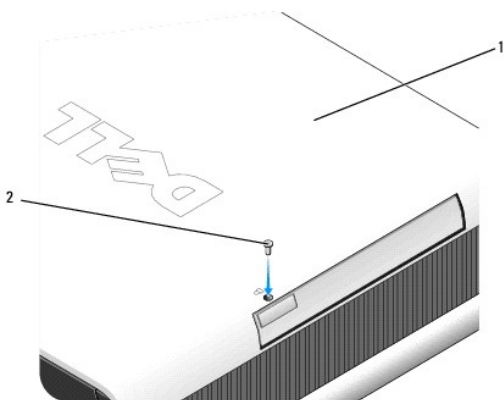
3. デバイスの取り外し準備ができたことを示すメッセージがコンピュータに表示されたら、デバイスをコンピュータから取り外します。
4. 新しいデバイスをモジュールベイにスライドします。

モジュールベイへのデバイスの固定

1. デバイスをモジュールベイに固定するために、お使いのコンピュータにはモジュールロックスイッチが付属しています。スイッチにアクセスするには、[コンピュータカバーを取り外します](#)。



2. デバイスネジを使用して、デバイスをモジュールベイに固定することもできます（デバイスネジは別に梱包されています）。



1	コンピュータの底部
2	デバイスロックネジ

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

部品の取り付けと取り外し

Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド

- [はじめに](#)
- [コンピュータカバーの取り外し](#)
- [バッテリー](#)
- [シャーシインเทอร์ロックスイッチ](#)
- [シャーシスピーカー](#)
- [ハードドライブ](#)
- [メモリ](#)
- [モジュールベイ](#)
- [プロセッサ](#)
- [コンピュータカバーの取り付け](#)

はじめに

この項では、コンピュータのコンポーネントの取り外しおよび取り付けについて説明します。特に記載のない限り、各手順において以下の項目を完了している事を前提とします。

- 1 「[コンピュータのシャットダウン](#)」の手順を完了している
- 1 お使いのコンピュータに付属の『製品情報ガイド』にある安全に関する注意事項を読み終えている

推奨ツール

このマニュアルの手順では、以下のツールが必要な場合があります。

- 1 小型のマイナスドライバ
- 1 プラスドライバ
- 1 フラッシュ BIOS アップデートプログラムのフロッピーディスクまたは CD

コンピュータのシャットダウン

コンピュータへの損傷を防ぎ、ご自身を危険から守るため、次の安全に関する注意事項に従ってください。





- ⚠ **警告:** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。
- ⚠ **警告:** コンポーネントおよびカードは慎重に扱います。カード上のコンポーネントまたは接点には触れないでください。カードを持つ際は線を持つか、金属製の取り付けブラケット部分を持ちます。プロセッサなどの部品を持つ際は、線または金属製の取り付けブラケット部分を持ちます。プロセッサなどの部品を持つ際は、ピンではなく線を持ってください。
- 🚫 **注意:** 認定を受けたサービス技術者以外は、コンピュータの修理をしないでください。デルに承認されていない修理で受けた損傷は、お客様の保証に含まれていません。
- 👉 **注意:** ケーブルを抜くときは、コネクタまたはストレーンリリーフの部分を持ち、ケーブル自体を引っ張らないでください。ロック付きのコネクタがあるケーブルもあります。このタイプのケーブルを抜く場合、ロックタブを押し入れてからケーブルを抜きます。コネクタを抜く際は、コネクタのピンを曲げないようにまっすぐに引き抜きます。また、ケーブルを接続する前に、両方のコネクタが正しい向きに揃っているか確認します。
- 👉 **注意:** コンピュータへの損傷を防ぐために、コンピュータ内部の作業をする前に以下の手順を実行してください。
 - 1 コンピュータをシャットダウンします。
 - 2 コンピュータと取り付けられているデバイスの電源が切れているか確認します。コンピュータをシャットダウンした際に、コンピュータと取り付けられているデバイスの電源が自動的に切れなかった場合、ここでそれらの電源を切ります。
- 👉 **注意:** ネットワークケーブルを取り外すには、まずコンピュータからネットワークケーブルを外し、次に壁のネットワークジャックから外します。
 - 3 電話回線や通信回線のケーブルをコンピュータから外します。
 - 4 コンピュータと取り付けられているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、電源ボタンを押して、システム基板の静電気を逃がします。
- ⚠ **警告:** 感電を防ぐため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。
 - 5 ケーブルカバーを取り外します（使用している場合）。
 - 6 [コンピュータカバーを取り外します](#)。
- 🚫 **注意:** コンピュータ内部の部品に触れる前に、コンピュータ背面の金属部など塗装されていない金属面に触れて、身体の静電気を逃がしてください。作業中は定期的に塗装されていない金属面に触れて、静電気による内部コンポーネントの損傷を防止します。

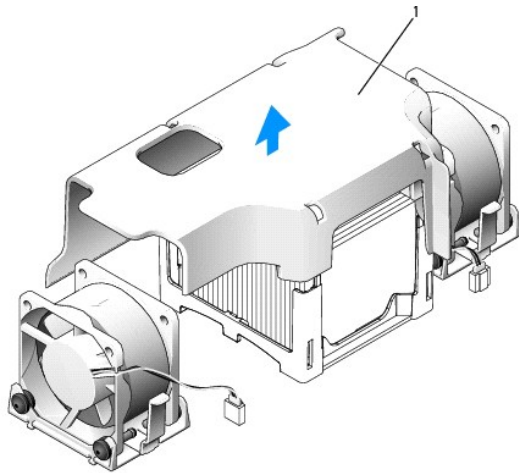
[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)


プロセッサ

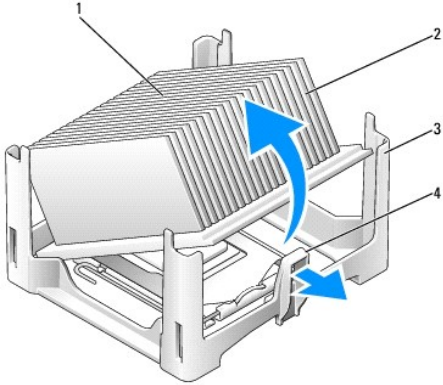
Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド

-  **警告:** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。
 -  **警告:** 感電を防ぐため、カバーを取り外す前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。
 -  **注意:** プロセッサを交換する際、新しいプロセッサの底面に触れないようにしてください。
 -  **注意:** プロセッサを交換する際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。
1. 「はじめに」の手順を実行します。
 2. ファンカバーを持ち上げて、コンピュータからファンカバーを取り外します。



1 ファンカバー

-  **警告:** ヒートシンクは、非常に高温になることがあります。温度が下がるまで十分な時間をおいてから触れるようにしてください。
3. ヒートシンクを取り外します。
 - a. ヒートシンクに最も近いメモリモジュールを取り外します（「[メモリモジュールの取り外し](#)」を参照）。
 - b. ヒートシンクが外れるようになるまで保持基盤のレバーを押します。

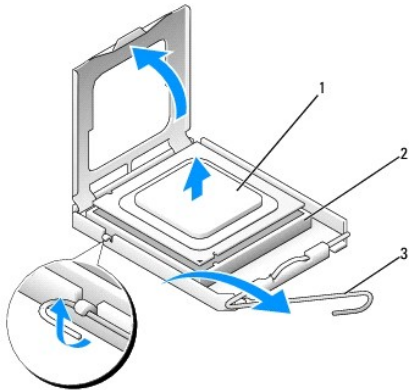


1	ヒートシンクの上部	3	保持基盤
2	ヒートシンク	4	レバー

c. ヒートシンクを慎重にプロセッサから持ち上げます。

➡ **注意：** サーマルグリースが付いた面を上に向けてヒートシンクを置きます。

4. プロセッサが外れるまでリリースレバーをまっすぐ引き上げ、プロセッサをソケットから取り外します。



1	プロセッサ
2	ソケット
3	リリースレバー

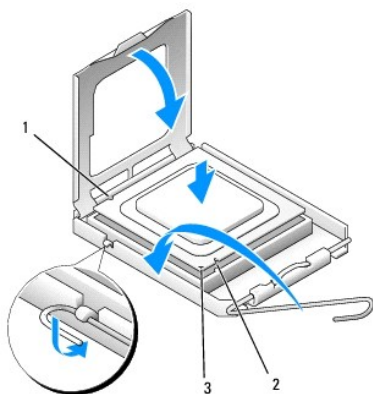
➡ **注意：** コンピュータ背面の塗装されていない金属面に触れて、身体から静電気を逃がしてください。

➡ **注意：** プロセッサを交換する際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。

5. プロセッサの底部を触らないように気をつけながら、新しいプロセッサを梱包から取り出します。
6. ソケット上のリリースレバーが完全に開いていない場合、開放位置まで動かします。
7. プロセッサの前面と背面のノッチをソケットの前面と背面のノッチに合わせます。
8. プロセッサとソケットの 1 番ピンの角を合わせます。

➡ **注意：** 損傷を防ぐため、プロセッサとソケットが正しく揃っているか確認してください。プロセッサを取り付ける際に無理に力を加えないでください。

9. プロセッサをソケットに慎重に置いて、プロセッサが正しい位置にあるか確認します。
10. プロセッサをソケットに完全に装着できたら、リリースレバーを所定の位置にカチッと収まるまで後ろ側へ回し、プロセッサを固定します。

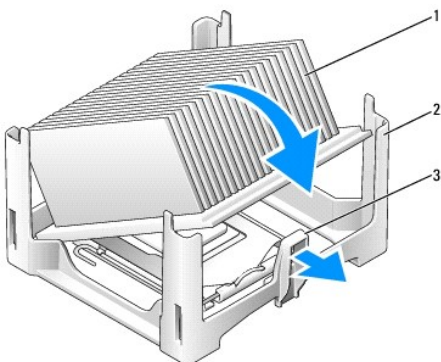


1	背面位置合わせノッチ
2	前面位置合わせノッチ
3	位置を合わせたプロセッサとソケットの 1 番ピンの角

➡ **注意:** コンピュータ背面の塗装されていない金属面に触れて、身体から静電気を逃がしてください。

デルのプロセッサ交換キットを取り付ける場合、プロセッサは交換キットが送付されてきた同じパッケージに梱包してデルへ返送してください。

- レバーと反対側の保持基盤のタブの下に、ヒートシンクの片方の端を置きます（図を参照）。ヒートシンクがもう一方の保持基盤の端のタブにしっかりと装着されるように、ヒートシンクをプロセッサに押し下げます。



1	ヒートシンク
2	保持基盤
3	レバー

- コンピュータカバーを取り付けます。
- [ケーブルカバーを取り付けます](#)（使用している場合）。


➡ **注意:** ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

- コンピュータをアダプターケーブルに接続し、デバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを取り付けなすと、次のコンピュータ起動時にシャシーントルーションディテクタ（有効な場合）は、次のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed.（警告！カバーが取り外されました。）

- Chassis Intrusion オプションを On または On-Silent に変更して、[シャシーントルーションディテクタをリセットします](#)。

 **メモ:** 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャードインテリジェンティクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。


[目次ページに戻る](#)


[目次ページに戻る](#)


ドライバとオペレーティングシステムの再インストール

Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド

- [ドライバ](#)
- [Microsoft® Windows® XP システムの復元の使い方](#)
- [Microsoft Windows XP の再インストール](#)

 **警告:** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

 **注意:** Windows XP を再インストールする際は、Microsoft® Windows® SP 1 以降を使用する必要があります。

 **メモ:** お使いのコンピュータに単一のイメージをインストールした場合、またはオペレーティングシステムを再インストールする必要がある場合、DSS ユーティリティを使用します。DSS は、『Drivers and Utilities CD』および support.jp.dell.com で利用できます。


ドライバ

ドライバとは？

ドライバは、プリンタ、マウス、キーボードなどのデバイス制御するプログラムです。すべてのデバイスにドライバプログラムが必要です。

ドライバは、デバイスとそのデバイスを使用するプログラム間の通訳のような役目をします。各デバイスは、そのデバイスのドライバだけが認識する専用のコマンドセットを持っています。

お使いの Dell コンピュータには、出荷時に必要なドライバがプリインストールされていますので、新たにインストールしたり設定する必要はありません。

 **注意:** 『Drivers and Utilities CD』には、お使いのコンピュータに搭載されていないオペレーティングシステムのドライバが収録されている場合もあります。インストールするソフトウェアがオペレーティングシステムに対応していることを確認してください。

キーボードドライバなど、多くのドライバは Microsoft Windows オペレーティングシステムに付属しています。以下の場合に、ドライバをインストールする必要があります。

- 1 オペレーティングシステムのアップグレード
- 1 オペレーティングシステムの再インストール
- 1 新しいデバイスの接続または取り付け

ドライバの識別


デバイスに問題が発生した場合、問題の原因がドライバかどうかを判断し、必要に応じてドライバをアップデートしてください。

Windows XP

- 1 **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **作業する分野を選びます** で、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
- 3 **システム** をクリックします。
- 4 **システムのプロパティ** ウィンドウで、**ハードウェア** タブをクリックします。
- 5 **デバイスマネージャ** をクリックします。
- 6 一覧を下にスクロールして、デバイスアイコンに感嘆符 ([!] の付いた黄色い丸) が付いているものがないかを確認します。

デバイス名の横に感嘆符がある場合、[ドライバの再インストール](#)または新しいドライバのインストールが必要な場合があります。

ドライバおよびユーティリティの再インストール

-  **注意:** デルサポートウェブサイト support.jp.dell.com および『Drivers and Utilities CD』で、Dell™ コンピュータ用に承認されているドライバを提供しています。その他の媒体からドライバをインストールすると、お使いのコンピュータが適切に動作しない恐れがあります。

Windows XP デバイスドライバのロールバックの使い方


新たにドライバをインストールまたはアップデートした後に、コンピュータに問題が発生した場合、Windows XP のデバイスドライバのロールバックを使用して、以前にインストールしたバージョンのドライバに置き換えることができます。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **作業する分野を選びます** で、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
3. **システム** をクリックします。
4. **システムのプロパティ** ウィンドウで、**ハードウェア** タブをクリックします。
5. **デバイスマネージャ** をクリックします。
6. 新しいドライバをインストールしたデバイスを右クリックして、**プロパティ** をクリックします。
7. **ドライバ** タブをクリックします。
8. **ドライバのロールバック** をクリックします。

デバイスドライバのロールバックで問題が解決しない場合、システムの復元を使用して、オペレーティングシステムを新しいドライバがインストールされる前の動作状態に戻してみます。

Drivers and Utilities CD の使い方

デバイスドライバのロールバックまたは[システムの復元](#)で問題を解決できない場合、『Drivers and Utilities CD』（『ResourceCD』とも呼ばれます）からドライバを再インストールします。

-  **メモ:** デバイスドライバとユーザーマニュアルにアクセスするには、Windows を実行中に『Drivers and Utilities CD』を使用する必要があります。

1. 『Drivers and Utilities CD』を挿入します。

はじめて『Drivers and Utilities CD』をご使用になる場合、インストールウィンドウが開き CD がインストールを開始することを知らせます。OK をクリックし、インストールプログラムのプロンプトに従って、インストールを完了します。

2. Dell **システムをお買い上げくださり、ありがとうございます**。画面で、**次へ** をクリックします。
3. 該当する **システムモデル**、**オペレーティングシステム**、**デバイスの種類**、および **トピック** を選びます。
4. **トピック** ドロップダウンメニューで **マイドライバ** をクリックします。

『Drivers and Utilities CD』は、コンピュータのハードウェアとオペレーティングシステムをスキャンして、システム設定用のデバイスドライバの一覧を表示します。


5. 該当するドライバをクリックし、指示に従ってお使いのコンピュータ用のドライバをダウンロードします。

お使いのコンピュータに利用できるすべてのドライバの一覧を表示するには、**トピック** ドロップダウンメニューの **ドライバ** をクリックします。

『Drivers and Utilities CD』のヘルプファイルにアクセスするには、疑問符（？）ボタンまたは画面上部の **ヘルプ** リンクをクリックします。

Microsoft® Windows® XP システムの復元の使い方


ハードウェア、ソフトウェア、またはその他のシステム設定を変更したためにコンピュータが正常に動作しなくなった場合、Microsoft Windows XP オペレーティングシステムのシステムの復元を使用して、コンピュータを以前の動作状態に復元することができます（データファイルへの影響はありません）。システムの復元の使い方については、Windows ヘルプとサポートセンターを参照してください。

-  **注意:** データファイルの定期的なバックアップをおこなってください。システムの復元は、データファイルを監視したり、データファイルを復元することはできません。

復元ポイントの作成

1. **スタート** ボタンをクリックして、**ヘルプとサポート** をクリックします。
2. **システムの復元** をクリックします。
3. 画面の指示に従います。

コンピュータの以前の動作状態への復元

 **注意:** お使いのコンピュータを以前の動作状態に復元する前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。システムの復元が完了するまでは、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除しないでください。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール** の順にポイントして、**システムの復元** をクリックします。
2. **コンピュータを以前の状態に復元する** が選択されていることを確認してから、**次へ** をクリックします。
3. コンピュータを以前の状態に復元する時点の日付をクリックします。

復元ポイントの選択 画面に、復元ポイントを確認して選択できるカレンダーが表示されます。復元ポイントが利用できる日付は太字で表示されます。

4. 復元ポイントを選んで、**次へ** をクリックします。

日付の中に復元ポイントが 1 つしかない場合、その復元ポイントが自動的に選択されます。2 つ以上の復元ポイントが利用可能な場合、希望の復元ポイントをクリックします。


5. **次へ** をクリックします。

システムの復元がデータの収集を完了したら、**復元は完了しました** 画面が表示され、コンピュータは自動的に再起動します。

6. コンピュータが再起動したら、**OK** をクリックします。

復元ポイントを変更するには、別の復元ポイントを使って手順を繰り返すか、または復元を取り消すことができます。

最後のシステムの復元の取り消し

 **注意:** 最後におこなったシステムの復元を取り消す前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。システムの復元が完了するまでは、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除しないでください。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール** の順にポイントして、**システムの復元** をクリックします。
2. **以前の復元を取り消す** をクリックして、**次へ** をクリックします。
3. **次へ** をクリックします。

システムの復元 画面が表示され、コンピュータが再起動します。

4. コンピュータが再起動したら、**OK** をクリックします。


システムの復元の有効化

空き容量が 200 MB 以下のハードディスクに Windows XP を再インストールした場合、システムの復元は自動的に無効に設定されます。システムの復元が有効になっているか確認するには、次の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
3. **システム** をクリックします。
4. **システムの復元** タブをクリックします。
5. **すべてのドライブでシステムの復元を無効にする** にチェックマークが付いていないことを確認します。


Microsoft Windows XP の再インストール

 **注意:** Windows XP を再インストールする際は、Microsoft Windows XP SP 1 以降を使用する必要があります。

 **メモ:** お使いのコンピュータに単一のイメージをインストールした場合、またはオペレーティングシステムを再インストールする必要がある場合、DSS ユーティリティを使用します。DSS は、『Drivers and Utilities CD』および support.jp.dell.com で利用できます。


はじめに

新しくインストールしたドライバの問題を解消するために Windows XP オペレーティングシステムを再インストールする場合、まず最初に Windows XP の [デバイスドライバのロールバック](#) を使います。デバイスドライバのロールバックを実行しても問題が解決されない場合、[システムの復元](#) を使用して、オペレーティングシステムを新しいデバイスドライバがインストールされる前の動作状態に戻します。

 **注意:** この手順を実行する前に、お使いのプライマリハードドライブのすべてのデータファイルをバックアップします。標準的なハードドライブ構成において、プライマリハードドライブはコンピュータによって 1 番目のドライブとして認識されます。

Windows XP を再インストールするには、以下のアイテムが必要です。


- 1 Dell™ 『オペレーティングシステム CD』
- 1 Dell 『Drivers and Utilities CD』


 **メモ:** 『Drivers and Utilities CD』には、コンピュータの製造工程でプリインストールされたドライバが収録されています。『Drivers and Utilities CD』を使って、必要なすべてのドライバをロードします。お使いのコンピュータに RAID コントローラがある場合は、そのドライバもロードします。

Windows XP の再インストール

Windows XP を再インストールするには、次項で記載されている手順を順番通りに実行します。

再インストール処理を完了するには、1 ~ 2 時間かかることがあります。オペレーティングシステムを再インストールした後、デバイスドライバ、アンチウイルスプログラム、およびその他のソフトウェアを再インストールする必要があります。

 **注意:** 『オペレーティングシステム CD』は、Windows XP の再インストール用のオプションを提供します。このオプションはファイルを上書きして、ハードドライブにインストールされているプログラムに影響を与える可能性があります。このような理由から、デルのテクニカルサポート担当者の指示がない限り、Windows XP を再インストールしないでください。

 **注意:** Windows XP とのコンフリクトを防ぐため、コンピュータにインストールされているアンチウイルスソフトウェアを無効にしてから Windows XP を再インストールしてください。手順については、ソフトウェアに付属しているマニュアルを参照してください。

オペレーティングシステム CD からの起動

- 1 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。
- 2 『オペレーティングシステム CD』を挿入します。Install Windows XP というメッセージが表示された場合、**終了** をクリックします。
- 3 コンピュータを再起動します。
- 4 DELL™ のロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。


オペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Windows のデスクトップが表示されるのを待ちます。次に、コンピュータをシャットダウンして、再度試みます。


- 5 矢印キーを使って **CD-ROM** を選び、<Enter> を押します。
- 6 Press any key to boot from CD というメッセージが表示されたら、任意のキーを押します。

Windows XP のセットアップ

- 1 **セットアップの開始** 画面が表示されたら、<Enter> を押して続行します。
- 2 Microsoft Windows **ライセンス契約** 画面の内容を読み、<F8> を押して、使用許諾契約書に同意します。
- 3 お使いのコンピュータにすでに Windows XP がインストールされていて、現在の Windows XP データを復元したい場合、**r** と入力して修復オプションを選び、CD を取り出します。
- 4 新たに Windows XP をインストールする場合、<Esc> を押してオプションを選択します。
- 5 <Enter> を押してハイライト表示されたパーティションを選び（推奨）、画面の指示に従います。


Windows XP **セットアップ** 画面が表示され、オペレーティングシステムは、ファイルのコピーおよびデバイスのインストールを開始します。コンピュータは自動的に数回再起動します。

 **メモ:** ハードドライブの容量やコンピュータの速度によって、セットアップに要する時間は変わります。


 **注意:** Press any key to boot from the CD. というメッセージが表示されますが、どのキーも押さないでください。

6. **地域と言語のオプション** 画面が表示されたら、お住まいの地域の設定を選択して、**次へ** をクリックします。
7. **ソフトウェアの個人用設定** 画面で、お名前と会社名（オプション）を入力して、**次へ** をクリックします。
8. **コンピュータ名と Administrator ウィンドウ**で、コンピュータ名（または記載の名前を承認）およびパスワードを入力して、**次へ** をクリックします。
9. **モデムのダイヤル情報** 画面が表示された場合、必要な情報を入力して、**次へ** をクリックします。
10. **日付と時間の設定** ウィンドウに日付と時間を入力して、**次へ** をクリックします。
11. **ネットワークの設定** 画面が表示された場合、**標準設定** をクリックして、**次へ** をクリックします。
12. Windows XP Professional を再インストールしている場合、ネットワーク設定に関する情報を求められるので、該当するものを選びます。設定がわからない場合、デフォルトの選択肢を選びます。

Windows XP は、オペレーティングシステムのコンポーネントをインストールして、コンピュータを設定します。コンピュータが自動的に再起動します。

 **注意:** Press any key to boot from the CD. というメッセージが表示されますが、どのキーも押さないでください。

13. **Microsoft Windows へようこそ** 画面が表示されたら、**次へ** をクリックします。
14. **インターネットに接続する方法を指定してください** というメッセージが表示されたら、**省略** をクリックします。
15. **Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか？** 画面が表示されたら、**いいえ、今回はユーザー登録しません** を選び、**次へ** をクリックします。
16. **このコンピュータを使うユーザーを指定してください** 画面が表示されたら、5 名までユーザーを入力できます。
17. **次へ** をクリックします。
18. **完了** をクリックし、セットアップを完了して、CD を取り出します。
19. 『Drivers and Utilities CD』を使って、[適切なドライバを再インストールします](#)。
20. アンチウイルスソフトウェアを再インストールします。
21. 使用するプログラムを再インストールします。

 **メモ:** Microsoft Office または Microsoft Works Suite プログラムを再インストールして有効にするには、Microsoft Office または Microsoft Works Suite の CD ケースの裏面にある Product Key（プロダクトキー）ナンバーが必要です。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

問題の解決

Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド

- [バッテリーの問題](#)
- [ドライブの問題](#)
- [キーボードの問題](#)
- [コンピュータおよびソフトウェアの問題](#)
- [メモリの問題](#)
- [マウスの問題](#)
- [ネットワークの問題](#)
- [電源の問題](#)
- [プリンタの問題](#)
- [デフォルト設定の復元](#)
- [シリアルまたはパラレルデバイスの問題](#)
- [サウンドとスピーカーの問題](#)
- [ビデオとモニターの問題](#)

バッテリーの問題

以下を確認しながら、[Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#)に必要事項を記入してください。

警告: 新しいバッテリーは、間違っ
て装着すると破裂する恐れがあります。バッテリーを交換する場合、同じバッテリー、または製造元が推奨する同等のバッテリーのみ使用してください。使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。

警告: 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

バッテリーを交換します — コンピュータの電源を入れた後、繰り返し時間と日付の情報をリセットする必要がある場合、または起動時に間違っ
た時間または日付が表示される場合は、バッテリーを交換します (『[バッテリー](#)』を参照)。それでもバッテリーが正常に機能しない場合、[デルにお問い合わせください](#)。

ドライブの問題

警告: 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

以下を確認しながら、[Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#)に必要事項を記入してください。

ドライブを確認します

- 1 別のフロッピーディスク、CD、または DVD を挿入して、元のフロッピーディスク、CD、または DVD に問題がないか確認します。
- 1 起動ディスクを挿入して、コンピュータを再起動します。

ドライブまたはディスクをクリーニングします — 『[コンピュータのクリーニング](#)』を参照してください。

ケーブルの接続を確認します

ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます

Dell Diagnostics (診断) プログラムを実行します

CD および DVD ドライブの問題

メモ: 世界各国には様々なファイル形式があるため、お使いの DVD ドライブでは再生できない DVD もあります。

Windows の音量を調整します

- 1 画面右下角にあるスピーカーのアイコンをクリックします。
- 1 音量つまみを上にドラッグして、音量が上がったか確認します。
- 1 チェックマークの付いたボックスをクリックして、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

スピーカーおよびサブウーハーを確認します — 『[サウンドとスピーカーの問題](#)』を参照してください。

CD/DVD-RW ドライブに書き込みができない場合

他のプログラムを閉じます — CD/DVD-RWドライブはデータを書き込む際に、一定のデータの流れを必要とします。データの流れが中断されるとエラーが発生します。CD/DVD-RWに書き込みを開始する前に、すべてのプログラムを終了して試みます。

CD/DVD-RW ディスクへの書き込みの前に、Windows のスタンバイモードを無効にします — 「[省電力モード](#)」を参照してください。

ハードドライブの問題

Dell IDE Hard Drive Diagnostics (IDE HD 診断) プログラムを実行します

Dell IDE Hard Drive Diagnostics (IDE HD 診断) プログラムは、ハードドライブをテストして、ハードドライブの障害を検出したり解決するユーティリティです。


1. コンピュータの電源を入れます (コンピュータの電源が入っている場合、再起動します)。
2. 画面の右上角に F2 = Setup と表示されたら、<Ctrl><Alt><D> を押します。
3. 画面の指示に従います。

チェックディスクを実行します

Windows XP

1. スタート ボタンをクリックして、**マイコンピュータ** をクリックします。
2. **ローカルディスクC:** を右クリックします。
3. **プロパティ** をクリックします。
4. **ツール** タブをクリックします。
5. **エラーチェック** の項目で、**チェックする** をクリックします。
6. **不良セクタをスキャンし、回復する** をクリックします。
7. **開始** をクリックします。

キーボードの問題

 **警告:** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。


キーボードケーブルを確認します

1. キーボードケーブルがコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。
1. コンピュータをシャットダウンし、お使いのコンピュータの『クイックリファレンスガイド』に記載されている通りにキーボードケーブルを接続しなおした後、コンピュータを再起動します。


Dell Diagnostics (診断) プログラムを実行します

ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます

コンピュータおよびソフトウェアの問題

 **警告:** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

 **メモ:** Windows XP を再インストールする際は、Microsoft® Windows® XP SP 1 以降を使用する必要があります。


 **メモ:** お使いのコンピュータに固有のイメージをインストールした場合、またはオペレーティングシステムを再インストールする必要がある場合、DSS ユーティリティを使用します。DSS は、『Drivers and Utilities CD』および support.jp.dell.com で利用できます。

コンピュータが起動しない場合

コンピュータの診断ライトを確認します

電源ケーブルがコンピュータとコンセントにしっかりと接続されているか確認します

コンピュータの反応が停止した場合

 **注意:** オペレーティングシステムのシャットダウンが実行できない場合、データを損失する恐れがあります。


コンピュータの電源を切ります — キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを 8 ~ 10 秒以上押し続けます。その後、コンピュータを再起動します。

プログラムが応答しなくなった場合

プログラムを終了します

1. <Ctrl><Shift><Esc> を同時に押します。
2. **アプリケーション** をクリックします。
3. 応答しなくなったプログラムをクリックします。
4. **タスクの終了** をクリックします。

プログラムが繰り返し壊れる場合

 **メモ:** ソフトウェアには、通常、マニュアルの中やフロッピーディスクまたは CD にインストール手順が収録されています。

ソフトウェアのマニュアルを確認します — 必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

画面が青一色になった場合

お使いのコンピュータに Windows XP のオリジナルバージョン (Gold) がインストールされていないことを確認します

コンピュータの電源を切ります — キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを 8 ~ 10 秒以上押し続けます。その後、コンピュータを再起動します。

その他のソフトウェアの問題

トラブルシューティングについては、ソフトウェアのマニュアルを確認するかソフトウェアの製造元に問い合わせます

1. プログラムがお使いのコンピュータにインストールされているオペレーティングシステムに対応しているか確認します。
1. お使いのコンピュータがソフトウェアを実行するのに必要な最小ハードウェア要件を満たしていることを確認します。詳細については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。
1. プログラムが正しくインストールおよび設定されているか確認します。
1. デバイスドライバがプログラムとコンフリクトしていないか確認します。
1. 必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

すぐにお使いのファイルのバックアップを作成します

アンチウイルスプログラムを使って、ハードドライブ、フロッピーディスク、または CD を調べます

開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了して、スタートメニューからコンピュータをシャットダウンします

Dell Diagnostics (診断) プログラムを実行します — すべてのテストが正常に終了したら、不具合はソフトウェアの問題に関連しています。

メモリの問題

以下を確認しながら、[Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#)に必要事項を記入してください。

 **警告:** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

メモリ不足を示すメッセージが表示される場合

1. 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、使用していない実行中のプログラムをすべて終了して、問題が解決するか調べます。
1. メモリの最小要件については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。必要に応じて、[増設メモリを取り付けます](#)。
1. メモリモジュールを装着しなおし、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。
1. [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)を実行します。

その他のメモリの問題が発生する場合

1. [メモリモジュールを装着しなおし](#)、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。
1. メモリの取り付けガイドラインに従っているか確認します (『[メモリの取り付けガイドライン](#)』を参照)。
1. [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)を実行します。

マウスの問題

警告: 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

マウスをクリーニングします — 「 コンピュータのクリーニング 」を参照してください。
マウスケーブルを確認します 1. 『クイックリファレンスガイド』に記載されている通りにマウスを取り外して、取り付けなおします。
マウスの設定を確認します Windows XP 1. スタート ボタンをクリックし、コントロールパネル をクリックして、プリンタとその他のハードウェア をクリックします。 2. マウス をクリックします。 3. 設定を調整します。
Dell Diagnostics (診断) プログラムを実行します
ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます

ネットワークの問題

以下を確認しながら、[Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#)に必要事項を記入してください。

警告: 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

ネットワークケーブルコネクタを確認します — ネットワークケーブルが、コンピュータ背面のネットワークコネクタとネットワークジャックの両方にしっかりと挿入されているか確認します。
コンピュータ背面のネットワークライトを確認します — コンピュータ背面のネットワークライトを確認します。リンク保全ライトが消えている場合、ネットワーク通信していないことを示します。ネットワークケーブルを取り替えます。
コンピュータを再起動して、ネットワークにログインしなおします
ネットワークの設定を確認します — ネットワーク管理者またはお使いのネットワークを設定した方にお問い合わせになり、ネットワークの設定が正しいか、またネットワークが正常に機能しているか確認します。
ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます

電源の問題

以下を確認しながら、[Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#)に必要事項を記入してください。


警告: 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

電源ライトが緑色でコンピュータが反応しない場合 — コンピュータ背面の診断ライトを確認します。「 診断ライト 」を参照してください。
電源ライトが緑色に点滅している場合 — コンピュータはスタンバイモードに入っています。電源ボタンを押して、通常の操作を続けます。
電源ライトが黄色と緑色の場合、または黄色の点灯の場合 — コンピュータに電力は供給されていますが、デバイスが故障しているか正しく取り付けられていない可能性があります。 1. メモリモジュールを取り外して取り付けなおします。 1. プロセッサを装着しなおします (「プロセッサ」 を参照)。
電源ライトが消灯している場合 — コンピュータの電源が切れているか、電力が供給されていません。 1. 電源ケーブルをコンピュータ背面の電源コネクタとアダプタのコネクタの両方にしっかりと接続しなおします。その後、アダプタがしっかりとコンセントに接続されているか確認します。 1. コンピュータが電源タップに接続されている場合、電源タップがコンセントに接続され、電源タップがオンになっていることを確認します。また電源保護装置、電源タップ、電源延長ケーブルなどをお使いの場合、それらを取り外してコンピュータに正しく電源が入るか確認します。 1. コンピュータとコンセントから電源アダプタを抜き、1 分間待ちます。その後、電源アダプタをコンセントとコンピュータに接続しなおします。 1. 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。
電源ライトが黄色に点灯している場合 — コンピュータに電力は供給されていますが、内部電力に問題がある可能性があります。 1. すべての電源ケーブルが確実にシステム基板に接続されているか確認します (「システム基板のコンポーネント」 を参照)。
電氣的な妨害を除去します — 電氣的な妨害の原因には、以下のものがあります。 1. 電源延長ケーブル 1. 電源タップにあまりに多くのデバイスが接続されている 1. 同じコンセントに複数の電源タップが接続されている

プリンタの問題

以下を確認しながら、[Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#)に必要事項を記入してください。

 **警告:** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

 **メモ:** プリンタのテクニカルサポートが必要な場合、プリンタの製造元にお問い合わせください。

プリンタのマニュアルを確認します — セットアップおよびトラブルシューティングについては、プリンタのマニュアルを参照してください。

プリンタケーブルの接続を確認します

- 1 ケーブル接続については、プリンタのマニュアルを参照してください。
- 1 プリンタケーブルがプリンタとコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。

コンセントを確認します — 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。

プリンタが Windows によって認識されているか確認します

1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
2. **インストールされているプリンタまたは Fax プリンタを表示する** をクリックします。

プリンタが一覧に表示されている場合、プリンタアイコンを右クリックします。

3. **プロパティ** をクリックして、**ポート** タブをクリックします。パラレルプリンタの場合、**印刷するポート** が **LPT1: プリンタポート** に設定されているか確認します。USB プリンタの場合、**印刷するポート** が **USB** に設定されているか確認します。

プリンタドライバを再インストールします — 手順については、プリンタのマニュアルを参照してください。

デフォルト設定の復元

コンピュータシステムの設定をデフォルト値にするには、次の手順を実行します


1. コンピュータの電源を入れます (または再起動します)。
2. 画面の右上角に **Press <F2> to Enter Setup** と表示されたら、すぐに **<F2>** を押します。

ここで時間をおきすぎて Microsoft® Windows® のロゴが表示された場合、Windows のデスクトップが表示されるまで待ちます。次に、**スタート** メニューからコンピュータをシャットダウンして、再度試みます。

3. **System Management** で、**Maintenance** オプションを選んで、画面の指示に従います。

シリアルまたはパラレルデバイスの問題

以下を確認しながら、[Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#)に必要事項を記入してください。

 **警告:** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

 **メモ:** プリンタに問題がある場合、「[プリンタの問題](#)」を参照してください。

オプション設定を確認します — 推奨される設定については、デバイスのマニュアルを参照してください。次に、[セットアップユーティリティを起動して](#)、**Legacy Select** オプションの設定に進みます。Serial Port または Parallel Port の設定が推奨設定と合っていることを確認します。

Dell Diagnostics (診断) プログラムを実行します

サウンドとスピーカーの問題

以下を確認しながら、[Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#)に必要事項を記入してください。

警告: 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

スピーカーから音がしない場合

メモ: MP3 プレーヤーの音量調節は、Windows の音量調節より優先されることがあります。MP3 の音楽を聴いていた場合、プレーヤーの音量が十分に確認してください。

スピーカーケーブルの接続を確認します — スピーカーに付属しているセットアップ図に示されているように、スピーカーが接続されているか確認します。
サブウーハーおよびスピーカーの電源が入っているか確認します — スピーカーに付属しているセットアップ図を参照してください。スピーカーにボリュームコントロールが付いている場合、音量、低音、または高音を調整して音のひずみを解消します。
Windows の音量を調整します — 画面の右下角のスピーカーアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。
ヘッドフォンをヘッドフォンコネクタから取り外します — ヘッドフォンがコンピュータの正面パネルにあるヘッドフォンコネクタに接続されている場合、スピーカーからの音声は自動的に無効になります。
デジタルモードを有効にします — CD ドライブがアナログモードで動作している場合、お使いのスピーカーは機能しません。 <ol style="list-style-type: none">1. スタート ボタンをクリックし、コントロールパネル をクリックして、サウンド、音声、およびオーディオデバイス をクリックします。2. サウンドとオーディオデバイス をクリックします。3. ハードウェア タブをクリックします。4. CD ドライブの名前をダブルクリックします。5. プロパティ タブをクリックします。6. この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする ボックスにチェックマークを付けます。
電氣的な妨害を解消します — 近隣のファン、蛍光灯、またはハロゲンランプの電源を切り、電氣的な妨害を調べます。
スピーカーの診断プログラムを実行します
オーディオドライバを再インストールします
デバイスのオプション設定を確認します — セットアップユーティリティを起動して 、Audio Controller オプションが On に設定されているか確認します。セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。
Dell Diagnostics (診断) プログラムを実行します
ソフトウェアおよびハードウェアのコンフリクトを調べます

ヘッドフォンから音がしない

ヘッドフォンケーブルの接続を確認します — ヘッドフォンケーブルがヘッドフォンコネクタにしっかりと接続されているか確認します。
ヘッドフォンを背面の音声出力コネクタに差し込みます
Windows の音量を調整します — 画面の右下角のスピーカーアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

ビデオとモニターの問題

以下を確認しながら、[Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#)に必要事項を記入してください。

警告: 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

画面に何も表示されない場合

メモ: トラブルシューティングの手順については、モニターのマニュアルを参照してください。

モニターのケーブル接続を確認します <ol style="list-style-type: none">1. お使いのモニターが正しく接続されているか確認します (コンピュータに付属している『クイックリファレンスガイド』を参照)。1. グラフィック延長ケーブルを使用してケーブルを取り外すと問題が解決する場合、ケーブルに問題があります。1. コンピュータの電源ケーブルとモニターの電源ケーブルを交換して、電源ケーブルに問題がないか確認します。1. 曲がったり壊れたピンがないか、コネクタを確認します。(モニターのケーブルコネクタは、通常ピンが欠けています。)
モニターの電源ライトを確認します — 電源ライトが消灯している場合、ボタンをしっかりと押して、モニターに電源が入っていることを確認します。電源ライトが点灯または点滅している場合、モニターには電力が供給されています。電源ライトが点滅する場合、キーボードのキーを押すかマウスを動かします。
コンセントを確認します — 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。
モニターを確認します — 正常に機能している他のモニターをコンピュータに接続して、使用してみます。新しいモニターが機能する場合、元のモニターが故障しています。
コンピュータの診断ライトを確認します
モニターのセルフテストを実行します。 詳細については、モニターのマニュアルを参照してください。

画面が読みにくい場合

モニターの設定を確認します — コントラストや輝度を調整したり、モニターから磁気を除いたり、モニターのセルフテストを実行する手順については、モニターに付属しているマニュアルを参照してください。

サブウーハーをモニターから遠ざけます — お使いのスピーカーシステムにサブウーハーが含まれている場合、サブウーハーをモニターから 60 cm 以上離します。

モニターから外部電源から遠ざけます — ファン、蛍光灯、ハロゲンライト、およびその他の電化製品によって画面が「ぶれる」ことがあります。近くのデバイスの電源を切って干渉を調べます。

Windows の画面設定を調整します

1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**デスクトップの表示とテーマ** をクリックします。
2. **画面** をクリックして、**設定** タブをクリックします。
3. **画面の解像度** と **画面の色** で別の設定にしてみます。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

シャーシスピーカー

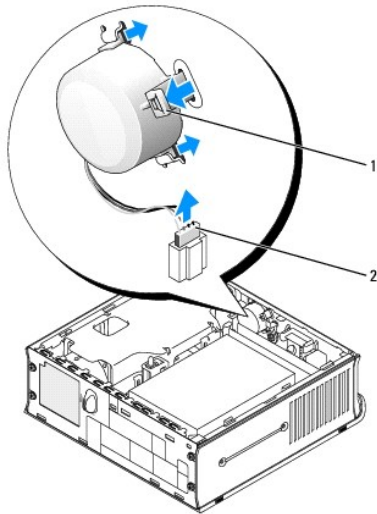
Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド

警告: 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

警告: 感電を防ぐため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

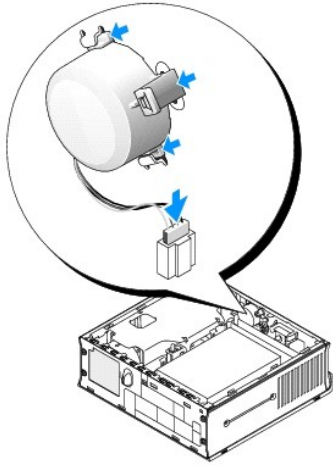
お使いのコンピュータには、オプションのシャーシスピーカーが付属している場合があります。このスピーカーを交換する必要がある場合、または新しいスピーカーを取り付ける場合、次の手順を実行します。

1. 「はじめに」の手順を実行します。
2. 新しいスピーカーを取り付ける場合、[手順 4](#)に進みます。
3. スピーカーを交換する場合、次の手順を実行します。
 - a. スピーカーケーブルをシステム基板から抜きます。
 - b. タブを押してスピーカーをスロットからスライドさせ、スピーカーとケーブルをコンピュータから取り外します。



1	タブ
2	スピーカーケーブル

4. シャーシスピーカーをスロットに挿入して、スピーカーが固定されるまでスピーカーをスライドさせます。



5. スピーカーケーブルをシステム基板のコネクタに接続します。
6. コンピュータカバーを取り付けます。
7. ケーブルカバーを取り付けます（使用している場合）。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

8. コンピュータをアダプターケーブルに接続し、デバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

カバーを取り付けなおすと、次のコンピュータ起動時にシャシーントルージョンディテクタ（有効な場合）は、次のメッセージを画面に表示します。

ALERT! Cover was previously removed. (警告！カバーが取り外されました。)

9. Chassis Intrusion オプションを On または On-Silent に変更して、[シャシーントルージョンディテクタをリセットします](#)。

メモ： 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャシーントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

仕様

Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド

プロセッサ	
プロセッサタイプ	Intel® Pentium® 4、および Celeron® (利用可能な場合) プロセッサ。将来のプロセッサのアップグレードに対応した設計。サポートされたプロセッサのアップグレードは、デルから購入できます。
L1 (レベル 1) キャッシュ	8 KB
L2 (レベル 2) キャッシュ	256 KB または 1 MB (プロセッサによる)
メモリ	
アーキテクチャ	400 MHz DDR2 SDRAM
DIMM ソケット	2 (非 ECC のみ)
DIMM 容量	128、256、512 MB、または 1 GB
最小 RAM	258 MB (デュアルチャネルモード) 128 MB (シングルチャネルモード)
最大 RAM	2 GB (デュアルチャネルモード)
BIOS アドレス	F0000h
コンピュータ情報	
コンピュータチップセット	915G
データバス幅	64 ビット
アドレスバス幅	32 ビット
割り込み	23
コンピュータ BIOS	4 Mb フラッシュチップ
システムバス速度	800 MHz または 533 MHz の 4 倍データ転送速度 200 MHz または 133 MHz クロック (外部バス速度と一致)
ネットワークインタフェースコントローラ	DMTF によって定義されている ASF 1.03 サポートを組み込んだギガビット内蔵ネットワークインタフェース 10/100/1000 通信が可能
オーディオ	
オーディオのタイプ	AC97、Sound Blaster エミュレーション オプションの内蔵スピーカー
オーディオコントローラ	内蔵 AC97 Codec
ステレオ変換	16 ビット AD 変換 20 ビット DA 変換
インタフェース:	
内蔵	PCI バス / AC97
外付け	後部 I/O パネル上にステレオのライン入力ミニジャックとライン出力ミニジャック 正面パネル上にヘッドフォンコネクタとマイクコネクタ
ビデオ	
ビデオタイプ	内蔵 DVI-I
ビデオコントローラ	内蔵の Intel 2D/3D グラフィックアクセラレータ
拡張バス	
バスのタイプ	USB 1.1 および 2.0
メモリモジュールコネクタのサイズ	DDR2 — 240 ピン
ドライブ	
フロントドライブベイ	Dell IDE または USB D モジュールポータブルデバイス用のベイ × 1
内蔵ベイ	シリアル ATA ハードドライブ用ベイ × 1
コネクタ	
外部アクセス用:	
シリアル (DTE)	背面 I/O パネルに 16550 互換の 9 ピンコネクタ × 1
パラレル	背面 I/O パネルに双方向 27 ピンコネクタ (メス) × 1
ビデオ	背面 I/O パネルに DVI-I コネクタ
内蔵ネットワークアダプタ	背面 I/O パネルに RJ45 コネクタ — 10/100/1000
オーディオ	背面 I/O パネルに緑色のライン出力コネクタと青色のライン入力コネクタ コンピュータの正面にマイクコネクタとヘッドフォンコネクタ
USB	USB 2.0 対応コネクタが背面 I/O パネルに 5 つ、正面パネルに 2 つ
内部アクセス用:	
プライマリハードドライブ	シリアル ATA ポート

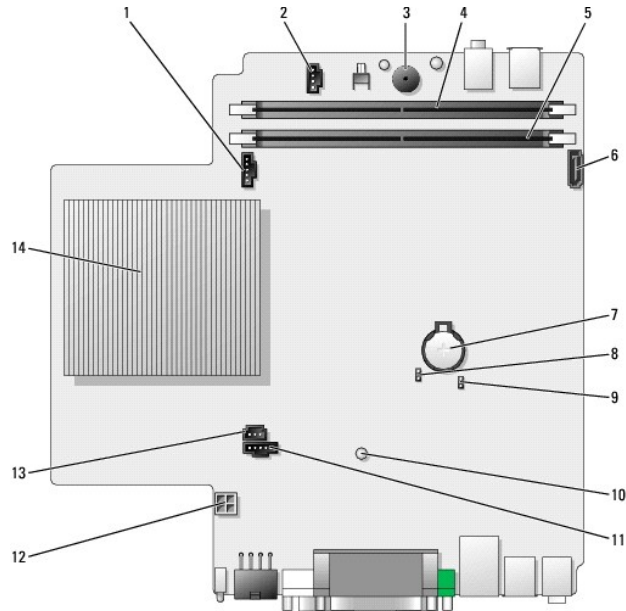
ファン	5ピンコネクタ × 2
シャーシイントルージョンスイッチ	3ピンコネクタ × 1
キーの組み合わせ	
<Ctrl><Alt>	Microsoft® Windows® XP を実行している場合、Windows Security ウィンドウが表示されます。MS-DOS® モードの場合、コンピュータを再起動します。
<F2> または <Ctrl><Alt><Enter>	内蔵のセットアップユーティリティを起動 (起動時のみ)
<Ctrl><Alt>	セットアップユーティリティの Boot Sequence オプションのデバイスのひとつからではなく、PXE (リモート起動環境) によって特定されたネットワーク環境からコンピュータを自動的に起動 (起動時のみ)
<F12> または <Ctrl><Alt><F8>	ユーザーが単一起動用のデバイスを入力できる起動デバイスメニュー (起動時のみ)、またハードドライブおよびシステムの Diagnostics (診断) プログラムを実行するオプションを表示
ボタンとライト	
電源ボタン	押しボタン
電源ライト	電源ボタンの緑色のライト — スリープ状態のとき緑色に点滅、電源がオンのとき緑色に点灯 橙色のライト — 取り付けられているデバイスに問題があるとき橙色に点滅、内部電力に問題があるとき橙色に点灯 (「 電源の問題 」を参照)
ハードドライブライト	緑色のライト
リンク保全ライト (内蔵ネットワークアダプタ上)	10 Mb 伝送時は緑色のライト 100 Mb 伝送時は橙色のライト 1000 Mb (1 Gb) 伝送時は黄色のライト
動作ライト (内蔵ネットワークアダプタ上)	黄色の点滅ライト
診断ライト	背面パネルに、4 つの黄色と緑色の両方またはどちらか一方のライト
スタンバイ電源ライト	システム基板上に黄色の AUX_LED
電源ライト	電源アダプタに緑色のライト
電源	
外部 DC 電源アダプタ:	
ワット数	220 W
熱消費	455 BTU / 時 (平均)
電圧	60 Hz で 90 ~ 135 V 50 Hz で 180 ~ 265 V
バックアップバッテリー	3 V CR2032 コイン型リチウムバッテリー
サイズ	
縦置きにした場合の幅、奥行き、高さ (ケーブルカバーなし)	8.9 cm × 25.3 cm × 26.4 cm
縦置きにした場合の幅、奥行き、高さ (標準ケーブルカバー付き)	8.9 cm × 33 cm × 26.4 cm
縦置きにした場合の幅、奥行き、高さ (延長ケーブルカバー付き)	8.9 cm × 36.1 cm × 26.4 cm
重量 (標準ケーブルカバーなし)	4.5 kg
重量 (標準ケーブルカバー付き)	4.9 kg
環境	
温度:	
動作時	10 ° ~ 30 °C
保管時	-40 ° ~ 65 °C
相対湿度	20 % ~ 80 % (結露しないこと)
最大振動:	
動作時	卓上、または吊り下げた状態: 0.25 G (3 ~ 200 Hz、0.5オクターブ / 分) 水平時 0.25 G (20 ~ 200 Hz、0.5 オクターブ / 分)
保管時	0.5 G (3 ~ 200 Hz、1 オクターブ / 分)
最大衝撃:	
動作時	50.8 cm / 秒の速度変化でボトムハーフサインパルス
保管時	508 cm / 秒の速度変化で 27 G フェアードスクエアウェーブ
高度:	
動作時	-16 m ~ 3,048 m
保管時	-16 m ~ 10,600 m

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

システム基板のコンポーネント

Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド



1	ファンカバー電源コネクタ (FAN1)	8	パスワードジャンパ (PSWD)
2	オプションのスピーカーコネクタ (SPEAKER)	9	CMOS ジャンパクリア (CLR_CMOS)
3	システム基板スピーカー	10	スタンバイ電源インジケータ (AUX_LED)
4	チャンネル B メモリコネクタ (CHB_DIMM)	11	ファンカバー電源コネクタ (FAN2)
5	チャンネル A メモリコネクタ (CHA_DIMM)	12	ハードドライブ電源ケーブルコネクタ (ATA_PWR)
6	SATA ハードドライブデータケーブルコネクタ	13	シャールイントルージョンスイッチ電源コネクタ (INTRUDER)
7	バッテリー	14	マイクロプロセッサヒートシンク


[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

トラブルシューティングツールとユーティリティ

Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド

- [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#)
- [電源アダプタライト](#)
- [システムライト](#)
- [診断ライト](#)
- [ビーブコード](#)
- [エラーメッセージ](#)
- [ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決](#)

 **警告:** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

コンピュータに問題が発生した場合、デルテクニカルサポートにお問い合わせになる前に、Dell Diagnostics (診断) プログラムとこの項にあるテストを実行してください。

Dell Diagnostics (診断) プログラム

作業を始める前に、これらの手順を印刷しておくことをお勧めします。


 **注意:** Dell Diagnostics (診断) プログラムは、Dell™ コンピュータ専用です。

[セットアップユーティリティを起動し](#)、コンピュータの設定情報を閲覧して、テストするデバイスがセットアップユーティリティに表示され、アクティブであることを確認します。

[ハードドライブ](#)または『[Drivers and Utilities CD](#)』(『ResourceCD』とも呼ばれます) から Dell Diagnostics (診断) プログラムを起動します。

ハードドライブからの Dell Diagnostics (診断) プログラムの起動

1. コンピュータをシャットダウンして、再起動します。
2. DELL™ のロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

 **メモ:** Diagnostics (診断) プログラムユーティリティパーティションが検出されませんというメッセージが表示された場合、[Dell Diagnostics \(診断\) プログラムを『Drivers and Utilities CD』から実行します](#)。

ここで時間をおきすぎて Microsoft® Windows® のロゴが表示された場合、Windows のデスクトップが表示されるまで待ちます。次に、**スタート**メニューからコンピュータをシャットダウンして、再度試みます。


3. 起動デバイスの一覧が表示されたら、**Boot to Utility Partition** をハイライト表示して、<Enter> を押します。
4. Dell Diagnostics (診断) プログラムの **Main Menu** が表示されたら、実行するテストを選びます。

Drivers and Utilities CD からの Dell Diagnostics (診断) プログラムの起動

1. 『Drivers and Utilities CD』を挿入します。
2. コンピュータをシャットダウンして、再起動します。

DELL のロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

ここで時間をおきすぎて Windows のロゴが表示された場合、Windows のデスクトップが表示されるまで待ちます。次に、**スタート**メニューからコンピュータをシャットダウンして、再度試みます。

 **メモ:** 次の手順は、起動順序を 1 回だけ変更します。次回の起動時には、コンピュータはセットアップユーティリティで指定したデバイスから起動します。

3. 起動デバイスの一覧が表示されたら、**Onboard or USB CD-ROM Device** をハイライト表示して、<Enter> を押します。
4. 表示されたメニューから **Boot from CD-ROM** オプションを選びます。

- 1 と入力して『ResourceCD』のメニューを起動します。
- 2 と入力して Dell Diagnostics (診断) プログラムを起動します。
7. 番号の付いた一覧から Run the 32 Bit Dell Diagnostics を選びます。複数のバージョンが表示されている場合、お使いのコンピュータに該当するバージョンを選びます。
8. Dell Diagnostics (診断) プログラムの Main Menu が表示されたら、実行するテストを選びます。


Dell Diagnostics (診断) プログラムのメインメニュー

1. Dell Diagnostics (診断) プログラムがロードされ Main Menu 画面が表示されたら、希望のオプション用のボタンをクリックします。

オプション	機能
Express Test	デバイスのクイックテストを実行します。通常このテストは 10 ~ 20 分かかり、お客様の操作は必要ありません。最初に Express Test を実行すると、問題をさらにすばやく特定することができます。
Extended Test	デバイスの全体チェックを実行します。通常このテストは 1 時間以上かかり、質問に定期的に応答する必要があります。
Custom Test	特定のデバイスをテストします。実行するテストをカスタマイズできます。
Symptom Tree	検出した最も一般的な症状を一覧表示し、問題の症状に基づいたテストを選択することができます。

2. テスト中に問題を検出すると、エラーコードと問題の説明を示すメッセージが表示されます。エラーコードと問題の説明を記録し、画面の指示に従います。

エラーが解決できない場合、[デルにお問い合わせください](#)。

 **メモ:** お使いのコンピュータのサービスタグは、各テスト画面の一番上にあります。デルにお問い合わせになると、テクニカルサポートの担当者はおお客様のサービスタグを確認します。お使いのコンピュータのサービスタグは、[セットアップユーティリティ](#)の System Info オプションに表示されています。

3. Custom Test または Symptom Tree オプションからテストを実行する場合、該当するタブをクリックします (詳細については、以下の表を参照)。

タブ	機能
Results	テストの結果、および発生したすべてのエラーの状態を表示します。
Errors	発生したエラーの状態、エラーコード、および問題の説明を表示します。
Help	テストについて説明します。また、テストを実行するための要件を示す場合もあります。
Configuration	選択したデバイスのハードウェア構成を表示します。 Dell Diagnostics (診断) プログラムは、セットアップユーティリティ、メモリ、および様々な内部テストからすべてのデバイスの設定情報を入力し、画面の左側ペインのデバイス一覧に表示します。デバイス一覧には、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネント名、またはコンピュータに接続されたすべてのデバイス名が表示されるとは限りません。
Parameters	テストの設定を変更して、テストをカスタマイズすることができます。

4. 『Drivers and Utilities CD』から Dell Diagnostics (診断) プログラムを実行している場合、テストが終了したら CD を取り出します。
5. テスト画面を閉じ、Main Menu 画面に戻ります。Dell Diagnostics (診断) プログラムを終了してコンピュータを再起動するには、Main Menu 画面を閉じます。

電源アダプタライト

電源アダプタライトは、電源に関連する問題を診断するのに役立ちます。

電源アダプタライト	電源アダプタの状態	説明	推奨される処置
オフ	AC 電力がないか、電源装置が障害を検出しました。	電源アダプタがコンセントから電力を供給されていないか、電力障害のために電源装置はシャットダウンしました。	電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。 AC 電源ケーブルが正しく電源装置に接続されているか確認します。電源アダプタの AC 電源ケーブルを接続しなおします。 AC 電源ケーブルを電源装置から抜き、DC ケーブルをシステムから抜いて、10 秒以上待ちます。AC 電源ケーブルを電源装置に接続しなおします。電源装置のライトが黄色になります。DC ケーブルをシステムに接続しなおします。電源装置のライトが緑色になります。
黄色	AC 電力が検出されましたが、供給されていません。	電源アダプタはコンセントに接続されていますが、コンピュータには接続されていません。	電源アダプタがコンピュータにしっかりと接続されていて、保持ラッチがはまっていることを確認します。 電源アダプタケーブルをコンピュータに接続しなおします。
緑色	AC 電力が検出され、供給されています。	電源アダプタは、コンセントから電力を供給されていて、コンピュータに正しく接続されています。	電源ボタンライトを確認して、「 システムライト 」の表を参照してください。

システムライト


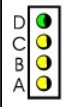
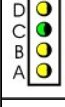
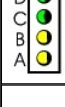

電源ボタンライトは、コンピュータの問題を示すことがあります。

電源ボタン	問題の説明	推奨される処置
緑色の点灯	電源がオンで、コンピュータは正常に動作しています。	対応処置は必要ありません。
緑色の点滅	コンピュータはサスペンド状態です (Microsoft® Windows® 2000 および Windows XP)。	電源ボタンを押したり、マウスを動かしたり、キーボードのキーを押すとコンピュータは復帰します。
緑色に数回点滅した後オフになる	設定エラーが発生しています。	特定の問題が識別されているかを確認するために、 診断ライト を確認します。
黄色の点灯	Dell Diagnostics (診断) プログラムがテストを実行中、またはシステム基板のデバイスが不良であるか、正しく取り付けられていない可能性があります。	Dell Diagnostics (診断) プログラムが実行中であれば、テストが終了するのを待ちます。 特定の問題が識別されているかを確認するために、 診断ライト を確認します。 コンピュータが起動しない場合、 デルに連絡して テクニカルサポートを受けてください。
POST 中に、緑色の点灯とビーブコード	BIOS 実行中に問題が検出されました。	ビーブコードによる診断については、「 ビーブコード 」を参照してください。また、特定の問題が識別されているかを確認するために、 診断ライト を確認します。
POST 中の緑色の点灯、ビーブコードおよびビデオ表示なし	モニターに問題があるか、正しく接続されていません。	特定の問題が識別されているかを確認するために、 診断ライト を確認します。「 ビデオとモニターの問題 」を参照してください。
POST 中の緑色の点灯、ビーブコードはないがコンピュータがロック	内蔵システム基板に欠陥がある可能性があります。	特定の問題が識別されているかを確認するために、 診断ライト を確認します。問題が識別されない場合、 デルに連絡して テクニカルサポートを受けてください。

診断ライト

警告: 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

問題のトラブルシューティングを容易にするため、お使いのコンピュータには背面パネルに「A」、「B」、「C」、および「D」とラベルの付いた 4 つのライトが搭載されています。これらのライトは、橙色または緑色です。コンピュータが正常に起動した場合、起動プロセスが完了するとライトのパターンとコードが変化します。システム起動プロセスの POST が正常に終了すると、4 つのライトはすべて緑色に点灯します。POST プロセス中にコンピュータが誤動作した場合、LED に表示されるパターンで、プロセスのどこでコンピュータが停止したか識別できる場合があります。

ライトパターン	問題の説明	推奨される処置
	オフ オフ オフ オフ オフ オフ	コンピュータが通常の状態、または BIOS に障害が起こっている可能性があります。
	緑色 緑色 緑色 緑色 緑色 緑色	BIOS 障害が発生した可能性があります。コンピュータは修復モードです。
	黄色 緑色 緑色 緑色 緑色 緑色	プロセッサに障害が起こっている可能性があります。
	緑色 緑色 緑色 緑色 緑色 緑色	メモリモジュールが検出されましたが、メモリ障害が発生しました。
	黄色 緑色 緑色 緑色 緑色 緑色	フロッピードライブまたはハードドライブの障害が発生した可能性があります

コンピュータを正常に機能しているコンセントに接続して、電源ボタンを押します。

BIOS 修復ユーティリティを実行し、BIOS の修復処理が完了するのを待ってから、コンピュータを再起動します。

[プロセッサを取り付けなおして](#)、コンピュータを再起動します。

- 取り付けているメモリモジュールが 1 つの場合、[そのモジュールを取り付けなおして](#)、コンピュータを再起動します。
- 取り付けているメモリモジュールが 2 つ以上の場合、モジュールを取り外し、[モジュールの 1 つを取り付けなおして](#)、コンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動する場合、別のモジュールを追加します。
- 同じ種類の正常に動作しているメモリがあれば、[そのメモリをコンピュータに取り付けます](#)。
- 問題が解決しない場合、[デルにお問い合わせください](#)。

すべての電源ケーブルとデータケーブルを接続しなおして、コンピュータを再起動します。

	緑色 緑色 緑色 黄色	す。	
	緑色 緑色 緑色 黄色	USB の障害が発生した可能性があります。	すべての USB デバイスを取り付けなおし、ケーブル接続を確認して、コンピュータを再起動します。
	黄色 黄色 黄色 緑色	メモリモジュールが検出されません。	<ol style="list-style-type: none"> 取り付けているメモリモジュールが 1 つの場合、そのモジュールを取り付けなおして、コンピュータを再起動します。 取り付けているメモリモジュールが 2 つ以上の場合、モジュールを取り外し、モジュールの 1 つを取り付けなおして、コンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動する場合、別のモジュールを追加します。障害のあるモジュールが見つかるまで、あるいはエラーなしにすべてのモジュールを取り付けなおすまで続けます。 同じ種類の正常に動作しているメモリがあれば、そのメモリをコンピュータに取り付けます。 問題が解決しない場合、デルにお問い合わせください。
	緑色 黄色 黄色 緑色	CMOS RAM が機能していません。	デルにお問い合わせください 。
	黄色 緑色 黄色 緑色	メモリモジュールは検出されましたが、メモリ構成または互換性エラーが発生しました。	<ol style="list-style-type: none"> 特別なメモリモジュール / メモリコネクタ設置要件がないか確認します（「メモリの取り付けガイドライン」を参照）。 取り付けるメモリモジュールがコンピュータと互換性があるか確認します。 問題が解決しない場合、デルにお問い合わせください。
	黄色 緑色 緑色 緑色	一般的なエラー	<ol style="list-style-type: none"> ケーブルがハードドライブからシステム基板へ正しく接続されているか確認します。 モニター画面に表示されるコンピュータメッセージを確認します。 問題が解決しない場合、デルにお問い合わせください。
	緑色 緑色 緑色 緑色	POST の後、コンピュータは通常の動作状態にあります。	特にありません。

ビーブコード

お使いのコンピュータの起動時に、モニターにエラーメッセージまたは問題を表示できない場合、ビーブ音が連続して鳴ることがあります。この連続したビーブ音はビーブコードと呼ばれ、問題を特定します。連続したビーブ音には、ビーブ音がまず 1 回鳴り、次に連続して 3 回鳴ってから、1 回鳴るものがあります（コード 1-3-1）。このビーブコードは、コンピュータがメモリの問題を検出したことを知らせます。

起動時にコンピュータがビーブ音を発する場合、次の手順を実行します。


- [Diagnostics \(診断\) チェックリスト](#) にビーブコードを書き込みます。
- [Dell Diagnostics \(診断\) プログラム](#) を実行して、原因を特定します。
- [デルに連絡して](#)、テクニカルサポートを受けてください。

コード	原因
1-1-2	マイクロプロセッサのレジスタテストが実行中です。
1-1-3	NVRAM 読み書き障害テストが実行中、またはテストに失敗しました。
1-1-4	ROM BIOS チェックサムが実行中、または ROM BIOS チェックサムに失敗しました。
1-2-1	プログラム可能インターバルタイマーテストが実行中、またはテストに失敗しました。
1-2-2	DMA 初期化が実行中、または DMA 初期化に失敗しました。
1-2-3	DMA ページレジスタ読み書き障害テストが実行中、またはテストに失敗しました。
1-3	Video Memory テスト障害

1-3-1 ~ 2-4-4	メモリが正しく認識されていないか使用されていない
3-1-1	スレーブ DMA レジスタテストが実行中、またはテストに失敗しました。
3-1-2	マスター DMA レジスタテストが実行中、またはテストに失敗しました。
3-1-3	マスター割り込みマスクレジスタテストが実行中、またはテストに失敗しました。
3-1-4	スレーブ割り込みマスクレジスタ障害テストが実行中、またはテストに失敗しました。
3-2-2	割り込みベクトロードが実行中です。
3-2-4	Keyboard Controller テストが実行中、またはテストに失敗しました。
3-3-1	NVRAM 電力損失およびチェックサムテストが実行中です。
3-3-2	無効な NVRAM 構成
3-3-3	RTC / キーボードコントローラが検出されませんでした。
3-3-4	Video Memory テストが実行中、またはテストに失敗しました。
3-4-1	画面初期化が実行中、または画面初期化に失敗しました。
3-4-2	画面リトレステストが実行中、またはテストに失敗しました。
3-4-3	ビデオ ROM の検索が実行中です。
4-2-1	タイマーチック割り込みテストが実行中、またはテストに失敗しました。
4-2-2	シャットダウンテストが実行中、またはテストに失敗しました。
4-2-3	ゲート A20 障害
4-2-4	保護モードで予測外の割り込みが発生
4-3-1	メモリテストが実行中、またはアドレス 0FFFFh で失敗しました。
4-3-3	タイマーチップカウンタ 2 テストが実行中、またはテストに失敗しました。
4-3-4	刻時機構テストが実行中、またはテストが停止しました。
4-4-1	スーパー I/O チップ障害
4-4-4	キャッシュテスト障害

エラーメッセージ

以下のチェックを完了し、Diagnostics (診断) チェックリストに必要な事項を記入してください。

 **警告:** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を始めてください。

メッセージが一覧にない場合、オペレーティングシステムまたはメッセージが表示された際に実行していたプログラムのマニュアルを参照してください。

A filename cannot contain any of the following characters: \ / : * ? " < > — これらの記号をファイル名に使用しないでください。
A required .DLL file was not found — アプリケーションプログラムに必要なファイルがありません。次の操作をおこなって、アプリケーションプログラムを削除して再インストールします。 <ol style="list-style-type: none"> 1. スタート ボタンをクリックし、コントロールパネル をクリックして、プログラムの追加と削除 をクリックします。 2. 削除するプログラムを選びます。 3. 削除 ボタンまたは 変更と削除 ボタンをクリックします。 4. インストール手順については、プログラムのマニュアルを参照してください。
Alert! Previous attempts at booting this system have failed at checkpoint [nnnn]. For help in resolving this problem, please note this checkpoint and contact Dell Technical Support — Dellに問い合わせ て、チェックポイントコード (nnnn) をテクニカルサポート担当者にお知らせください。
Attachment failed to respond — 「 ドライブの問題 」を参照してください。
Bad command or file name — コマンドのスペルが正しいか、スペースを適切な位置に置いたか、また正しいパス名を使用しているか確認します。
Bad error-correction code (ECC) on disk read — 「 ドライブの問題 」を参照してください。
Controller has failed — 「 ドライブの問題 」を参照してください。
Data error — 「 ドライブの問題 」を参照してください。
Decreasing available memory — 「 コンピュータおよびソフトウェアの問題 」を参照してください。
Diskette drive 0 seek failure — 「 ドライブの問題 」を参照してください。
Diskette read failure — 「 ドライブの問題 」を参照してください。
Diskette subsystem reset failed — Dell Diagnostics (診断) プログラム を実行します。
Diskette write protected — 書き込み保護ノッチをオープン位置にスライドします。
Drive not ready — フロッピーディスクがドライブ内にありません。
Gate A20 failure — 「 コンピュータおよびソフトウェアの問題 」を参照してください。
Hard-disk configuration error —

<p>Hard-disk controller failure — Hard-disk drive failure — Hard-disk drive failure —</p> <p>「ドライブの問題」を参照してください。</p>
<p>Insert bootable media — 起動フロッピーディスクまたは CD を挿入します。</p>
<p>Invalid configuration information - please run SETUP program — セットアップユーティリティを起動して、コンピュータの構成情報を正しく設定します。</p>
<p>Keyboard failure — 「キーボードの問題」を参照してください。</p>
<p>Memory address line failure at address, read value expecting value — 「コンピュータおよびソフトウェアの問題」を参照してください。</p>
<p>Memory allocation error</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの電源を切り、30 秒待ってからコンピュータを再起動します。 2. 再度プログラムを実行してみます。 3. 再度エラーメッセージが表示される場合、トラブルシューティングについては、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。
<p>Memory data line failure at address, read value expecting value — Memory double word logic failure at address, read value expecting value — Memory odd/even logic failure at address, read value expecting value — Memory write/read failure at address, read value expecting value — Memory size in CMOS invalid —</p> <p>「コンピュータおよびソフトウェアの問題」を参照してください。</p>
<p>No boot device available</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フロッピードライブが起動デバイスの場合、起動ディスクがドライブに挿入されているか確認します。 1. ハードドライブが起動デバイスの場合、ケーブルとドライブが適切に取り付けられていて、起動デバイスとしてパーティション分割されていることを確認します。 1. セットアップユーティリティを起動して、起動順序の情報が正しいことを確認します。
<p>No boot sector on hard-disk drive — セットアップユーティリティを起動して、コンピュータのハードドライブ構成情報が正しいか確認します。</p>
<p>No timer tick interrupt — Dell Diagnostics (診断) プログラムを実行します。</p>
<p>Non-system disk or disk error — 起動可能なオペレーティングシステムが入ったフロッピーディスクと交換するか、フロッピーディスクをモジュールベイから取り外して、コンピュータを再起動します。</p>
<p>Not a boot diskette — 起動ディスクを挿入して、コンピュータを再起動します。</p>
<p>Not enough memory or resources. Close some programs and try again — すべてのウィンドウを閉じて、使用するプログラムを開きます。場合によっては、コンピュータを再起動してコンピュータリソースを復元する必要があります。その場合、最初に使うプログラムを開きます。</p>
<p>Operating system not found — デルにお問い合わせください。</p>
<p>Read fault — Requested sector not found — Reset failed —</p> <p>「ドライブの問題」を参照してください。</p>
<p>Sector not found</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Windows のエラーチェックユーティリティを実行して、フロッピーディスクまたはハードドライブのファイル構造を調べます。手順については、Windows ヘルプを参照してください。 1. 多くのセクターに障害がある場合、可能であればデータをバックアップして、フロッピーディスクまたはハードドライブを再フォーマットします。
<p>Seek error — 「ドライブの問題」を参照してください。</p>
<p>Shutdown failure — Dell Diagnostics (診断) プログラムを実行します。</p>
<p>Time-of-day clock stopped —</p>
<p>Time-of-day not set-please run the System Setup program — セットアップユーティリティを起動して、日付と時間を修正します。問題が解決しない場合、バッテリーを交換します。</p>
<p>Timer chip counter 2 failed — Dell Diagnostics (診断) プログラムを実行します。</p>
<p>Unexpected interrupt in protected mode — Dell Diagnostics (診断) プログラムを実行します。</p>
<p>WARNING: Dell's Disk Monitoring System has detected that drive [0/1] on the [primary/secondary] EIDE controller is operating outside of normal specifications. It is advisable to immediately back up your data and replace your hard drive by calling your support desk or Dell —</p> <p>すぐに利用できる交換用のドライブがなく、そのドライブが唯一の起動ドライブではない場合、セットアップユーティリティを起動して、該当するドライブの設定を None に変更します。次に、ドライブをコンピュータから取り外します。</p>
<p>Write fault — Write fault on selected drive —</p> <p>「ドライブの問題」を参照してください。</p>
<p><ドライブ文字>:\ is not accessible. The device is not ready — フロッピードライブがディスクからのデータを読み取れません。フロッピーディスクをドライブに挿入し、再度試してみます。</p>

ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決

オペレーティングシステムのセットアップ中にデバイスが検出されないか、検出されても間違っていて設定されている場合、デバイスマネージャを使用して非互換性を解決することができます。

Microsoft® Windows® XP

デバイスマネージャを使って非互換性を解決するには、次の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックして、**システム** をクリックします。
3. **ハードウェア** タブをクリックして、**デバイスマネージャ** をクリックします。
4. **デバイスマネージャ** 一覧で、間違って設定されているデバイスをチェックします。

間違って設定されているデバイスの横には黄色の感嘆符 (!) が付いているので、コンフリクトが確認できます。赤色の x 印が付いている場合は、デバイスが無効になっています。

5. 感嘆符が付いているデバイスをダブルクリックして、**プロパティ** ウィンドウを開きます。

プロパティ ウィンドウの **デバイスの状態** 領域に、再設定が必要なデバイスが表示されます。

6. デバイスを設定しなおすか、**デバイスマネージャ** から削除します。デバイスの設定については、デバイスに付属しているマニュアルを参照してください。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

品質の保証について

Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド

Dell Inc. (「Dell」) は、ハードウェア製品を業界標準慣習に従い、新品、またはそれと同等の部品からコンピュータを製造しています。Dell の保証情報に関しては、『製品情報ガイド』またはコンピュータに付属している保証に関する冊子を参照してください。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Microsoft® Windows® XP の特徴

Dell™ OptiPlex™ SX280 ユーザーズガイド

- [新しいコンピュータへの情報の転送](#)
- [ユーザーアカウントおよびユーザーの簡易切り替え](#)
- [家庭用および企業用ネットワークのセットアップ](#)

新しいコンピュータへの情報の転送

Microsoft® Windows® XP オペレーティングシステムには、データを元の（古い）コンピュータから新しいコンピュータに転送するファイルと設定の転送ウィザードがあります。以下のデータを転送できません。

- 1 E メール
- 1 ツールバーの設定
- 1 ウィンドウのサイズ
- 1 インターネットのブックマーク

ネットワークまたはシリアル接続を介してデータを新しいコンピュータに転送したり、書き込み可能なCDまたはフロッピーディスクなどのリムーバブルメディアにデータを保存することができます。

新しいコンピュータに情報を転送するには、次の手順を実行します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール** の順にポイントして、**ファイルと設定の転送ウィザード** をクリックします。
- 2 **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面で、**次へ** をクリックします。
- 3 **これはどちらのコンピュータですか？** 画面で、**転送先の新しいコンピュータ** を選んでから、**次へ** をクリックします。
- 4 **Windows XP CD がありますか？** 画面で、**Windows XP CD からウィザードを使います** をクリックして、**次へ** をクリックします。
- 5 **今、古いコンピュータに行ってください。** 画面が表示されたら、古いコンピュータまたはソースコンピュータに行きます。このときに、**次へ** を クリックしないでください。

古いコンピュータからデータをコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 古いコンピュータに Windows XP の『オペレーティングシステム CD』を挿入します。
- 2 Microsoft Windows XP 画面で、**追加のタスクを実行する** をクリックします。
- 3 **実行する操作の選択** 画面で、**ファイルと設定を転送する** をクリックします。
- 4 **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面で、**次へ** をクリックします。
- 5 **これはどちらのコンピュータですか？** 画面で、**転送元の古いコンピュータ** をクリックして、**次へ** をクリックします。
- 6 **転送方法を選択してください。** 画面で、希望の転送方法をクリックします。
- 7 **何を転送しますか？** 画面で、転送するアイテムをクリックして、**次へ** をクリックします。

情報がコピーされた後、**ファイルと設定の収集フェーズを処理しています…** 画面が表示されます。

- 8 **完了** をクリックします。

新しいコンピュータにデータを転送するには、次の手順を実行します。

- 1 新しいコンピュータの **今、古いコンピュータに行ってください**。画面で、**次へ** をクリックします。
- 2 **ファイルと設定はどこにありますか？** 画面で、設定とファイルを転送する方法を選んで、**次へ** をクリックします。

ウィザードは収集されたファイルと設定を読み取り、それらを新しいコンピュータに適用します。

設定とファイルがすべて適用されると、**ファイルと設定の転送ウィザードの完了** 画面が表示されます。

- 3 **完了** をクリックして、新しいコンピュータを再起動します。
-


ユーザーアカウントおよびユーザーの簡易切り替え

ユーザーアカウントの追加

Microsoft® Windows® XP オペレーティングシステムがインストールされると、コンピュータ管理者または管理者権限を持つユーザーは、追加するユーザーアカウントを作成することができます。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **コントロールパネル** ウィンドウで、**ユーザーアカウント** をクリックします。
3. **作業を選びます** で、**新しいアカウントを作成する** をクリックします。
4. **新しいアカウントに名前を付けます** で、新しいユーザー名を入力して、**次へ** をクリックします。
5. **アカウントの種類を選びます** で、以下の項目の 1 つをクリックします。
 1. **コンピュータの管理者** — すべてのコンピュータ設定を変更することができます。
 1. **制限** — ご自分のパスワードなど、個人的な設定のみを変更することができます。プログラムをインストールしたりインターネットを使用することはできません。
6. **アカウントの作成** をクリックします。

ユーザーの簡易切り替え

 **メモ:** ユーザーの簡易切り替えは、お使いのコンピュータで Windows XP Professional を実行していて、コンピュータがコンピュータドメインのメンバーである場合、またはお使いのコンピュータに搭載されているメモリが 128 MB 以下の場合には利用できません。

ユーザーの簡易切り替えにより、先に使用していたユーザーがログオフしなくても、複数のユーザーが 1 台のコンピュータにアクセスできます。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**ログオフ** をクリックします。
2. **Windows のログオフ** ウィンドウで、**ユーザーの切り替え** をクリックします。


ユーザーの簡易切り替えを使用する場合、前のユーザーが実行していたプログラムはバックグラウンドで使用され続けるため、コンピュータの動作が遅く感じられることがあります。また、ゲームや DVD ソフトウェアなどのマルチメディアプログラムは、ユーザーの簡易切り替えでは動作しないことがあります。詳細については、Windows ヘルプとサポートセンターを参照してください。

家庭用および企業用ネットワークのセットアップ


ネットワークアダプタの接続

コンピュータをネットワークに接続する前に、お使いのコンピュータにネットワークアダプタが取り付けられていて、ネットワークケーブルが接続されている必要があります。

ネットワークケーブルを接続するには、次の手順を実行します。

 **メモ:** ケーブルをカチッと所定の位置に収まるまで差し込みます。次に、ケーブルを軽く引っ張り、ケーブルの接続を確認します。

1. ネットワークケーブルをコンピュータ背面にあるネットワークアダプタコネクタに接続します。

 **メモ:** ネットワークケーブルを電話ジャックに接続しないでください。


2. ネットワークケーブルのもう一方の端を壁のネットワークジャックなどのネットワーク接続デバイスに接続します。

ネットワークセットアップウィザード

Microsoft® Windows® XP オペレーティングシステムには、家庭または小企業のコンピュータ間で、ファイル、プリンタ、またはインターネット接続を共有するための手順を案内するネットワークセットアップウィザードがあります。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **通信** とポイントして、**ネットワークセットアップウィザード** をクリックします。

2. ネットワークセットアップウィザードの開始画面で、次へをクリックします。
3. ネットワーク作成のチェックリストをクリックします。

 **メモ:** インターネットに直接接続しているという接続方法を選択すると、Windows XP SP1 に設置されている内蔵ファイアウォールを使用することができます。

4. チェックリストのすべての項目に入力して、必要な準備を完了します。
5. ネットワークセットアップウィザードに戻り、画面の手順に従います。

[目次ページに戻る](#)